

東大阪市下水道事業関係 発掘調査概要報告

－ 平成17年度 －

2006. 3

東大阪市教育委員会

東大阪市下水道事業関係 発掘調査概要報告

－ 平成17年度 －

2006. 3

東大阪市教育委員会

例 言

1. 本書は、東大阪市教育委員会文化財課が、東大阪市建設局下水道部の委託を受け、平成16年12月～平成17年11月末日まで実施した公共下水道管きょ築造工事などに伴う埋蔵文化財調査の概要報告である。
2. 本書には出雲井遺跡群・花草山古墳群・千手寺山遺跡・山畑古墳群・客坊山遺跡群・日下遺跡・河内寺跡・法通寺跡・鬼塚遺跡・東高野街道・暗峠越奈良街道・岩滝山遺跡・六万寺古墳群・植附遺跡・神並遺跡・芝ヶ丘遺跡・辻子谷古墳群・半堂遺跡・辻子谷遺跡・額田寺跡・西ノ辻遺跡・孤塚遺跡・出雲井古墳群・みかん山古墳群・墓尾古墳群・正法寺山遺跡・浄土寺谷古墳群・馬場川遺跡・馬場遺跡・石凝寺跡・鬼虎川遺跡の概要を収録した。
3. 現場は才原金弘・福瀬哲生・市田英介・小川紀子（旧姓川本）・松田直子、遺物整理は現場担当者がおこない、報告の分担は各章の表に記した。
4. 本書に収録した現場写真は、各担当者が撮影し、遺物は株式会社毎日映画社に委託して実施した。
5. 土色名に数字が入っているものは、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準じている。
6. 土層断面柱状図の深さは現場地表面が0 mである。
7. 調査の実施にあたっては、東大阪市上下水道局下水道部のご協力のもと、施工業者ならびに近隣市民の方々のご協力を賜った他、現場作業および整理作業には、内田友希・岡本有子・岡本久美・宮本江理子・小畑恵子・阪口英治・田島繁一・松田誠人・北野行信・山尾史勇人・頭師典孝・佐野耕平・杉本篤志・義則憲三・秋山昌大・藤江隆夫・名古屋大輔・米田一平・永野綾乃・片山くみ子が従事した。これらの方々に記して感謝いたします。

目 次

第1章	平成17年度の下水道関係調査について	1
第2章	出雲井遺跡群の調査	4
第3章	花草山古墳群の調査	6
第4章	千手寺山遺跡の調査	8
第5章	山畑古墳群・客坊山遺跡群の調査	10
第6章	山畑（第28次）・花草山古墳群の調査	12
第7章	花草山古墳群の調査	20
第8章	日下遺跡の調査	22
第9章	河内寺跡の調査	24
第10章	法通寺跡の第3次調査	26
第11章	鬼塚遺跡・東高野街道・暗峠越奈良街道の調査	46
第12章	岩滝山遺跡・六万寺古墳群の調査	48
第13章	植附・神並遺跡の調査	50
第14章	芝ヶ丘遺跡の調査	52
第15章	辻子谷古墳群の調査	54
第16章	半堂遺跡の調査	56
第17章	山畑古墳群の調査	58
第18章	辻子谷遺跡の第3次調査	60
第19章	千手寺山遺跡の調査	66
第20章	芝ヶ丘遺跡の調査	68
第21章	額田寺跡の第3次調査	70
第22章	花草山古墳群の調査	78
第23章	西ノ辻遺跡の調査	80
第24章	孤塚遺跡・出雲井遺跡群の調査	82
第25章	みかん山古墳群の調査	84
第26章	岩滝山遺跡の第10次調査	86
第27章	千手寺山遺跡・墓尾古墳群の調査	93
第28章	神並遺跡の調査	95
第29章	正法寺山遺跡の調査	97
第30章	半堂遺跡・浄土寺谷古墳群の調査	99
第31章	馬場川遺跡の第18次調査	103
第32章	日下・馬場遺跡・石凝寺跡の調査	113
第33章	みかん山古墳群の調査	115
第34章	鬼虎川遺跡の調査	117
第35章	鬼虎川遺跡の調査	119

第1章 平成17年度の下水道関係調査について

下水道管理設工事に伴う発掘調査を平成11年度より東大阪市教育委員会が実施しており、8年が経過した。下水道工事はほとんどが東地区を中心におこなわれた。

今年度の調査件数及び調査内容の概略は下記の調査一覧表に記した。調査にあたり下水道部と文化財課で協議したが、今年も工事は道幅の狭い旧集落内や道路の迂回路が確保できない場所が多く立会調査が中心になった。また、交通量の問題から夜間工事になり、調査を断念した遺跡もある。

今年度の調査では馬場川遺跡の周辺で縄文時代～中世期の遺物が出土し、遺跡がさらに南と東に広がることが確認できたことは大きな成果である。

今回の収録した調査は平成16年12月1日より平成17年11月30日までに終了したものを対象とし、それ以後のものは次年度に報告することにした。

平成17年度下水道工事に伴う埋蔵文化財の調査一覧表

平成17年11月30日

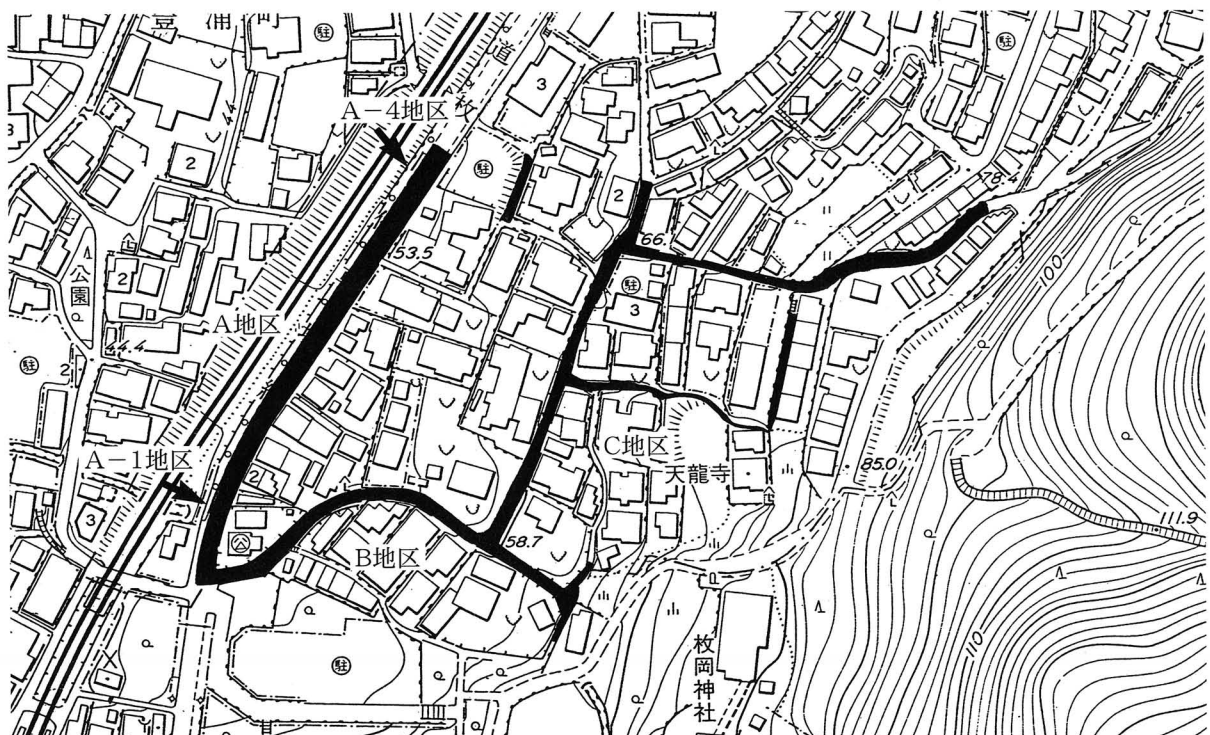
	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
1	15-337	下事115	出雲井遺跡群	平成14年度公共下水道第14-4工区管きよ築造工事	東豊浦町844-3他	立会	15.6.5 ～ 17.1.21	第2章で報告。
2	15-711	下事241	花草山古墳群	平成14年度公共下水道第35工区管きよ築造工事	上四条町1077他	立会	15.10.9 ～ 17.3.10	第3章で報告。
3	15-763	下事255	千手寺山遺跡	平成15年度公共下水道第14工区管きよ築造工事	上石切町1丁目1407他	立会	17.1.19 ～ 17.3.1	第4章で報告。
4	16-141	下事37	山畑古墳群・客坊山遺跡群	平成15年度公共下水道第40工区管きよ築造工事	客坊町1120～1132他	立会	16.10.22 ～ 17.1.7	第5章で報告。
5	16-152	下事39	山畑・花草山古墳群	平成15年度公共下水道第44工区管きよ築造工事	四条町448他	立会	16.6.7 ～ 17.5.25	第6章で報告。
6	16-418	下事126	花草山古墳群	平成15年度公共下水道第51工区管きよ築造工事	上四条町2071他	立会	16.8.2 ～ 16.12.21	第7章で報告。
7	16-500	下事152	日下遺跡	平成15年度公共下水道第58工区管きよ築造工事	日下町2丁目1147他	立会	16.11.8 ～ 17.3.7	第8章で報告。
8	16-631	下事182	出雲井遺跡群	平成15年度公共下水道第70工区管きよ築造工事(その1)	五条町1～5	立会		連絡の不幸際により立会調査を実施できなかった。
9	16-632	下事183	河内寺跡	平成15年度公共下水道第70工区管きよ築造工事(その2)	客坊町700～721他	立会	16.9.24 ～ 16.12.3	第9章で報告。
10	16-633	下事184	法通寺跡	平成15年度公共下水道第64工区管きよ築造工事	東石切町1丁目595他	立会	16.11.4 ～ 17.1.7	第10章で報告。
11	16-634	下事185	鬼塚遺跡・東高野街道・暗峠越奈良街道	平成15年度公共下水道第301工区管きよ築造工事	南荘町1786他	立会	16.11.5 ～ 17.1.31	第11章で報告
12	16-635	下事186	岩滝山遺跡・六万寺古墳群	平成16年度公共下水道第12工区管きよ築造工事	六万寺町1丁目1602～1604	立会	16.11.25 ～ 16.12.13	第12章で報告。

	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
13	16-636	下事187	植附・神並遺跡	平成15年度公共下水道第45工区管きよ築造工事	中石切町447～456他	立会	16.10.14 ～ 17.8.29	第13章で報告。
14	15-685	下事200	芝ヶ丘遺跡	平成15年度公共下水道第57工区管きよ築造工事	日下町2丁目1441～1508	立会	16.11.2 ～ 17.1.28	第14章で報告。
15	15-692	下事199	辻子谷古墳群	平成15年度公共下水道第37工区管きよ築造工事	上石切町2丁目1322他	立会	17.2.18 ～ 17.2.24	第15章で報告。
16	16-693	下事203	半堂遺跡	平成16年度公共下水道第103工区管きよ築造工事	六万寺町1丁目164	立会	17.6.10 ～ 17.6.22	第16章で報告。
17	16-694	下事204	山畑古墳群	平成16年度公共下水道第16工区管きよ築造工事	四条町353、上四条町2021他	立会	17.1.20 ～ 17.6.21	第17章で報告。
18	16-695	下事205	植附遺跡	平成15年度公共下水道第65工区管きよ築造工事	西石切町1丁目49他	立会	17.3.31 ～	調査中。
19	16-696	下事206	辻子谷遺跡	平成15年度公共下水道第63工区管きよ築造工事	中石切町1丁目198他	立会	17.3.10 ～ 17.6.27	第18章で報告。
20	16-697	下事207	千手寺山遺跡	平成16年度公共下水道第18工区管きよ築造工事	東石切町2丁目402他	立会	17.2.4 ～ 17.3.11	第19章で報告。
21	16-698	下事208	芝ヶ丘遺跡	平成16年度公共下水道第101工区管きよ築造工事	北石切町2214～2262	立会	16.12.3 ～ 17.1.7	第20章で報告。
22	16-699	下事212	額田寺跡	平成16年度公共下水道第102工区管きよ築造工事	南荘町300-4～396-3、東山町724～755-6	立会	17.2.9 ～ 17.4.15	第21章で報告。
23	16-747	下事219	花草山古墳群	平成16年度公共下水道第15工区管きよ築造工事	上四条町1190-8他	立会	17.5.26 ～ 17.11.21	第22章で報告。
24	16-811	下事242	正法寺山・芝坊主山遺跡他	平成15年度公共下水道第55工区管きよ築造工事	日下町1丁目157～1582、1672	立会	17.2.18 ～	調査中。
25	16-813	下事244	西ノ辻遺跡	平成15年度公共下水道第38工区管きよ築造工事	東山町1071～1072	立会	16.12.1 ～ 16.12.13	第23章で報告。
26	16-814	下事245	狐塚遺跡・出雲井遺跡群	平成15年度公共下水道第46工区管きよ築造工事	出雲井町197、喜里川町34～78他	立会	16.11.11 ～ 17.6.17	第24章で報告。
27	16-815	下事247	みかん山古墳群	平成15年度公共下水道第24及び203工区管きよ築造工事	山手町234～594、229～238	立会	17.5.23 ～ 17.11.2	第25章で報告。
28	17-40	下事7	山畑・花草山古墳群	平成16年度公共下水道第22工区管きよ築造工事	上四条町1431～1574、1462～1470	立会	17.9.8 ～	調査中。
29	17-41	下事8	正法寺山遺跡	平成16年度公共下水道第20工区管きよ築造工事	日下町1丁目1596～1597	立会		平成17年1月25日受付
30	17-57	下事19	岩滝山遺跡	平成16年度公共下水道第34工区管きよ築造工事	六万寺町1丁目870～879	立会	17.3.9 ～ 17.8.4	第26章で報告。
31	17-58	下事20	五里山古墳群	平成16年度公共下水道第28工区管きよ築造工事	上四条町1171～1745	立会		平成17年2月2日受付
32	17-73	下事29	千手寺山遺跡・墓尾古墳群	平成16年度公共下水道第25工区管きよ築造工事	上石切町2丁目1424～1426-3他	立会	17.7.6 ～	調査中。
33	17-74	下事30	千手寺山遺跡・墓尾古墳群	平成16年度公共下水道第24工区管きよ築造工事	上石切町2丁目1422～1426-4他	立会	17.7.27 ～ 17.11.14	第27章で報告。
34	17-98	下事41	神並遺跡	平成16年度公共下水道第31工区管きよ築造工事	東石切町2丁目926～928	立会	17.7.8 ～ 17.10.7	第28章で報告。

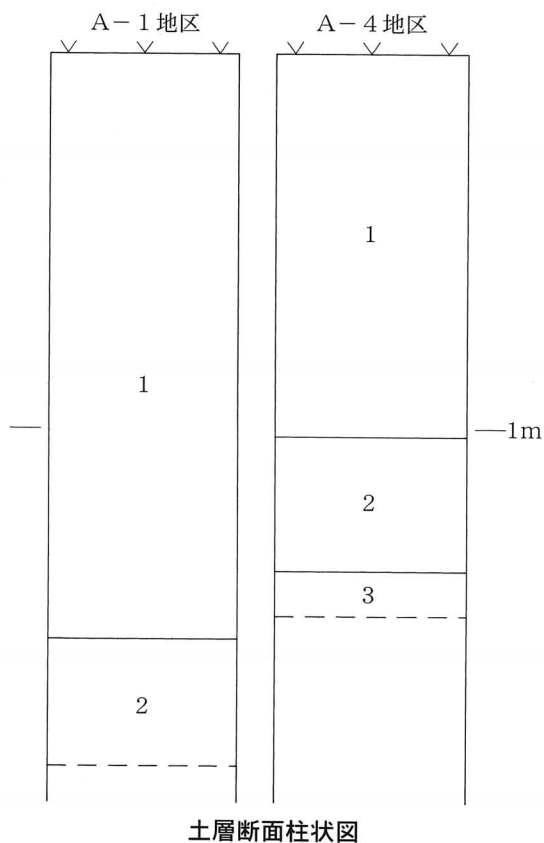
	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
35	17-123	下事53	正法寺山遺跡	平成16年度公共下水道第27工区管きよ築造工事	日下町1丁目1022~1027他	立会	17.6.6 ~ 17.10.12	第29章で報告。
36	17-124	下事55	神並古墳群	平成16年度公共下水道管きよ築造工事(2-5)	東石切町3丁目1168-1~1171-1	慎重		立会調査の予定であったが夜間工事となったので、慎重に変更。工事实施。
37	17-135	下事55	半堂遺跡・浄土寺谷古墳群	六万寺里道整備工事	六万寺町1丁目218~276-1~横小路町1丁目220~252	確認	17.3.23 ~ 17.6.30	第30章で報告。
38	17-148	下事56	馬場川遺跡	平成16年度公共下水道第23工区管きよ築造工事	横小路町3丁目721~1147	立会	17.5.9 ~ 17.8.31	第31章で報告。
39	17-149	下事63	日下・馬場遺跡・石凝寺跡	平成16年度公共下水道第33工区管きよ築造工事	日下町2丁目1431-1~1451他	立会	17.8.5 ~ 17.10.27	第32章で報告。
40	17-225	下事75	半堂・貝花遺跡	平成16年度公共下水道第47工区管きよ築造工事	横小路町1丁目561~577・2丁目87~92・546~549	立会	16.7.6 ~	調査中。
41	17-226	下事84	豊浦谷古墳群・暗峠越奈良街道	平成16年度公共下水道第50工区管きよ築造工事	東豊浦町843~1175	立会		平成17年5月13日受付。
42	17-227	下事86	西ノ辻・鬼虎川遺跡	平成16年度公共下水道第204工区管きよ築造工事	弥生町1274~1278・1306~1317	立会		夜間工事のため、立会調査を実施することができなかった。
43	17-228	下事90	出雲井遺跡群	平成16年度公共下水道第11工区管きよ築造工事	東豊浦町869~889	立会	17.7.6 ~	調査中。
44	17-236	下事85	みかん山古墳群	平成16年度公共下水道第52工区管きよ築造工事	東豊浦町985~2165	立会	17.6.22 ~ 17.8.29	第33章で報告。
45	17-268	下事98	鬼虎川遺跡	平成16年度公共下水道第207工区管きよ築造工事	西石切町7丁目193~200・201	立会	17.5.16 ~ 17.6.28	第34章で報告。
46	17-269	下事99	法通寺跡	平成16年度公共下水道第39工区管きよ築造工事	東石切町1丁目856~858他	立会	17.9.30 ~	調査中。
47	17-298	下事107	鬼虎川遺跡	平成16年度公共下水道第206工区管きよ築造工事	弥生町1468~1487	立会		平成17年6月20日受付。
48	17-299	下事111	鬼虎川遺跡	平成16年度公共下水道第205工区管きよ築造工事	弥生町1359~1361・1337~1508	立会	17.8.23 ~ 17.9.8	第35章で報告。
49	17-385	下事142	辻子谷・植附遺跡	平成16年度公共下水道第35工区管きよ築造工事	中石切町2丁目183~204	立会		平成17年7月29日受付
50	17-436	下事160	上六万寺遺跡	平成17年度公共下水道第101工区管きよ築造工事	南四条町992~1007、1021、上六万寺町1962~1963	立会		平成17年8月31日受付。
51	17-437	下事	山畑遺跡・古墳群・客坊山古墳群	平成17年度公共下水道第10工区管きよ築造工事	客坊町1031~1033、上四条町1797~2035	立会	17.9.2 ~	調査中。
52	17-508	下事184	岩滝山遺跡	平成17年度公共下水道第12工区管きよ築造工事	六万寺町1丁目1590、1604	立会		平成17年10月5日受付。
53	17-593	下事204	小若江遺跡	平成17年度公共下水道第15工区管きよ築造工事	新上小阪653番地	発掘調査		平成17年11月11日受付。

第2章 いずもい 出雲井遺跡群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成14年度公共下水道第14-4工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東豊浦町844-3~444-5、874~894
3	調 査 面 積	622㎡
4	調 査 期 間	平成15年6月5日~17年1月21日 (延べ38日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡神社の北である。当地点は出雲井遺跡群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ731mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



A 地区調査地遠景



A-1 地区土層断面



A-4 地区土層断面

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂～大礫
混じり粘質シルト。

A-4 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗緑灰色(5G3/1)細粒砂～小礫
混じり粘質シルト。

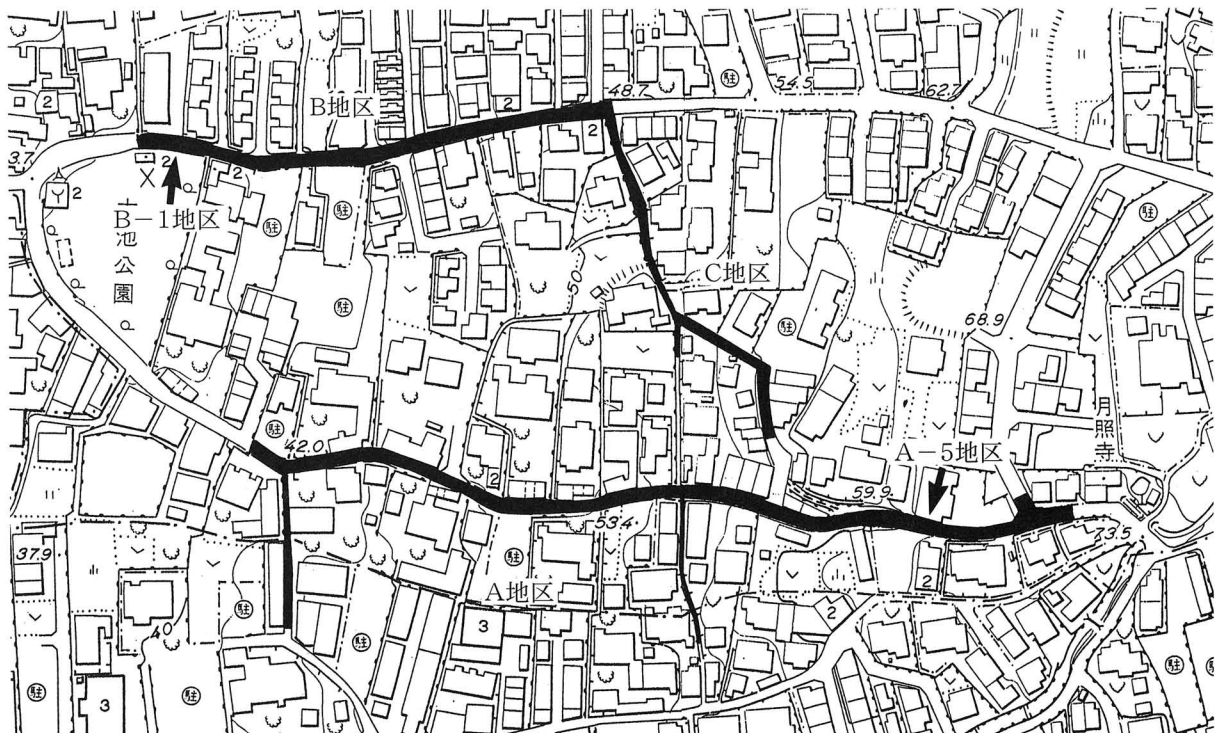
第3層 暗緑灰色(5G4/1)細粒砂混じり
粘質シルト。

2. まとめ

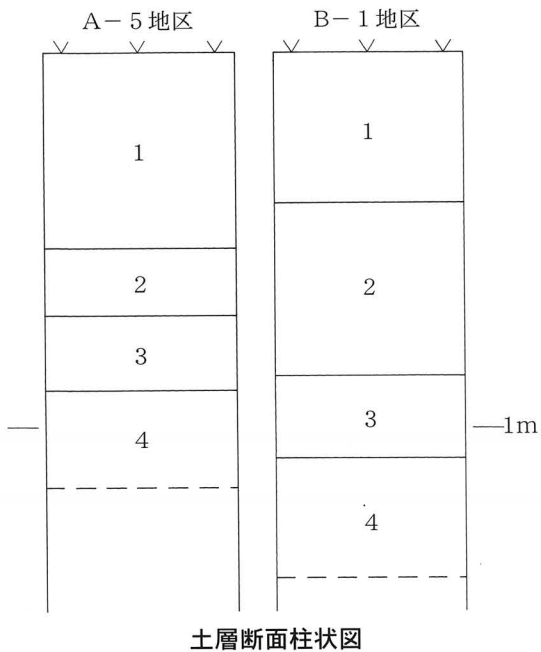
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出
できなかつた。A地区以外は、計画変更により
工事が中止になった。

はなくさやま
第3章 花草山古墳群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成14年度公共下水道第35工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市上四条町1077～1132他
3	調 査 面 積	593㎡
4	調 査 期 間	平成15年10月9日～17年3月10日（延べ56日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は上四条小学校の南である。当地点は花草山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ698mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



A地区調査地遠景



A-5地区土層断面



B-1地区土層断面

1. 調査の概要

A-5地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じりシルト。

B-1地区の層序

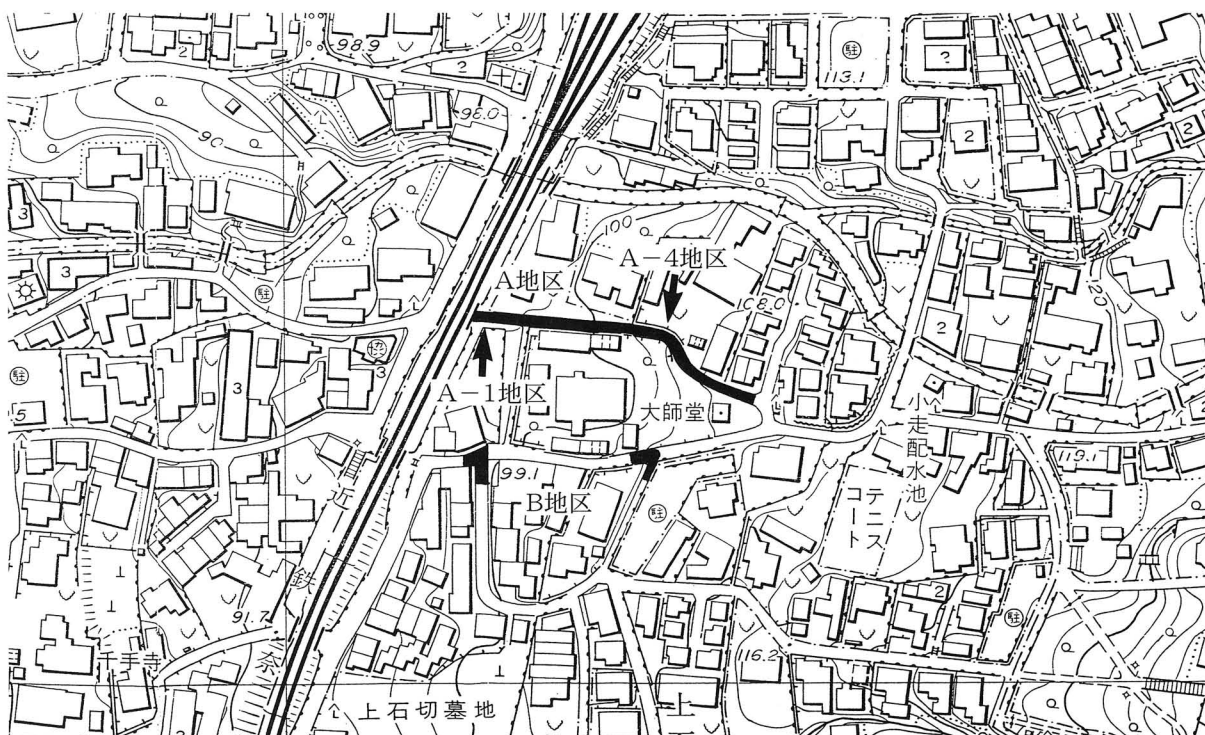
- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ黒色(5Y3/2)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 黒色(5Y2/1)中粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じりシルト。

2. まとめ

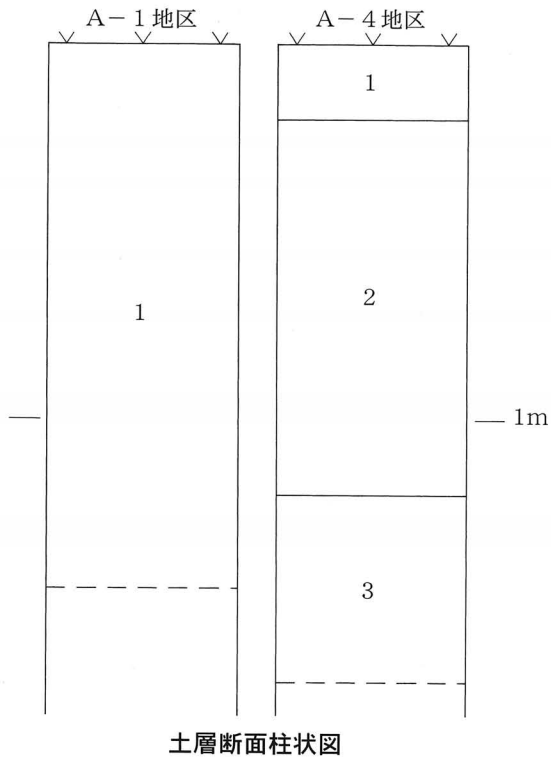
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

せんじゅじやま 第4章 千手寺山遺跡の調査

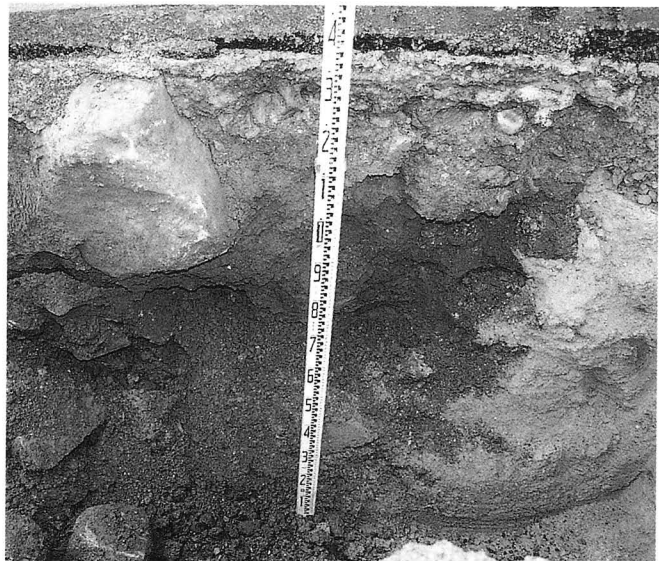
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第14工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市上石切町1丁目1407～1420-1他
3	調 査 面 積	90㎡
4	調 査 期 間	平成17年1月19日～3月1日（延べ9日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の南東である。当地点は千手寺山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ106mの間であり、開削工法と一部推進工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



A 地区調査地遠景



A-1 地区土層断面



A-4 地区土層断面

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

A-4 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)小～巨礫混じりシルト。

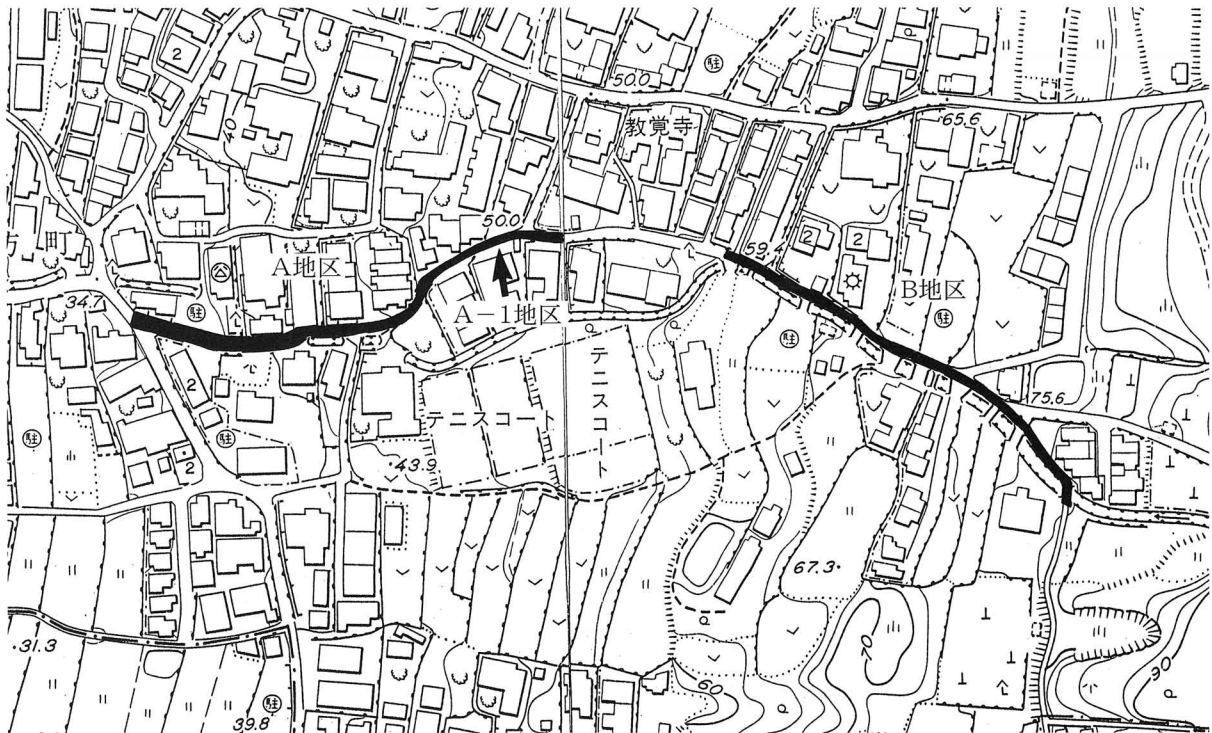
第3層 黄褐色(2.5Y5/4)小～中礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

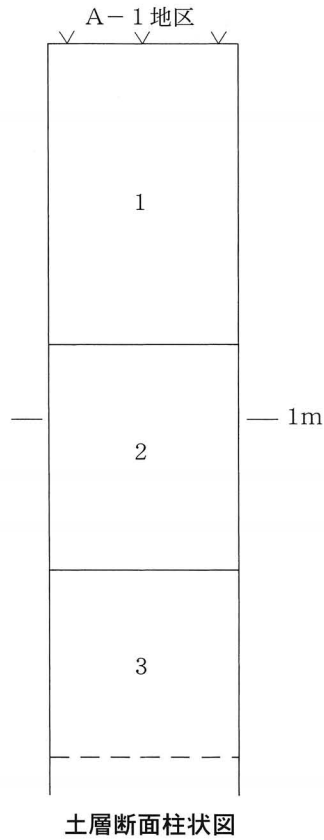
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第5章 やまはた 山畑古墳群・きゃくぼうやま 客坊山遺跡群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第40工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市客坊町1120～1132他
3	調 査 面 積	208㎡
4	調 査 期 間	平成16年10月22日～17年1月7日（延べ11日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線瓢箪山駅の北東である。当地点は山畑古墳群・客坊山遺跡群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ202mの間であり、開削工法と推進工法である。一部、夜間工事のため立会調査ができなかった。



調査地点位置図 (1/2500)



1. 調査の概要

A-1地区の層序

第1層 盛土。

第2層 灰オリーブ色(5Y5/2)小～中礫混じりシルト。

第3層 暗灰黄色(2.5Y5/2)小～中礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

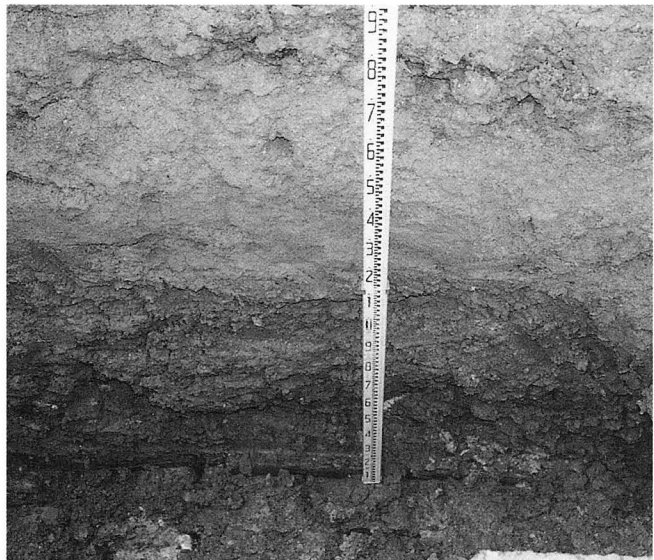
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



A地区調査地遠景



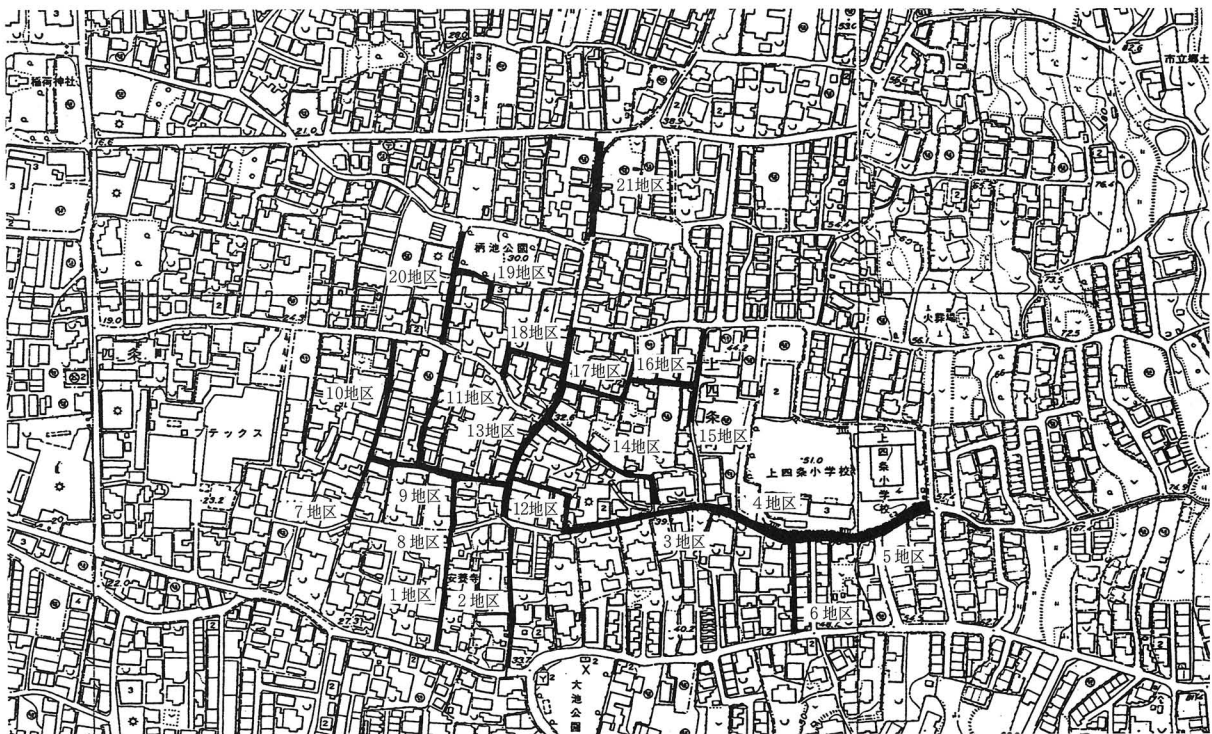
A地区調査状況



A-1地区土層断面

やまはた
はなくさやま
第6章 山畑 (第28次) ・花草山古墳群の調査

名 称	内 容
1 事 業 名	平成15年度公共下水道第44工区管きよ築造工事
2 調 査 地 点	東大阪市四条町448～452、457～472他
3 調 査 面 積	1338㎡
4 調 査 期 間	平成16年6月7日～17年5月25日 (延べ71日)
5 報 告 担 当	松田
6 調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は上四条小学校の西である。当地点は山畑・花草山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ1574mの間であり、開削工法である。</p>



調査地点位置図 (1/5000)

1. 調査の概要

調査地区は便宜上1～21地区に分けた。そのうち、1・2・7地区は遺跡の範囲外であるため、立会調査を行わなかった。14区と15区で遺物が出土した。6地区の南端部は花草山古墳、その他は山畑古墳群に当たる。

2. 層序

5－5地区の層序

第1層 盛土

8－1地区の層序

第1層 盛土

第2層 黒褐色(10YR2/2)細粒砂混じり粘質シルト。

第3層 暗褐色(10YR3/3)中粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。

第4層 黒褐色(10YR3/2)細粒砂混じりシルト。

10－5地区の層序

第1層 盛土

第2層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じり粘質シルト。

第3層 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混じりシルト。

第4層 黄灰色(2.5Y4/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第5層 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)細粒砂。

12－4地区の層序

第1層 盛土

第2層 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第3層 灰色(5Y4/1)中粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。中礫が多い。

第4層 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

13－8地区の層序

第1層 盛土

第2層 黒色(2.5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。中礫が多い。

第3層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

14－2地区の層序

第1層 盛土

第2層 黒褐色(10YR2/2)細粒砂混じりシルト。中世期の遺物が出土。

第3層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

15－5地区の層序

第1層 盛土

第2層 黒褐色(10YR2/2)粗粒砂混じり粘質シルト。中世期の遺物が出土。

20－7地区の層序

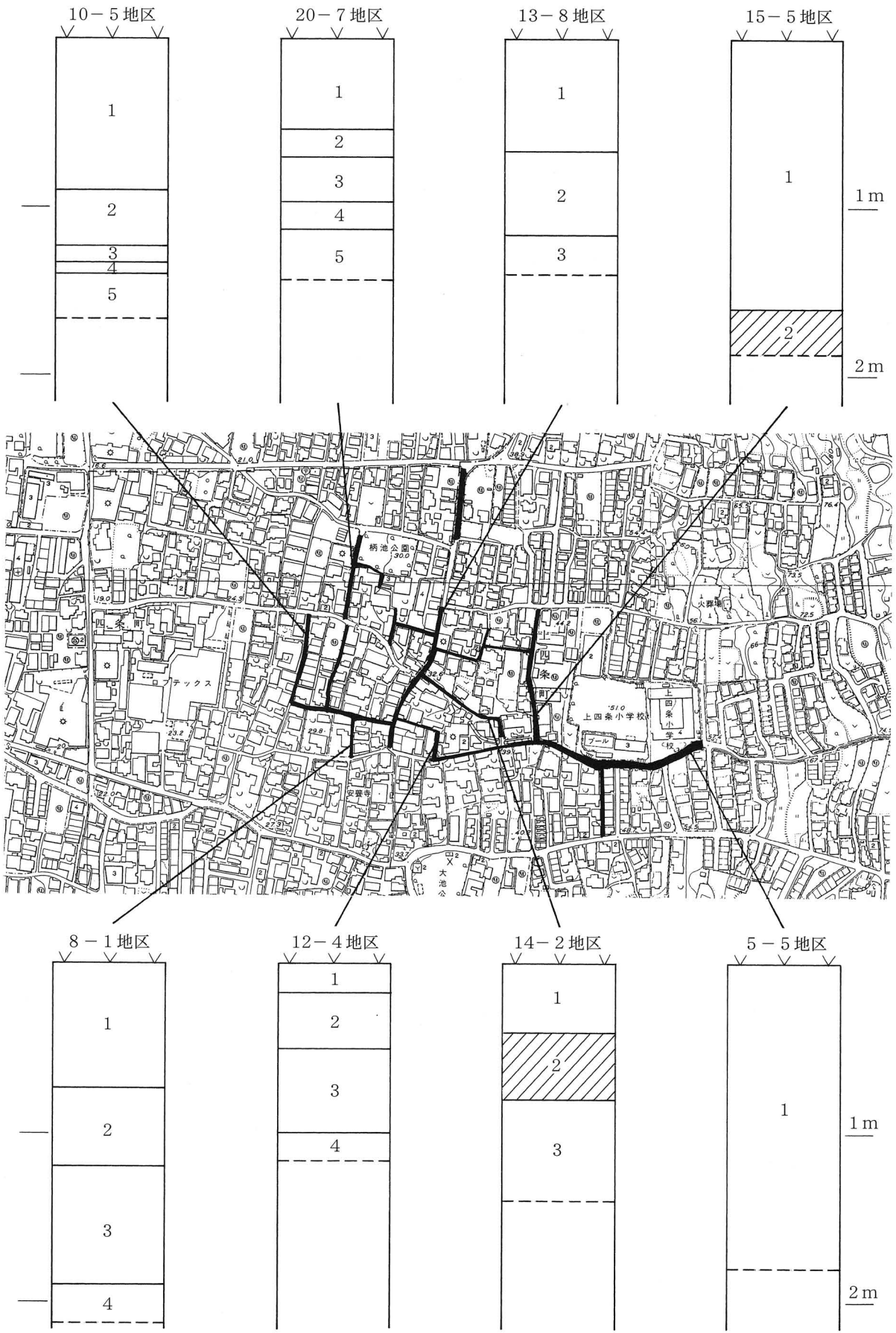
第1層 盛土

第2層 黒色(2.5GY2/1)粘土。

第3層 黒色(10Y2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第4層 暗緑灰色(7.5GY3/1)中粒砂混じりシルト～粘質シルト。

第5層 オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土。



土層断面柱状図

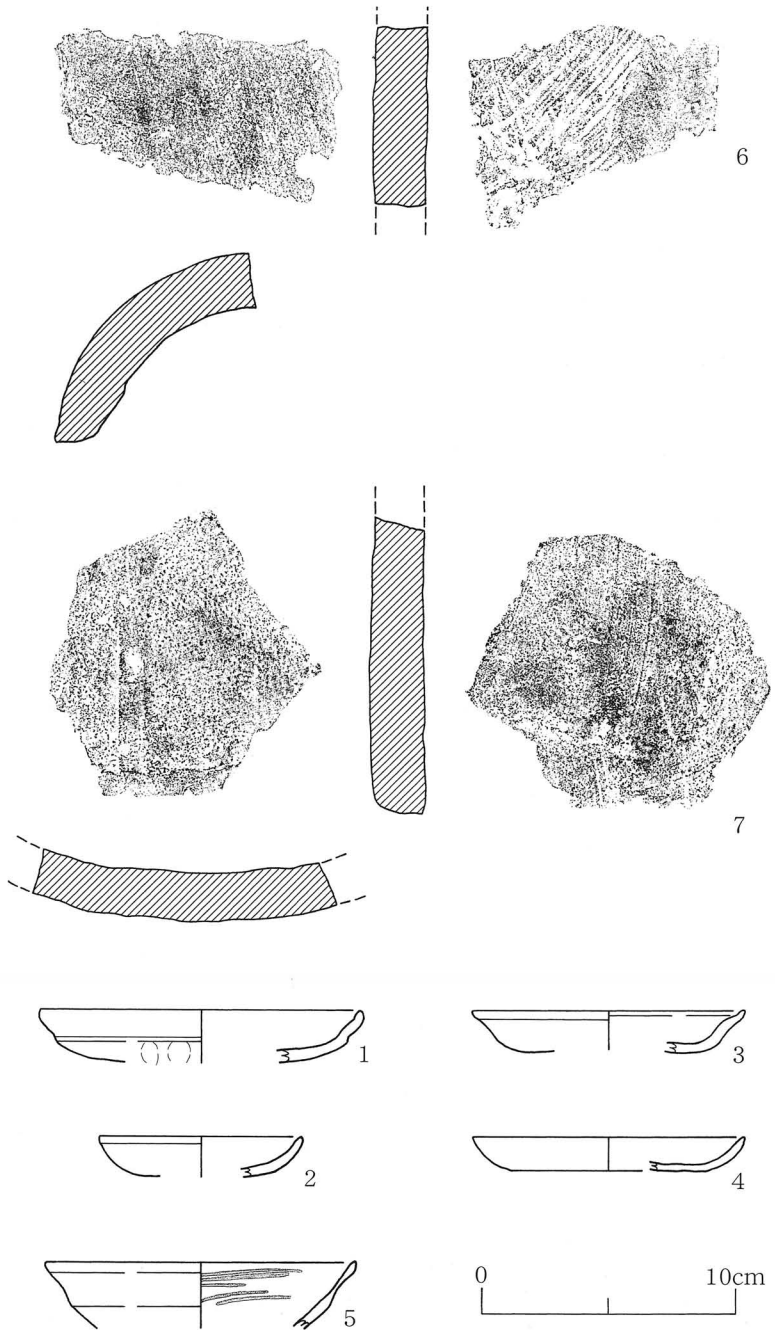
3. 出土遺物

今回の調査では、土師器、瓦器、須恵器、瓦などが出土した。細片であり、図化できたのは7点である。須恵器は図化できるものがなかった。瓦器碗は尾上実氏編年『概説 中世の土器・陶磁器』1995年を参考にした。

1～4は土師器の皿である。1は口縁部と体部の境にヨコナデ調整による段がある。口縁端部はやや面を持つ。内外面はナデ調整する。底部外面に指頭圧痕が残る。口径は12.6cm、残存高は2.1cmを測る。13世紀中頃のものである。2は口縁端部が丸く終わる。やや小型である。内外面はナデ調整する。口径は8.0cm、残存高は1.6cmを測る。13世紀のものである。3は体部と底部の境をわずかに屈曲させる。口縁端部は尖り気味に終わる。内外面はナデ調整する。底部外面に指頭圧痕が残る。口径は10.6cm、残存高は1.6cmを測る。13世紀後半のものである。4は口縁端部が丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は10.6cm、残存高は1.4cmを測る。13世紀のものである。1・2は14-2地区、3・4は15-6地区より出土した。

5は和泉型の瓦器碗である。口縁部は外上方へ立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。内面はヘラミガキ調整、外面はナデ調整する。口径は12.2cm、残存高は2.7cmを測る。尾上編年のIV-1期に相当する。13世紀中頃～後半のものである。14-2地区より出土した。

6・7は瓦である。6は丸瓦である。凹面は布目圧痕の上にハケメ調整する。凸面はナデ調整する。残存長は7.0cm、残存幅は7.8cm、厚さは2.2cmを測る。7は平瓦である。凹・凸面に離れ砂が付着している。残存長は11.2cm、残存幅は11.9cm、厚さは1.9cmを測る。中世期のものである。15-6地区より出土した。



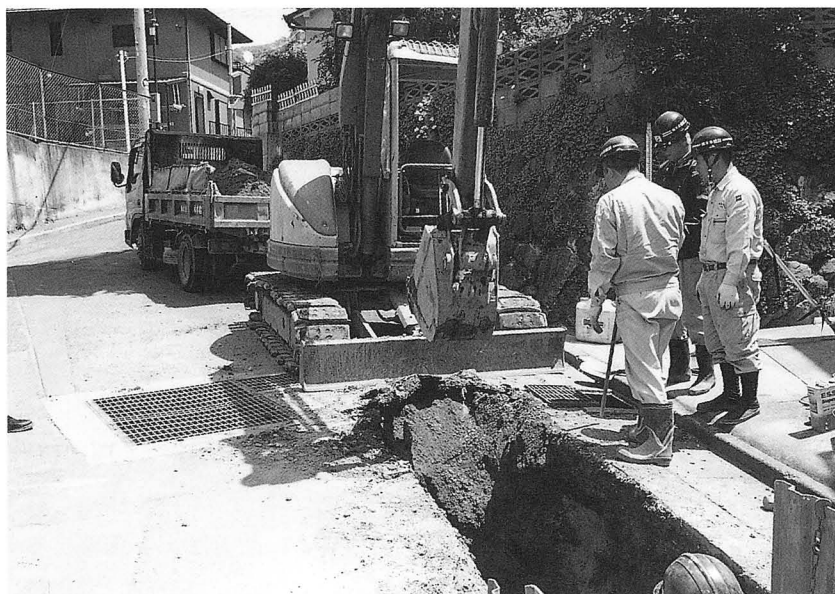
出土遺物実測図

4. まとめ

山畑古墳群は生駒山西麓につくられた6世紀前半～7世紀初頭の群集墳である。調査地区周辺では、以前の調査で弥生時代～近世期にかけての遺構・遺物が確認されている。今回の調査では、14-2地区と15-6地区を中心に中世期の遺物が出土した。遺構は検出できなかったが、この周辺に中世期の集落が広がっている可能性がある。また、瓦も出土しており、寺院関連の遺構が存在することも考えられる。



調査地遠景



調査状況



8-1 地区土层断面



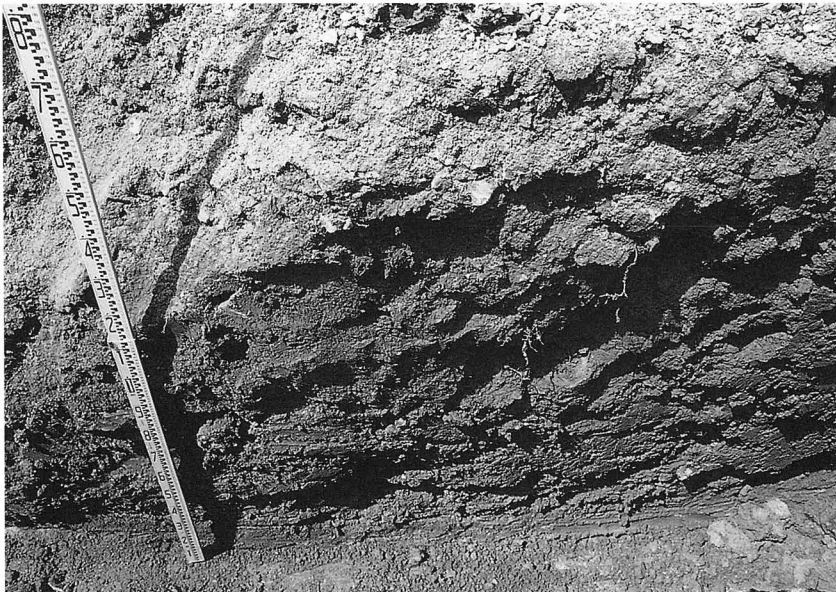
10-5 地区土层断面



13-8 地区土层断面



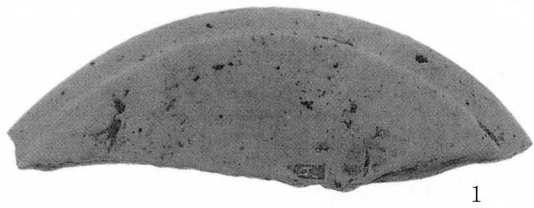
14-2 地区土层断面



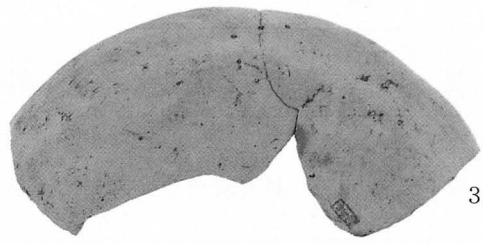
15-5 地区土层断面



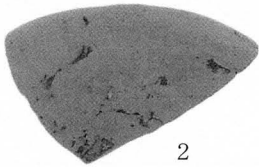
20-7 地区土层断面



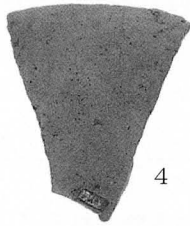
1



3



2



4



5

出土遺物（土師器・瓦器）



6

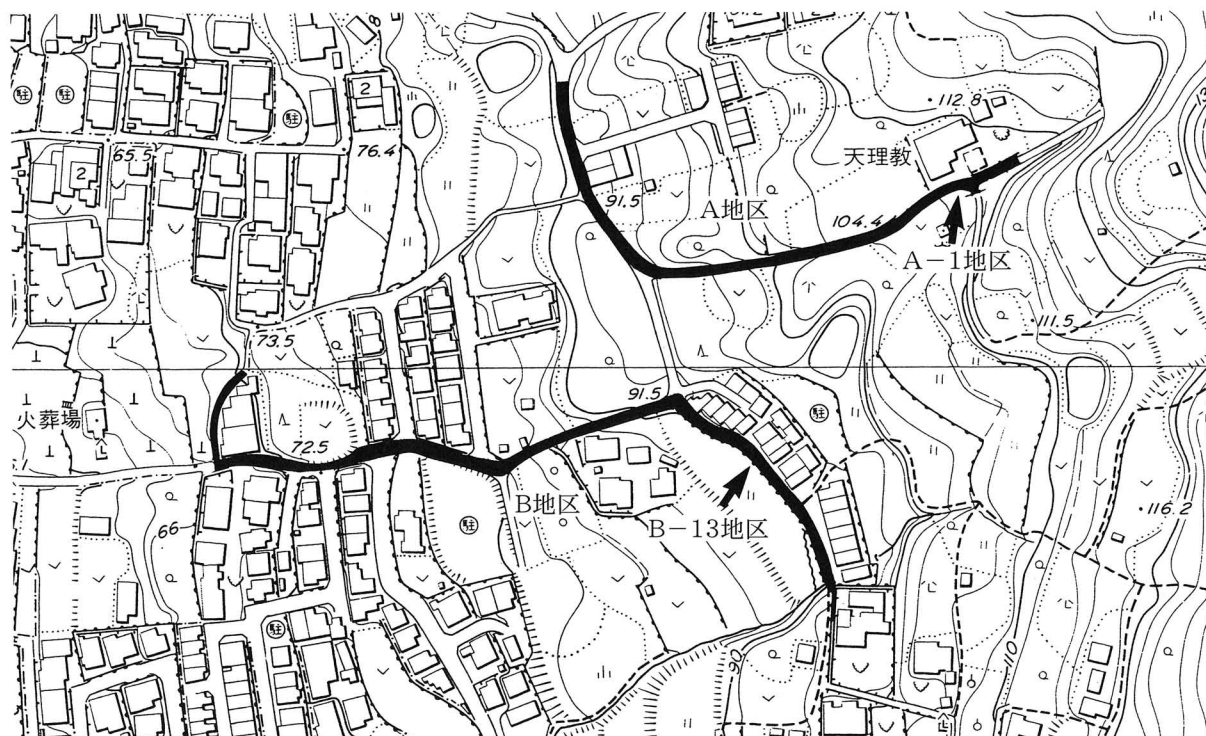


7

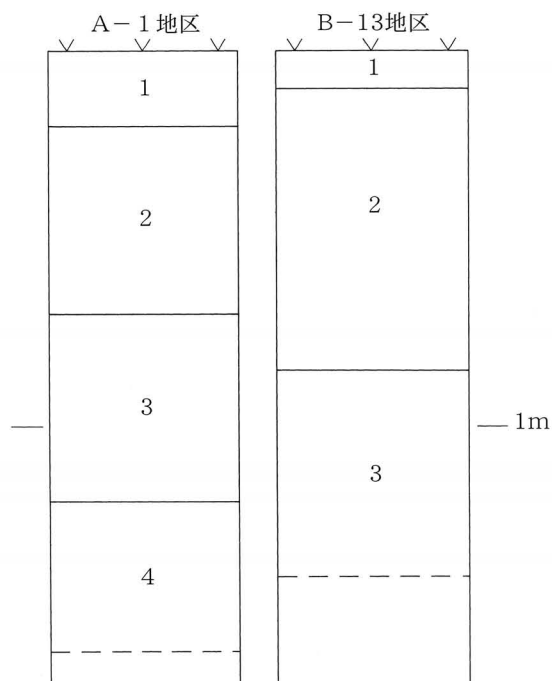
出土遺物（瓦）

はなくさやま
第7章 花草山古墳群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第51工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市上四条町2071~2077、1517~2111
3	調 査 面 積	424m ²
4	調 査 期 間	平成16年8月2日~12月21日 (延べ19日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は上四条小学校の東である。当地点は花草山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ498mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図



A地区調査地遠景



A-1地区土層断面



B-13地区土層断面

1. 調査の概要

A-1地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(10YR3/2)小～中礫混じり粘質シルト。

第3層 灰黄褐色(10YR4/2)小礫混じりシルト。

第4層 オリーブ褐色(2.5Y4/3)中～大礫混じり粘質シルト。

B-13地区の層序

第1層 盛土。

第2層 オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂混じりシルト。

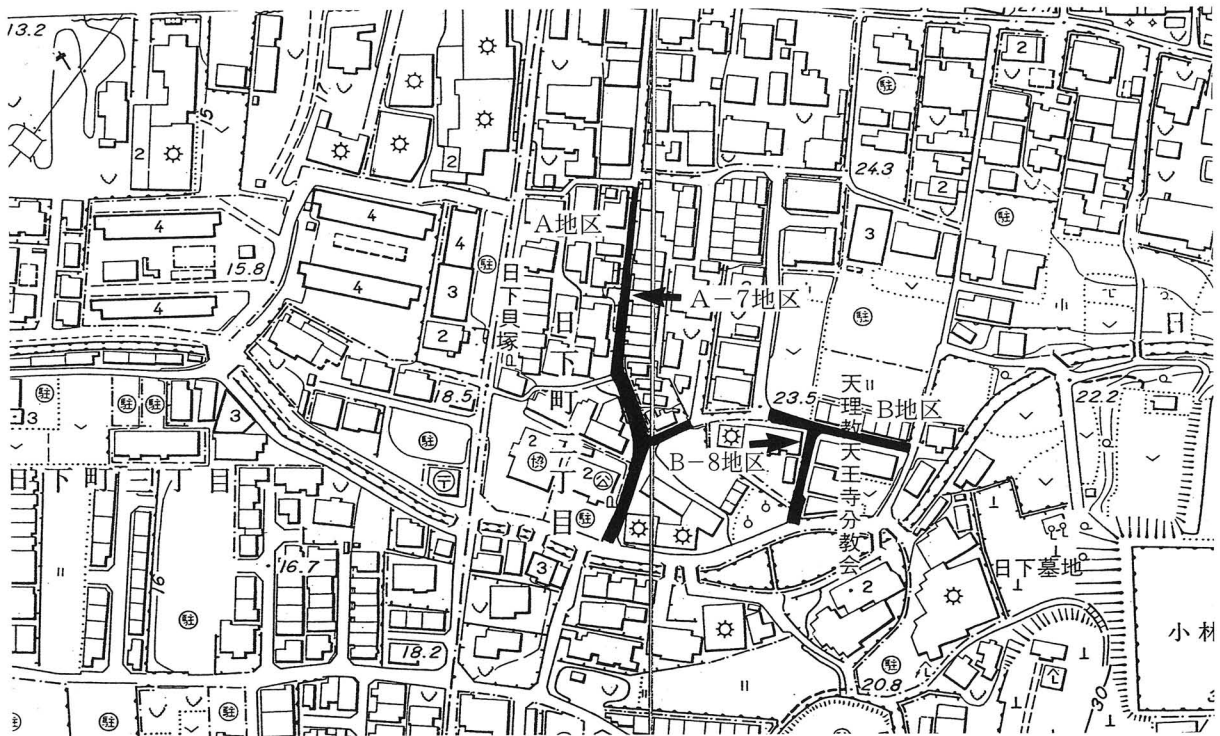
第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)小～大礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

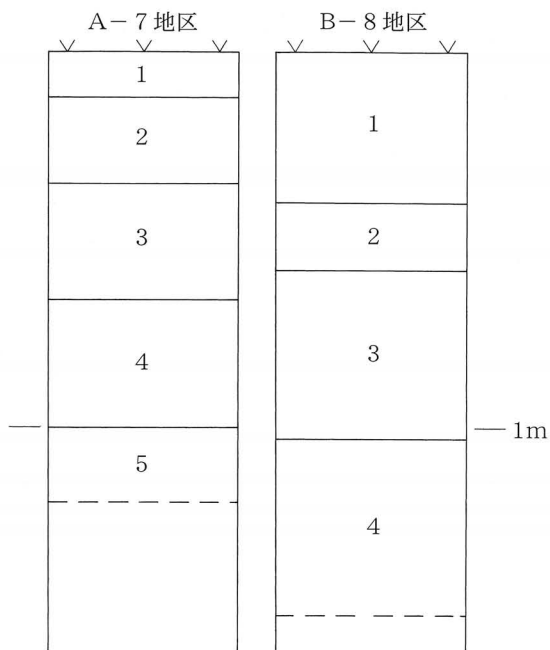
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

くさか 第8章 日下遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第58工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市日下町2丁目1147～1163他
3	調 査 面 積	353m ²
4	調 査 期 間	平成16年11月8日～17年3月7日（延べ25日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は孔舎衛東小学校の南である。当地点は日下遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ407mの間であり、開削工法である。</p>



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図



A 地区調査地遠景



A-7 地区土層断面

1. 調査の概要

A-7 地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂混じりシルト。
- 第5層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂。

B-8 地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗灰黄褐色(2.5Y4/2)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 にぶい黄褐色(10YR5/3)中粒砂混じりシルト。
- 第4層 灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂。

2. まとめ

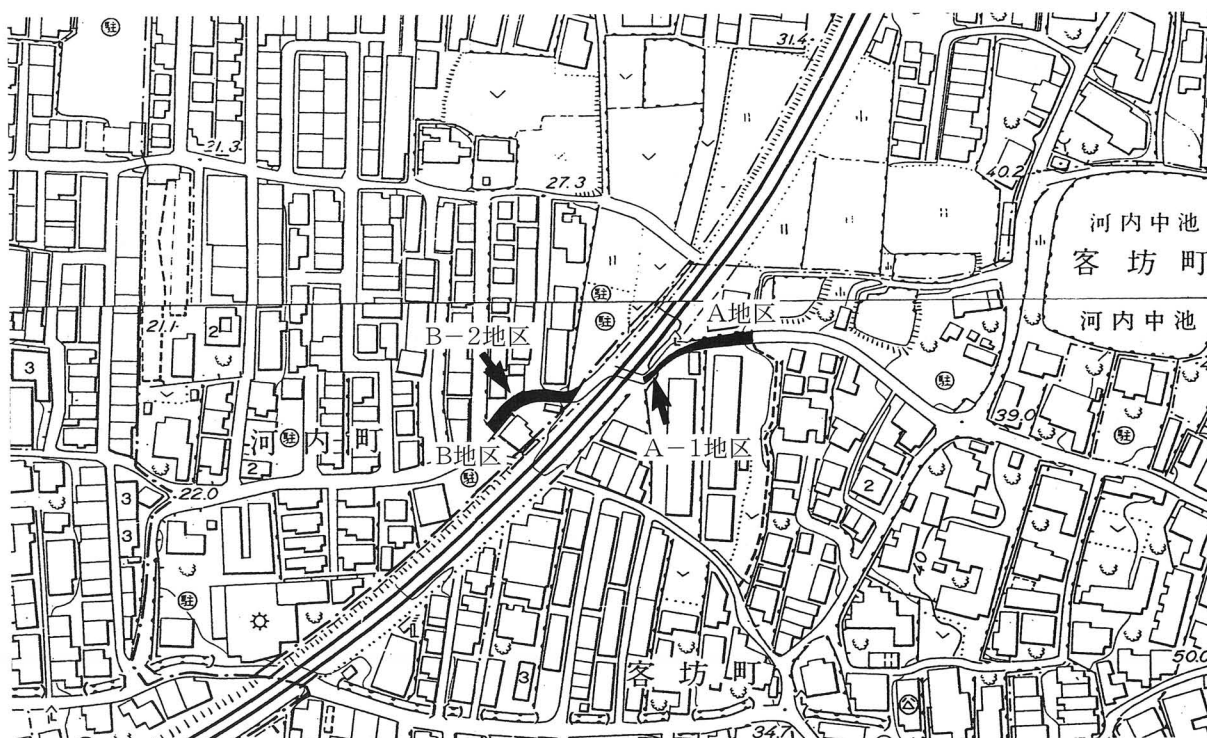
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



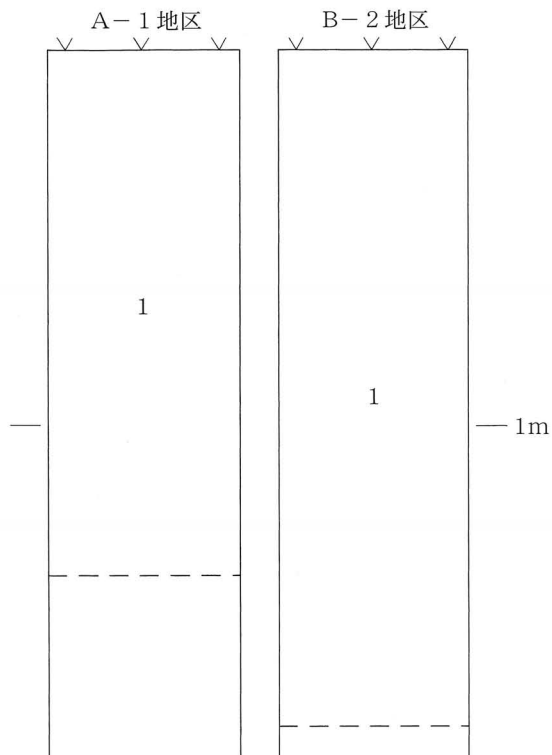
B-8 地区土層断面

第9章 かわちでら 河内寺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第70工区管きよ築造工事（その2）
2	調 査 地 点	東大阪市客坊町700～721他
3	調 査 面 積	155㎡
4	調 査 期 間	平成16年9月24日～12月3日（延べ14日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線瓢箪山駅の北東である。当地点は河内寺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ164mの間であり、開削工法である。



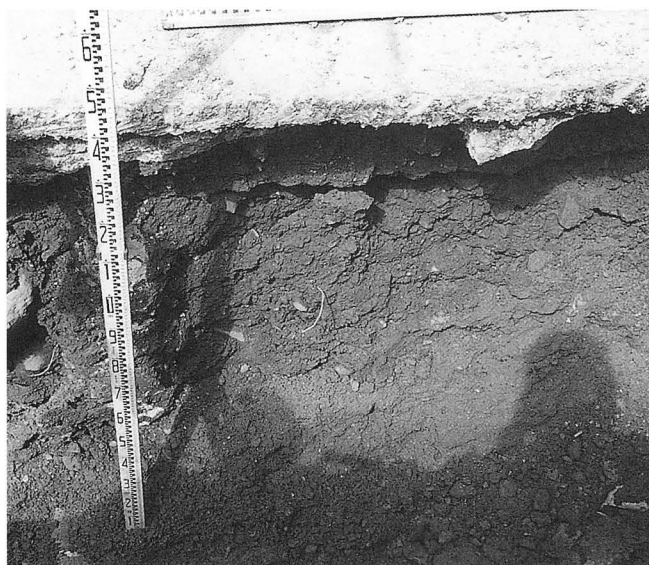
調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図



A地区調査地遠景



A-1地区土層断面



B-2地区土層断面

1. 調査の概要

A-1地区の層序

第1層 盛土。

B-2地区の層序

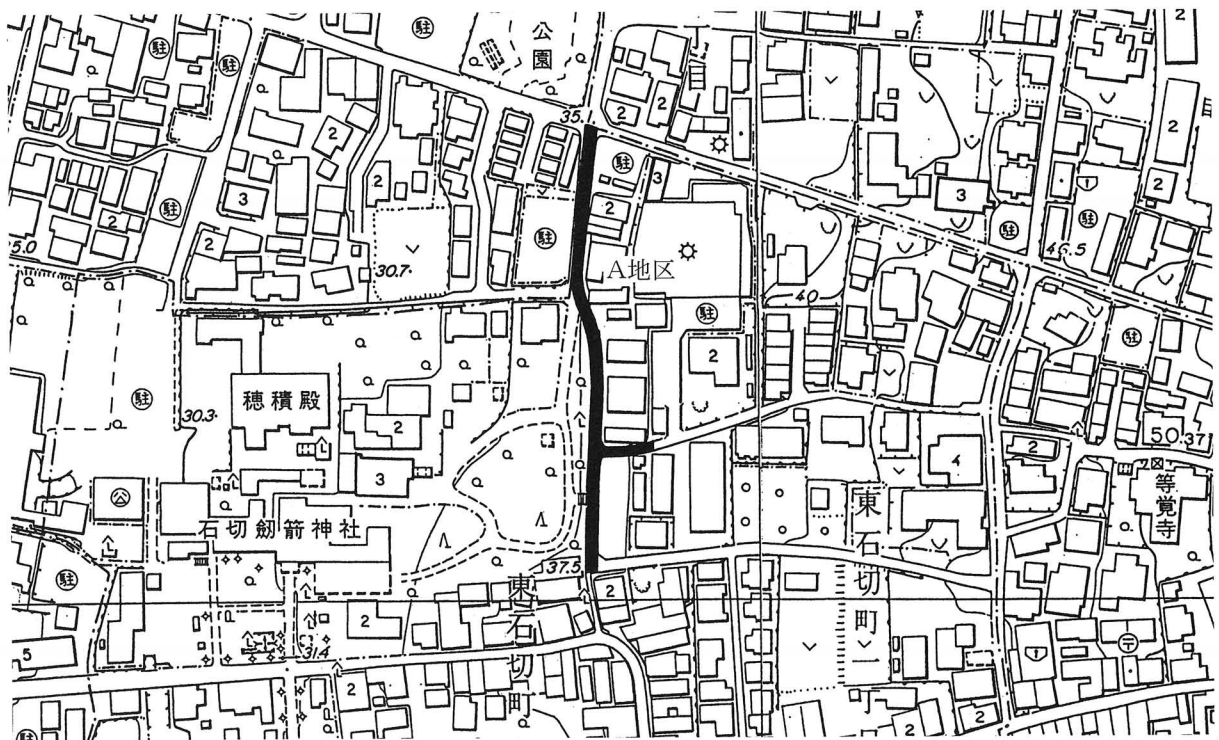
第1層 盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第10章 ほうつうじ 法通寺跡の第3次調査

名 称	内 容
1 事業名	平成15年度公共下水道第64工区管きよ築造工事
2 調査地点	東大阪市東石切町1丁目595～843
3 調査面積	183㎡
4 調査期間	平成16年11月4日～17年1月7日（延べ29日）
5 報告担当	福瀬
6 調査の経過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切神社の東である。当地点は法通寺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ215mの間であり、開削工法である。</p>



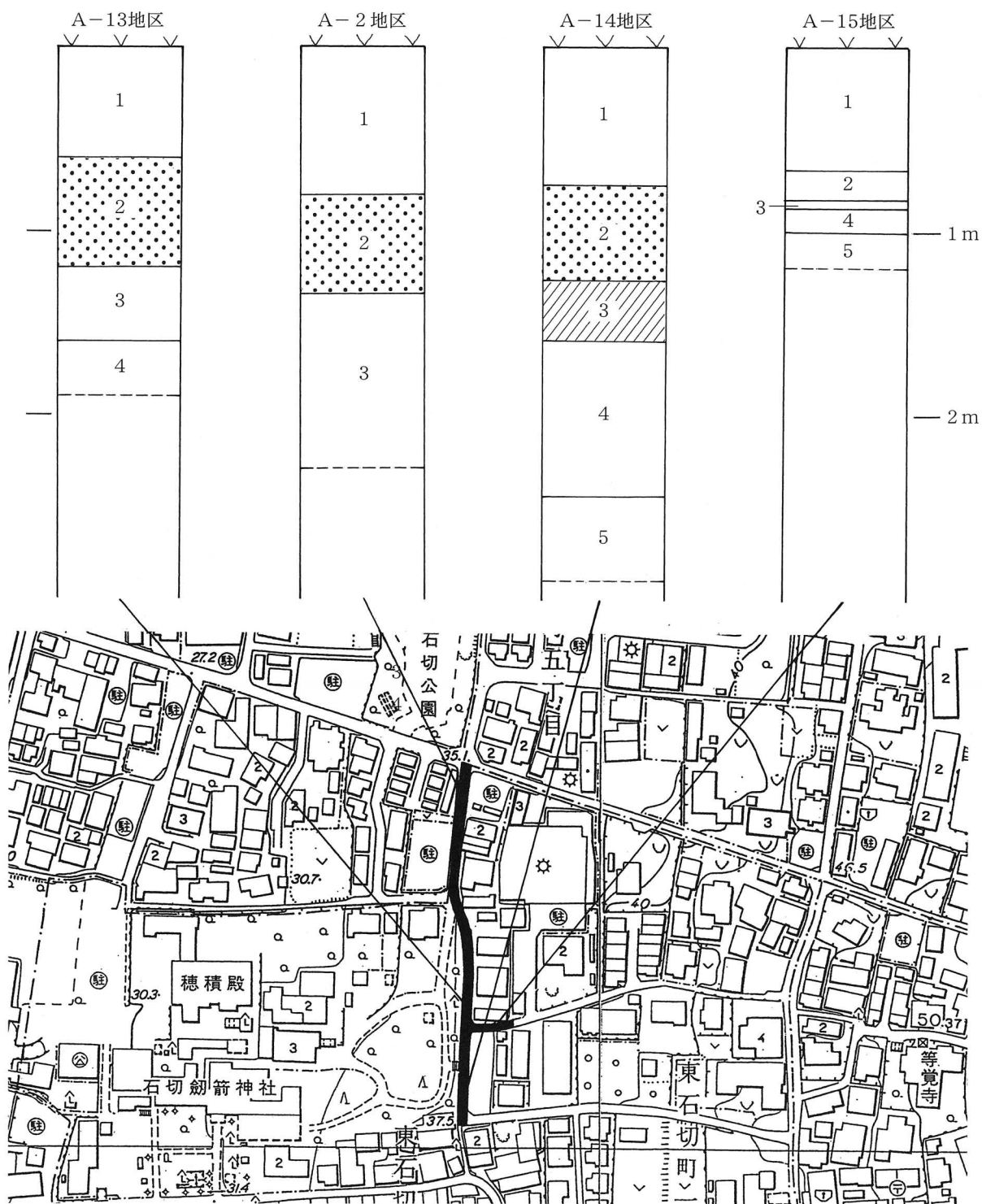
調査地点位置図 (1/2500)

1. 調査の概要

調査地は石切神社神馬放牧場の東側道路である。道路の北端より調査を開始した。全地区で遺物が出土した。特にA-2～8地区は出土量が多い。A-9～15地区はA-2～8地区に比べて出土量が少ない。A-12・13地区では南北に並べた状態の石を確認した。

2. 層序

A-2地区の層序



土層断面柱状図

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂混じりシルト。古墳時代～中世期の遺物が出土。

第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。

A-13地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(10YR2/2)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。古墳時代～中世期の遺物が出土。

第3層 黒色(2.5Y2/1)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第4層 黒色(10YR2/1)細粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。

A-14地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。古墳時代～中世期の遺物が出土。

第3層 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂混じりシルト。小礫を多く含む。古墳時代～中世期の遺物が出土。

第4層 黒褐色(10YR3/1)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第5層 黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。

A-15地区の層序

第1層 盛土。

第2層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第4層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第5層 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂混じりシルト。小～中礫を含む。

3. 出土遺物

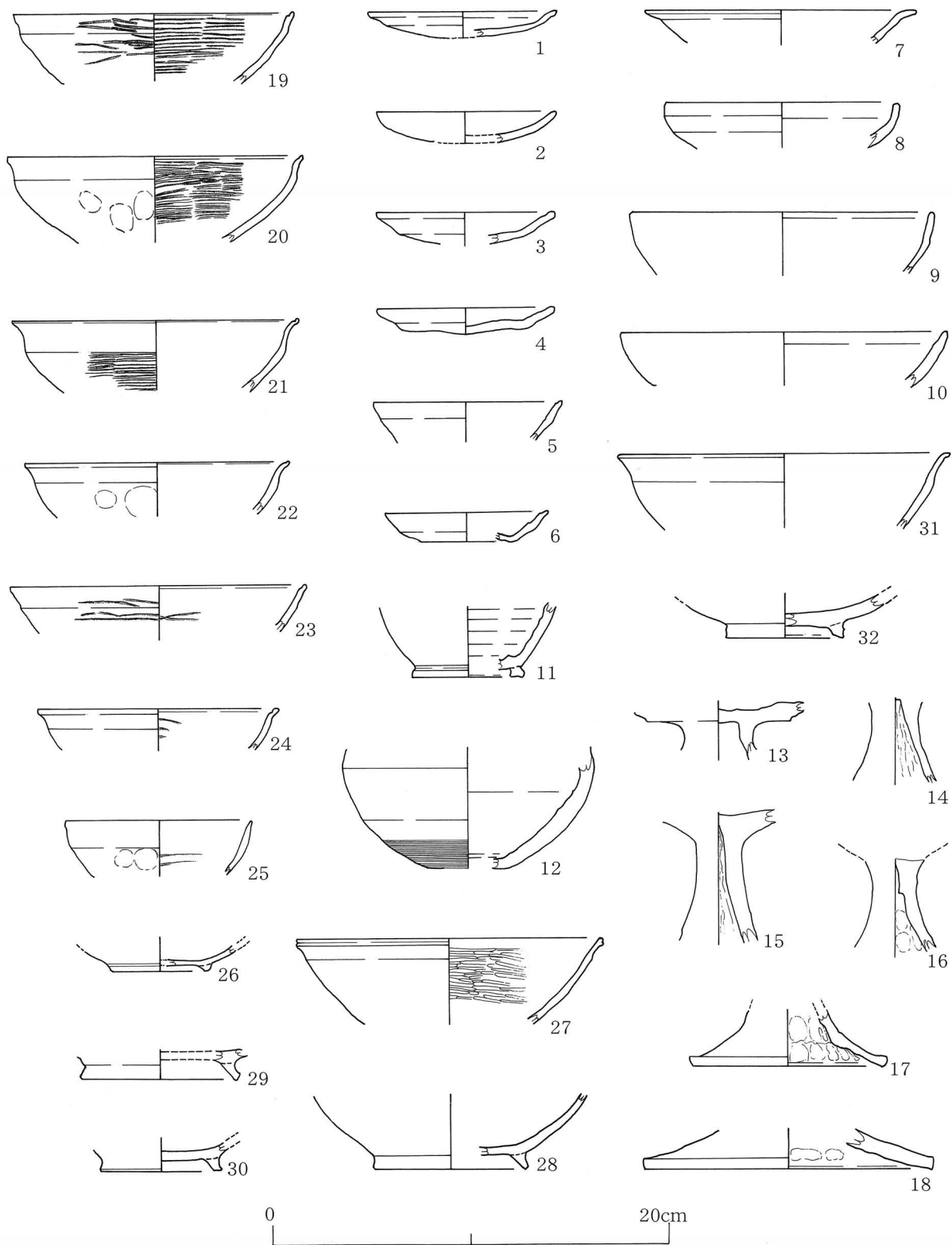
今回の調査では土師器、須恵器、瓦器、黒色土器、緑釉陶器、陶器、石鍋、瓦などが出土した。

土師器(1～10・14～18・33～36・42～45)

皿・杯・高杯・甕・羽釜がある。

1～8は皿である。1は体部が内弯気味に立ち上がり口縁部でわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は9.5cm、残存高は1.4cmである。11世紀のものである。2～4は体部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。2は口径が9.0cm、残存高が1.4cmである。3は口径が9.2cm、残存高が1.4cmである。12世紀のものである。4は口径が9.2cm、器高が1.4cmである。13世紀のものである。5は体部が外上方へ伸びる。口縁端部は尖り気味に終わる。内外面はナデ調整する。口径は9.5cm、残存高は2.0cmである。15世紀のものである。6は上げ底の底部を持つ。体部が外上方へ立ち上がる。口縁端部は尖り気味に終わる。内外面はナデ調整する。口径は8.2cm、残存高は1.5cmである。15世紀のものである。7は体部が内弯気味に立ち上がり口縁部で大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は13.8cm、残存高は1.6cmである。10世紀のものである。8は体部が内弯気味に立ち上がり口縁部で直立して伸びる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は11.5cm、残存高は2.3cmである。12世紀のものである。1・2・8はA-5地区、3・7はA-6地区、4～6はA-3地区より出土した。

9・10は杯である。9は体部が外上方へ立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は15.0cm、残存高は4.0cmである。10は体部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。器壁は厚い。内外面はナデ調整する。口径は16.4cm、残存高は2.7cmである。10世紀のものである。A-13地区より出土した。



出土遺物実測図

14~18・33・34は高杯である。14~18は脚部である。14~16は柱状部である。八の字形に開く。15は杯部が一部残る。14・15は内面にシボリ痕を残す。16は内面に指頭圧痕を残す。外面はナデ調整する。14は残存高が4.0cm、15は6.4cm、16は4.4cmである。古墳時代である。17・18は裾部である。17は裾部が八の字形に大きく広がる。裾端部は面を持つ。内外面はナデ調整する。内面に指頭圧痕と接合痕を残す。18は裾部が八の字形に大きく広がる。裾端部は面を持つ。内外面はナデ調整す

る。内面に指頭圧痕を残す。17は裾部径が9.5cm、残存高が2.8cm、18は裾部径が14.5cm、残存高が2.0cmである。古墳時代である。33・34は杯部である。33は体部が大きく外上方へ立ち上がる。口縁端部はわずかにくぼみ、面を持つ。内外面はナデ調整する。口径は24.5cm、残存高は3.0cmである。5～6世紀のものである。34は体部が内弯気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は17.5cm、残存高は5.0cmである。5～6世紀のものである。14・33・34はA-13地区、15・17はA-5地区、16はA-8地区、18はA-6地区より出土した。

35・36は甕である。35は口縁部が外反する。口縁端部は外側に肥厚し、面を持つ。内外面はナデ調整する。口径は20.5cm、残存高は2.8cmである。8世紀末～9世紀初めのものである。36は口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。体部外面に指頭圧痕を残す。口径は16.7cm、残存高は3.6cmである。10世紀のものである。35はA-8地区、36はA-3地区より出土した。

42～45は羽釜である。42は口縁部が強く外反する。口縁端部はやや肥厚し面を持つ。内外面はナデ調整する。指頭圧痕を残す。外面の体部と口縁部の境に接合痕を残す。口径は20.0cm、残存高は4.4cmである。10～11世紀のものである。43・44は口縁部が強く外反し、口縁端部を内側に巻き込む。いわゆる大和型である。43は体部が内傾気味に立ち上がり、途中で肥厚する。口縁部は狭まり、端部で再び肥厚する。体部に断面形が台形の短い鍔が付く。内外面はナデ調整する。指頭圧痕を残す。44は口縁部である。内外面はナデ調整する。43は口径が30.0cm、残存高が5.4cm、44は口径が19.5cm、残存高が2.2cmである。15世紀のものである。45は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部が内傾する。口縁端部は内側に肥厚して丸く終わる。鍔は欠損する。内外面はナデ調整する。口径は30.0cm、残存高は8.0cmである。14世紀のものである。42・44はA-8地区、43・45はA-3地区より出土した。

須恵器(11～13・46～48)

壺・甕・杯・捏鉢がある。

11・46は壺の底部である。11は体部が外上方へ立ち上がる。断面形が台形の低い貼付けの高台が付く。内外面は回転ナデ調整する。底径は5.6cm、残存高は3.5cmである。46は体部が内弯気味に立ち上がる。断面形が台形の高い貼付け高台が付く。内外面は回転ナデ調整する。底径は18.3cm、残存高は4.4cmである。8世紀のものである。11はA-7地区、46はA-3地区より出土した。

12は甕である。底部は丸底で体部は球形である。内外面は回転ナデ調整する。外面下位はカキメ調整する。体部最大径は12.5cm、残存高は6.0cmである。5～6世紀のものである。A-15地区より出土した。

13は高杯の脚部である。脚部が広く八の字形に開く。内外面は回転ナデ調整する。残存高は2.8cmである。6世紀のものである。A-15地区より出土した。

47は杯の底部である。断面形が台形の低い貼付け高台が付く。内外面は回転ナデ調整する。底径は19.5cm、残存高は1.9cmである。8世紀のものである。A-5地区より出土した。

48は東播系の捏鉢である。平底の底部である。内外面は回転ナデ調整する。底部内面に使用による擦り減り痕を残す。詳細な時期は不明である。A-3地区より出土した。

瓦器(19～26・37・38・50～52)

椀・拵鉢・鉢・羽釜がある。

19～26は椀である。19～24は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反し、口縁端部内面に沈線を廻らす。いわゆる大和型である。19は内面に密なヘラミガキ調整する。外面は体部上位に粗いヘラミガキ調整する。口径は14.0cm、残存高は3.5cmである。川越編年のⅢ-A(古)期に相当

する。12世紀後半頃のものである。20は内面に密なヘラミガキ調整する。外面はナデ調整し、指頭圧痕を残す。上位は粗いヘラミガキ調整していると考えられるが風化が激しいため不明である。口径は14.8cm、残存高は4.3cmである。Ⅲ-A(新)期に相当する。12世紀後半～13世紀初め頃のものである。21は内面が風化のため調整法が不明である。外面は体部に密なヘラミガキ調整する。口径は14.3cm、残存高は3.5cmである。Ⅲ期に相当するものと考えられるが詳細な時期は不明である。22は内面が風化のため調整法不明である。外面はナデ調整し、指頭圧痕を残す。口径は13.2cm、残存高は2.7cmである。Ⅲ期に相当するものと考えられるが詳細な時期は不明である。23は内外面が粗いヘラミガキ調整する。口径は15.0cm、残存高は2.4cmである。Ⅲ-C期に相当する。13世紀中頃のものである。24は内面が粗いヘラミガキ調整する。外面はナデ調整する。口径は12.0cm、残存高は2.1cmである。Ⅲ-E期に相当する。13世紀後半頃のものである。25は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部でまっすぐ外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。内面は粗いヘラミガキ調整する。外面はナデ調整し、指頭圧痕を残す。口径は9.5cm、残存高は2.7cmである。Ⅳ-B期に相当する。14世紀中頃のものである。26は底部である。断面形が台形の低い貼付け高台が付く。内外面は風化のため調整法が不明である。底径は5.0cm、残存高は1.3cmである。詳細な型式、年代は不明である。19・20・26はA-5地区、21・24はA-6地区、22はA-2地区、23・25はA-3地区より出土した。

37・38は播鉢である。37は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部でわずかに内傾する。口縁端部は丸く終わる。口縁部は片口である。内外面はナデ調整する。内面に摺り目を施す。口径は28.0cm、残存高は6.5cmである。15世紀のものである。38は体部が外上方へ直線的に立ち上がる。口縁部で下に拡張して面を持ち、端部は丸く終わる。内面はナデ調整し、(6本/cm)の摺り目を施す。外面はヘラケズリ調整する。口径は29.0cm、残存高は6.7cmである。14世紀のものである。A-3地区より出土した。

50・51は深鉢である。50は体部が外上方へ直線的に立ち上がる。口縁端部は肥厚して水平に面を持つ。内面はナデ調整し、指圧痕を残す。外面はヘラケズリ調整する。口径は42.5cm、残存高は10.4cmである。51は体部が直立する。口縁端部は内側へ水平に伸び丸く終わる。口径は38.0cm、残存高は5.0cmである。15世紀のものである。50はA-4地区、51はA-2地区より出土した。

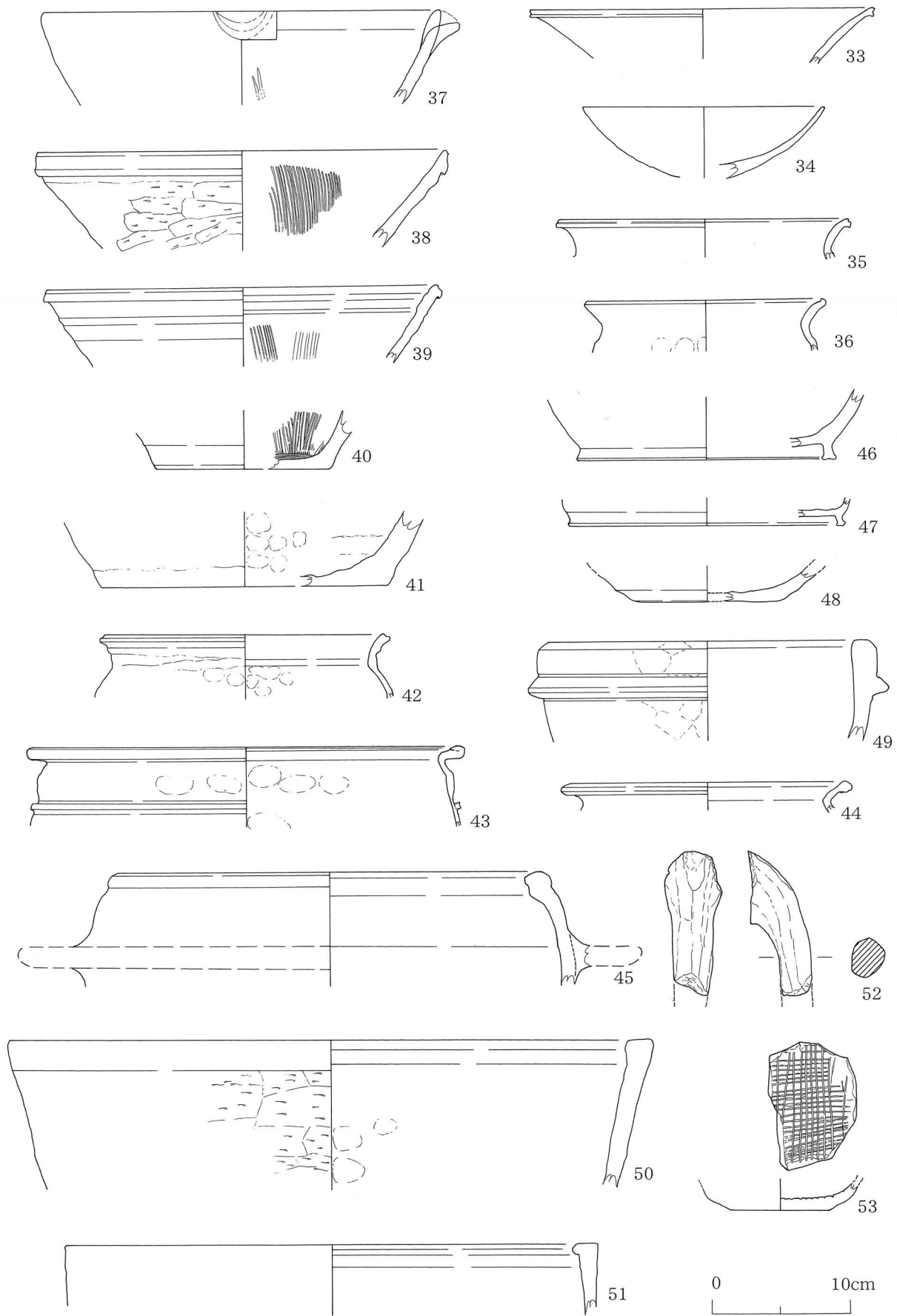
52は羽釜の脚上部である。全面ナデ調整する。残存高は10.3cmである。13世紀のものである。A-2地区より出土した。

黒色土器(27～30)

27～30は椀である。内面を黒く燻す内黒である。27は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。口縁端部は肥厚して面を持つ。内面は密なヘラミガキ調整する。外面はナデ調整する。28は体部が内弯気味に立ち上がる。八の字形に広がる断面形が三角形の高い貼付け高台が付く。内面は風化のため調整法が不明である。外面はナデ調整する。29・30は八の字形に広がる断面形が台形の低い貼付け高台が付く。内面は風化のため調整法が不明である。外面はナデ調整する。27は口径が15.2cm、残存高が3.7cm、28は底径が7.5cm、残存高が3.8cm、29は底径が7.5cm、残存高が1.5cm、30は底径が6.0cm、残存高が1.0cmである。10世紀のものである。27・28はA-8地区、29はA-6地区、30はA-3地区より出土した。

緑釉陶器(31・32)

31・32は椀である。31は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面は回転ナデ調整する。全面に施釉する。釉の色調は淡い緑色である。須恵質である。32は断面形が台形の低い貼付け高台が付く。内外面は回転ナデ調整する。全面に施釉する。釉の



出土遺物実測図

色調は淡い緑色である。須恵質である。31は口径が16.7cm、残存高が3.8cmである。32は底径が6.0cm、残存高が2.2cmである。9世紀後半～10世紀前半のものである。31はA-3地区、32はA-6地区より出土した。

陶器(39～41・53)

播鉢・壺または甕・卸皿がある。

39・40は丹波焼の播鉢である。39は体部が外上方へ直線的に立ち上がる。口縁端部は肥厚し面を持つ。口縁部内面に段を持つ。内外面はナデ調整する。内面に(5本/cm)の摺り目を施す。40は平底の底部である。内外面はナデ調整する。内面の底部と体部に(5本/cm)の摺り目を施す。39は口径が27.5cm、残存高が5.5cm、40は底径が12.5cm、残存高が4.0cmである。16世紀のものである。39・40はA-6地区より出土した。

41は備前焼の壺または甕の底部である。体部が外上方へ立ち上がる。内外面はナデ調整し、指頭圧痕を残す。内外面に接合痕を残す。底径は20.3cm、残存高は5.3cmである。詳細な時期は不明である。A-5地区より出土した。

53は卸皿の底部である。内外面はナデ調整する。外面は底部に糸切り痕があり、体部の一部に釉が残る。見込み部に格子状の卸し目を施す。底径は7.0cm、残存高は1.9cmである。13世紀のものである。A-3地区より出土した。

石鍋(49)

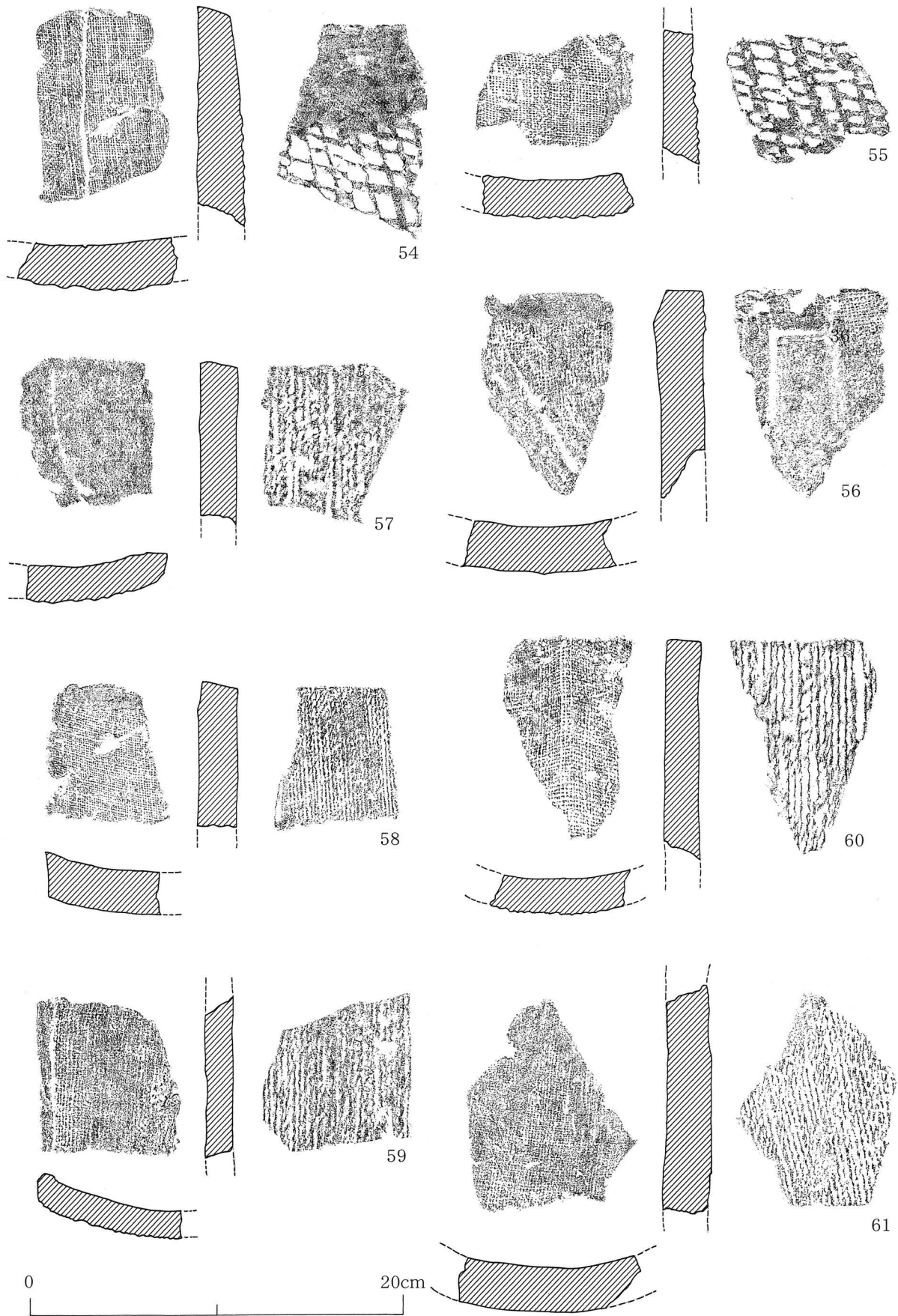
49は石鍋である。体部が外上方へ立ち上がる。体部から口縁部にかけて器壁が厚くなる。口縁端部は丸く終わる。内外面は削り出した後、研磨する。外面に削り痕がわずかに残る。体部に断面形が三角形の低い鏝が付く。色調は褐灰色である。材質は滑石である。口径は22.5cm、残存高は7.0cmである。15世紀のものである。A-6地区より出土した。

瓦(54～68)

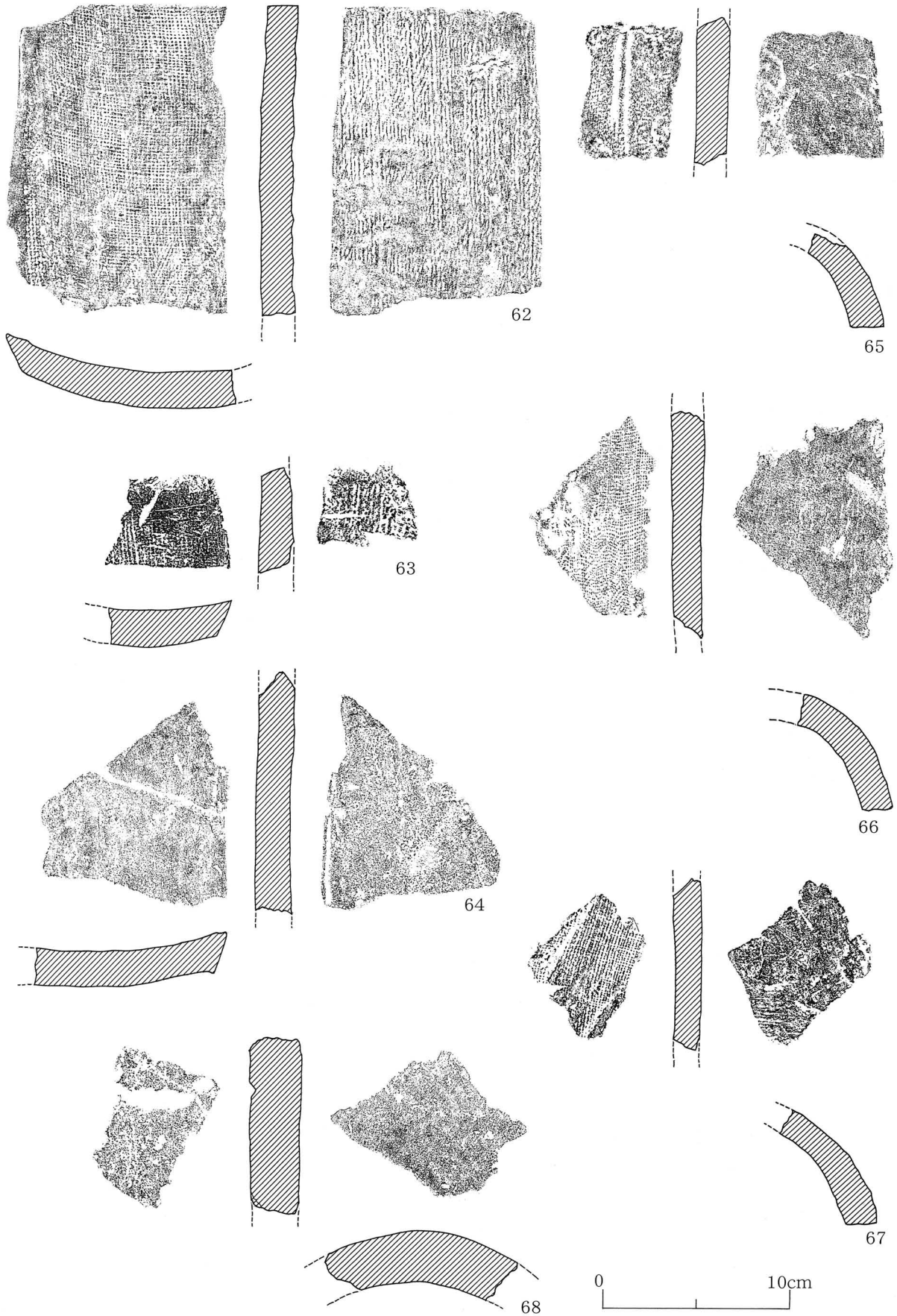
瓦は平瓦・丸瓦がある。

54～64は平瓦である。54・55は凸面を格子のタタキ調整、凹面に布圧痕を残す。54は残存長が11.8cm、残存幅が8.5cm、厚さが2.0cm、55は残存長が6.7cm、残存幅が7.3cm、厚さが1.7cmである。白鳳時代のものである。54はA-5地区、55はA-2地区より出土した。56は凹凸面に布圧痕を残す。残存長は11.0cm、残存幅は8.0cm、厚さは2.5cmである。奈良時代のものである。A-8地区より出土した。57～63は凸面を縄目のタタキ調整、凹面に布圧痕を残す。57は残存長が8.2cm、残存幅が7.0cm、厚さが2.0cm、58は残存長が8.0cm、残存幅が6.0cm、厚さが2.1cm、59は残存長が8.3cm、残存幅が8.0cm、厚さが1.5cm、60は残存長が11.8cm、残存幅が8.0cm、厚さが1.8cm、61は残存長が12.0cm、残存幅が9.5cm、厚さが2.3cm、62は残存長が17.0cm、残存幅が12.5cm、厚さが1.8cm、63は残存長が5.6cm、残存幅が6.5cm、厚さが1.7cmである。56～60・62は胎土中に角閃石を多く含むことから生駒西麓産である。奈良時代のものである。57・62はA-3地区、58はA-7地区、59・61はA-5地区、60・63はA-4地区より出土した。64は凸凹面をナデ調整する。残存長は13.0cm、残存幅は10.0cm、厚さは2.0cmである。鎌倉～室町時代のものである。A-7地区より出土した。

65～68は丸瓦である。65～67は凸面を縄目のタタキ調整し、後ナデ調整する。凹面に布圧痕を残す。65は残存長が7.8cm、残存幅が6.3cm、厚さが1.7cm、66は残存長が12.0cm、残存幅が5.0cm、厚さが1.6cm、67は残存長が9.3cm、残存幅が7.5cm、厚さが1.5cmである。胎土中に角閃石を多く含むことから生駒西麓産である。奈良時代のものである。65・66はA-3地区、67はA-4地区よ



出土遺物実測図



出土遺物実測図

り出土した。68は凹凸面をナデ調整する。残存長は9.2cm、残存幅は7.0cm、厚さは2.7cmである。鎌倉～室町時代のものである。A-7地区より出土した。

4. まとめ

今回の調査では全地区より古墳時代～中世期の遺物が出土した。A-2～8地区は遺物の出土量が多い。特徴としては白鳳時代～中世期の瓦が多量に出土したことが上げられ、法通寺の資料と考えられる。調査地の周辺では石切神社穂積殿建設工事に伴う第1次調査と下水道工事に伴う第2次調査が行われている。第1・2次調査では同時期の瓦が多量に出土している。A-1～6地区は第2次調査地の東側に位置し、A-6地区が第2次調査のC地区東端と接する。第2次調査ではB・C地区より古墳時代～中世期の遺物包含層が確認されている。今回は第2次調査地の東に同時期の遺物包含層がさらに広がっていることが確認できた。

A-9～15地区は第1次調査地の東約100mに位置する。第1次調査では法通寺に関する建物跡が



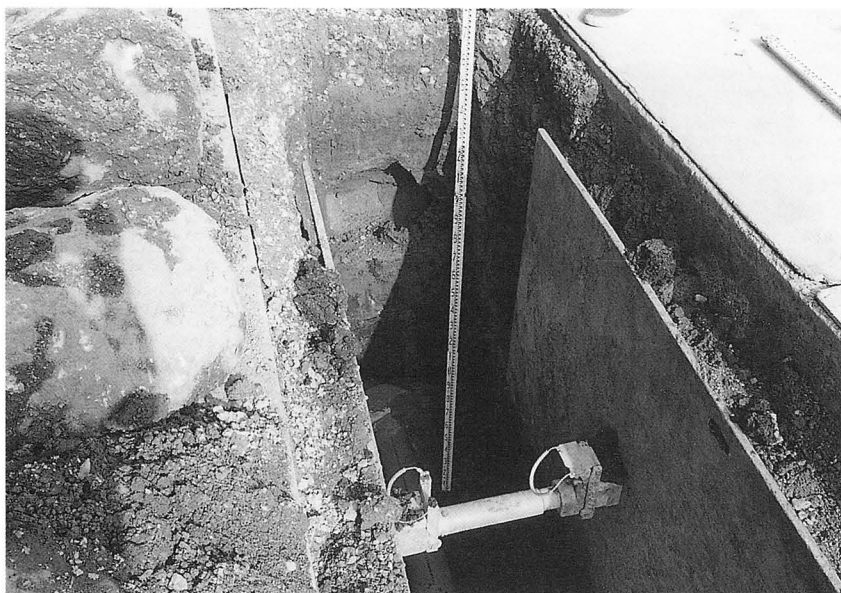
A地区調査地遠景



A-2地区土層断面

多く検出されている。今回、特出することとしてはA-12・13地区より石を多く確認したことが上げられる。確認位置は地表から1m前後の古墳時代～中世期の遺物包含層内であった。直径が50～70cmの自然石を5～6個南北に並べ、約5m続いていた。石は20～30cmの間隔であいており、どの石も面を水平に揃えた状態ではなかった。また、石は1段であり、上へ積んでいた痕跡は確認できなかった。工事の制約上精査することはできなかったが、中世期以降の遺構の可能性が考えられる。いずれにしても詳細な性格は不明であるが、法通寺関連の可能性が考えられる。

A-13地区土層断面

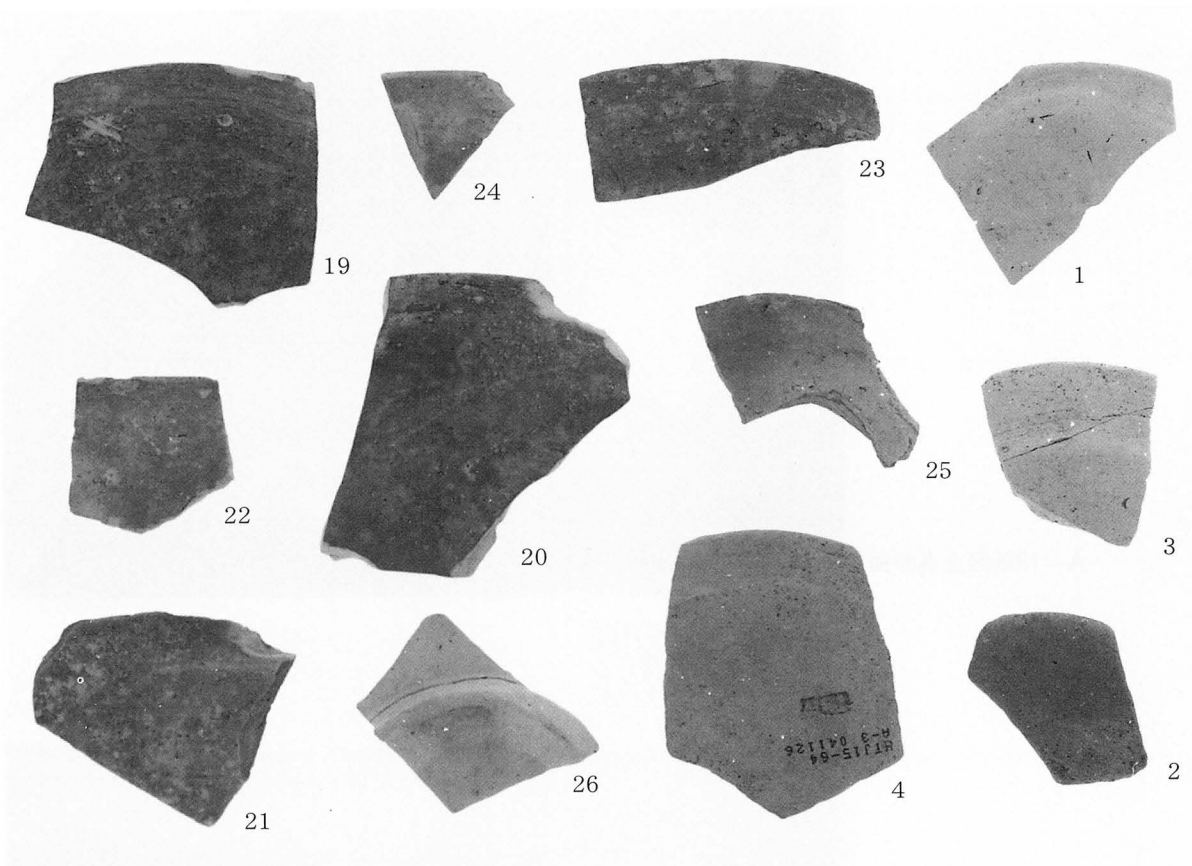


A-14地区土層断面

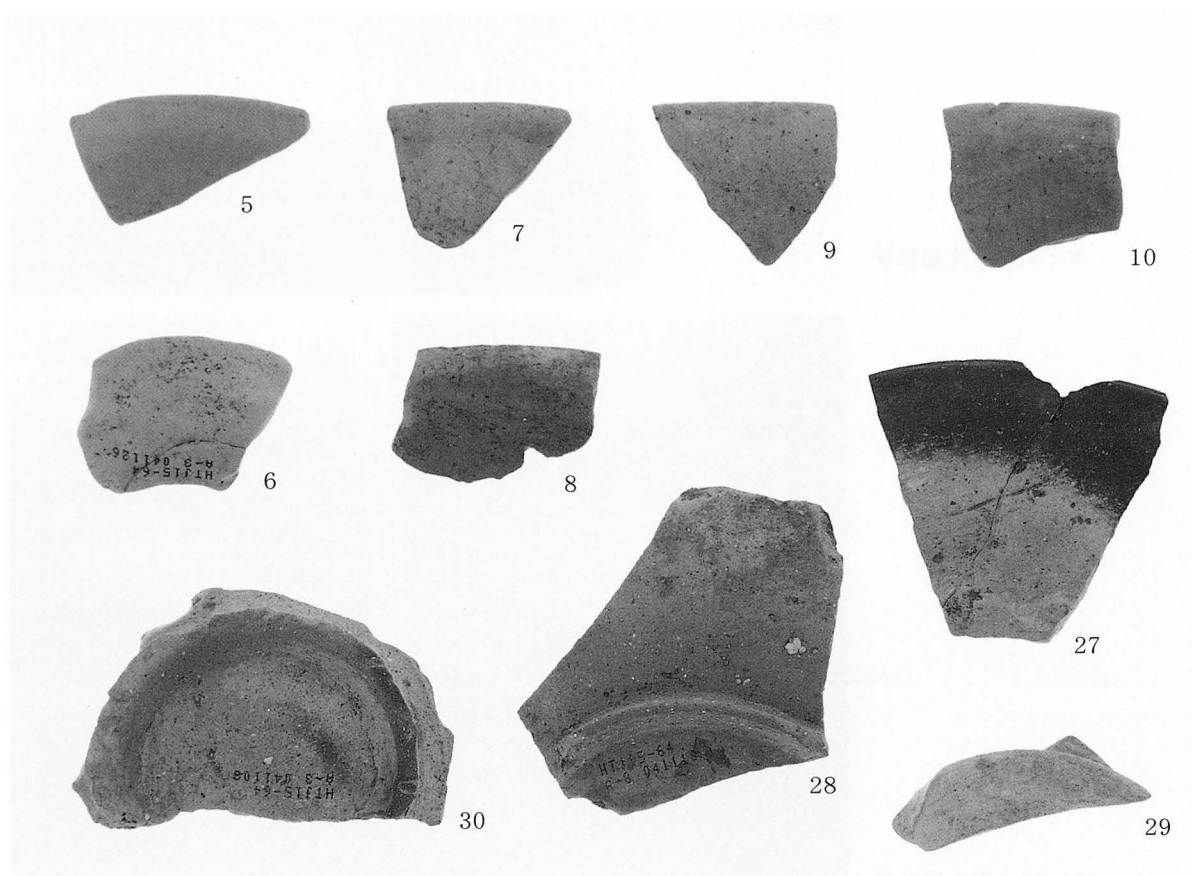


A-15地区土層断面

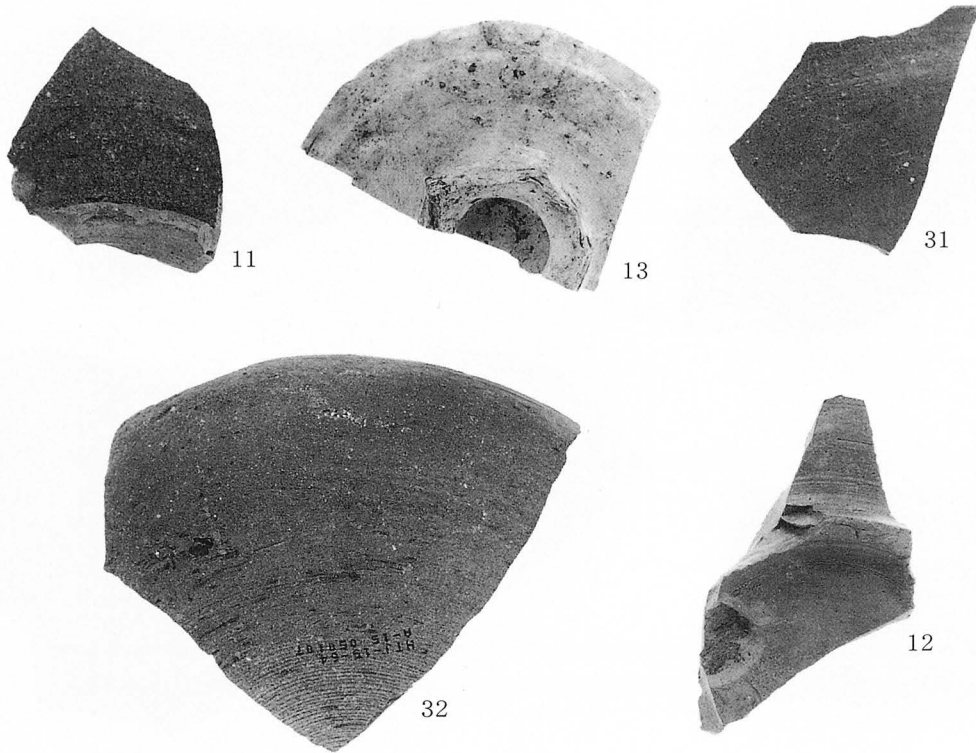




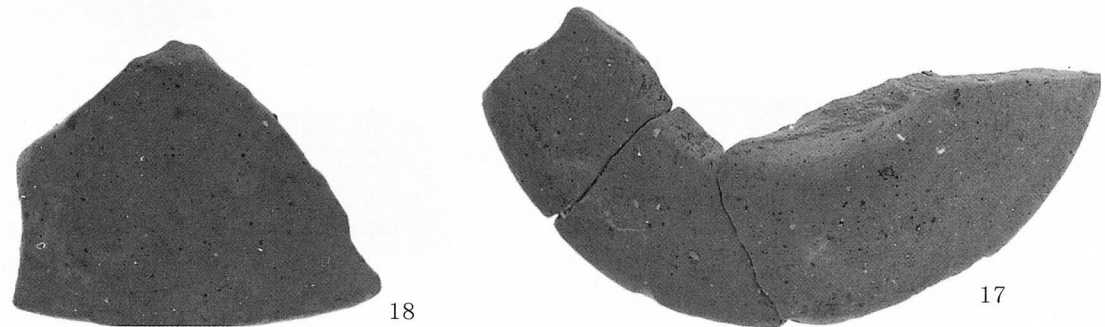
出土遺物 (土師器・瓦器)



出土遺物 (土師器・黑色土器)



出土遺物 (須恵器・緑釉陶器)



出土遺物 (土師器)



38



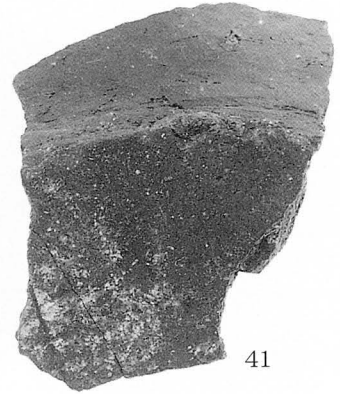
37



39

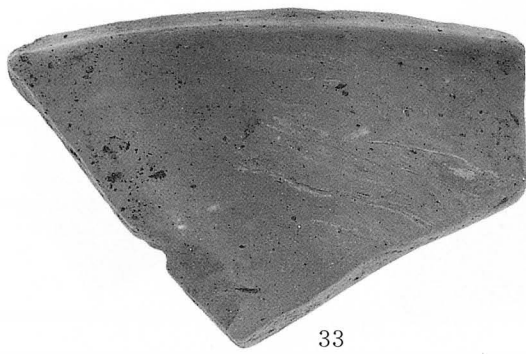


40



41

出土遺物（瓦器・陶器）



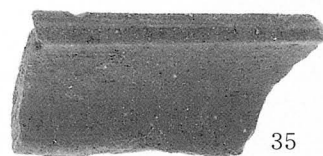
33



34

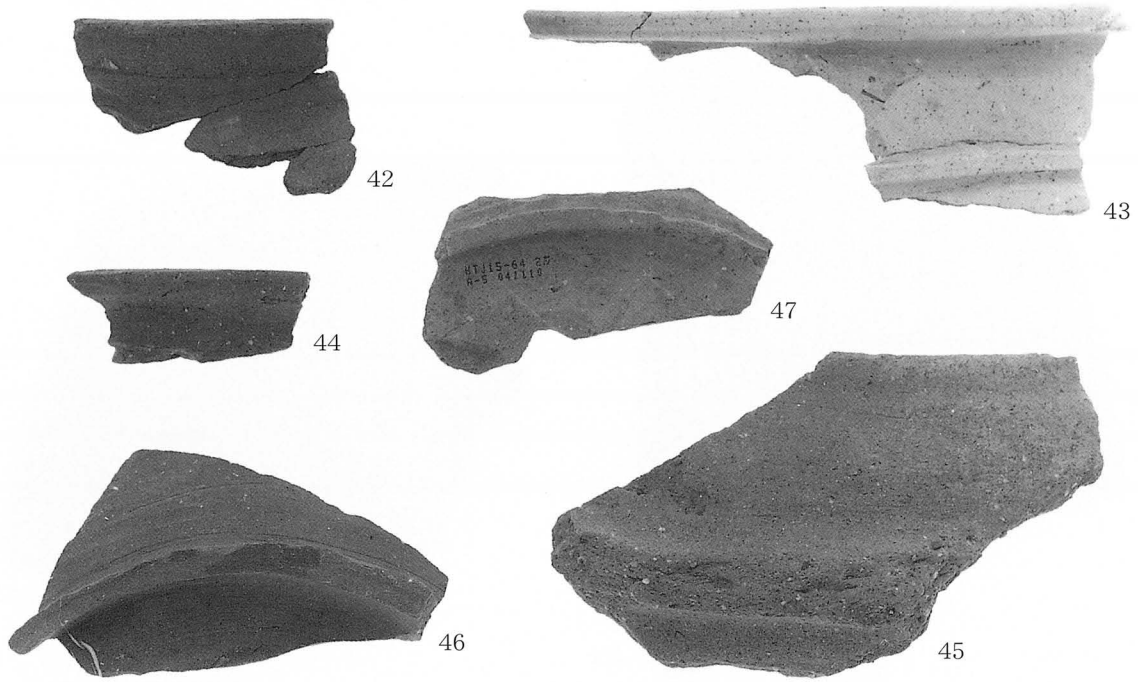


36

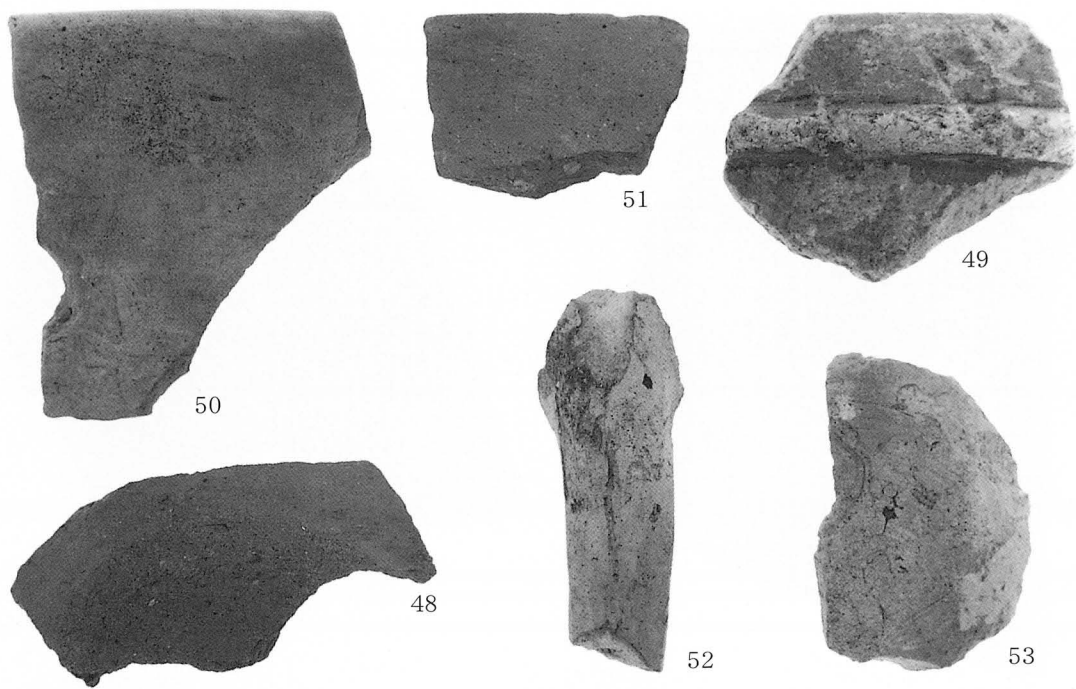


35

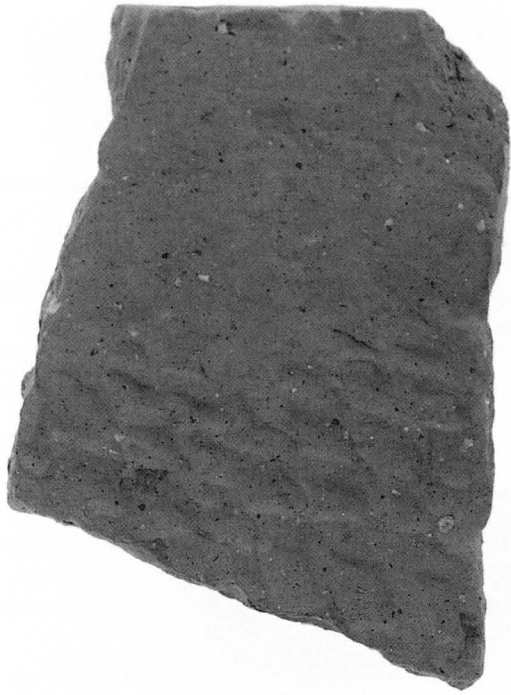
出土遺物（土師器）



出土遺物（須恵器・土師器）



出土遺物（瓦器・須恵器・陶器・石鍋）

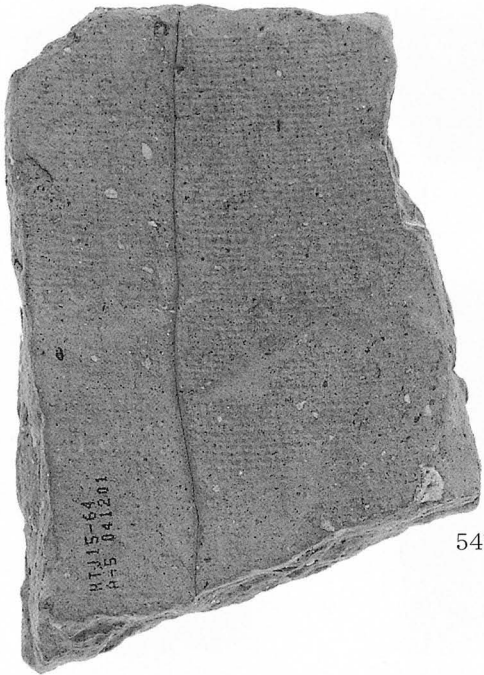


54



55

出土遺物（平瓦）凸面

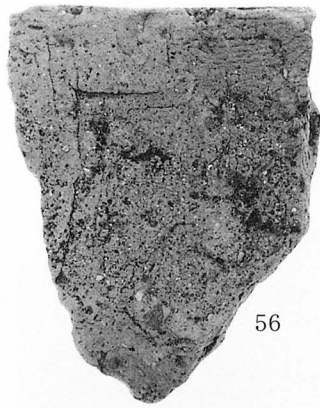


54'



55'

出土遺物（同上）凹面



56



58



60



57



61



59

出土遺物（平瓦）凸面



56'



58'



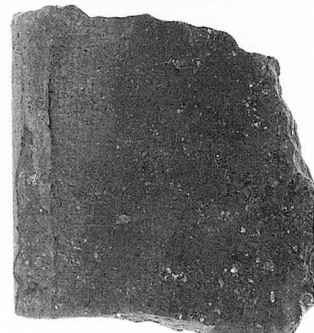
60'



57'



61'



59'

出土遺物（同上）凹面



62



64



63

出土遺物（平瓦）凸面



62'

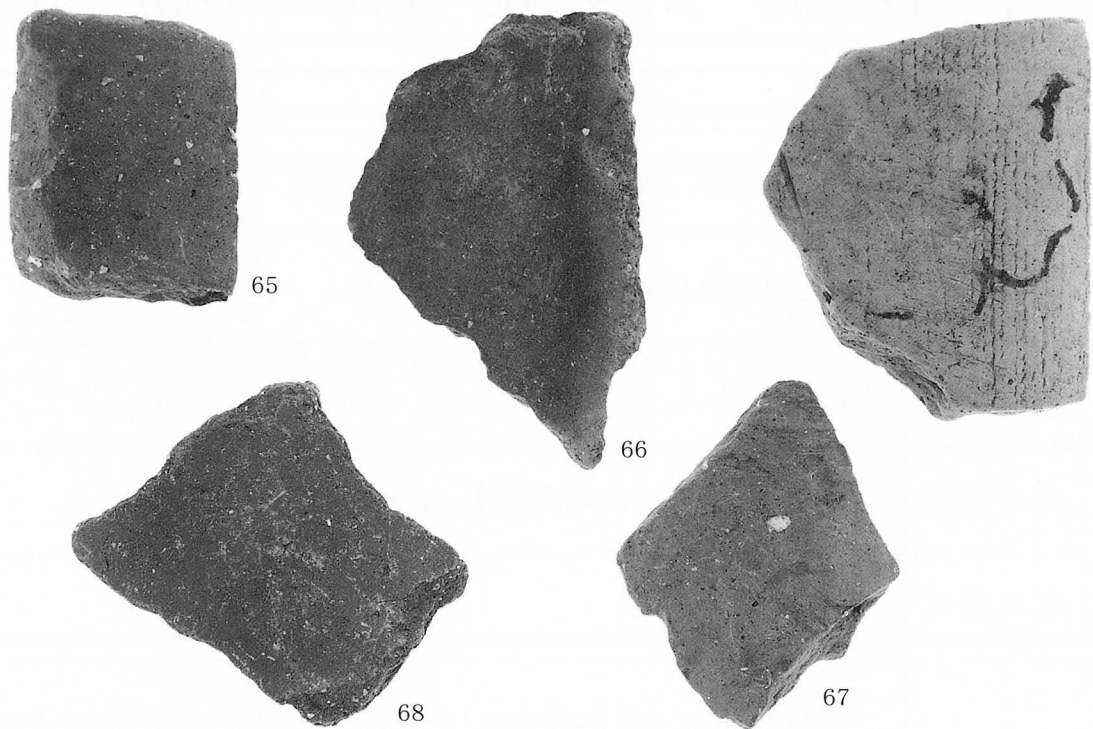


64'

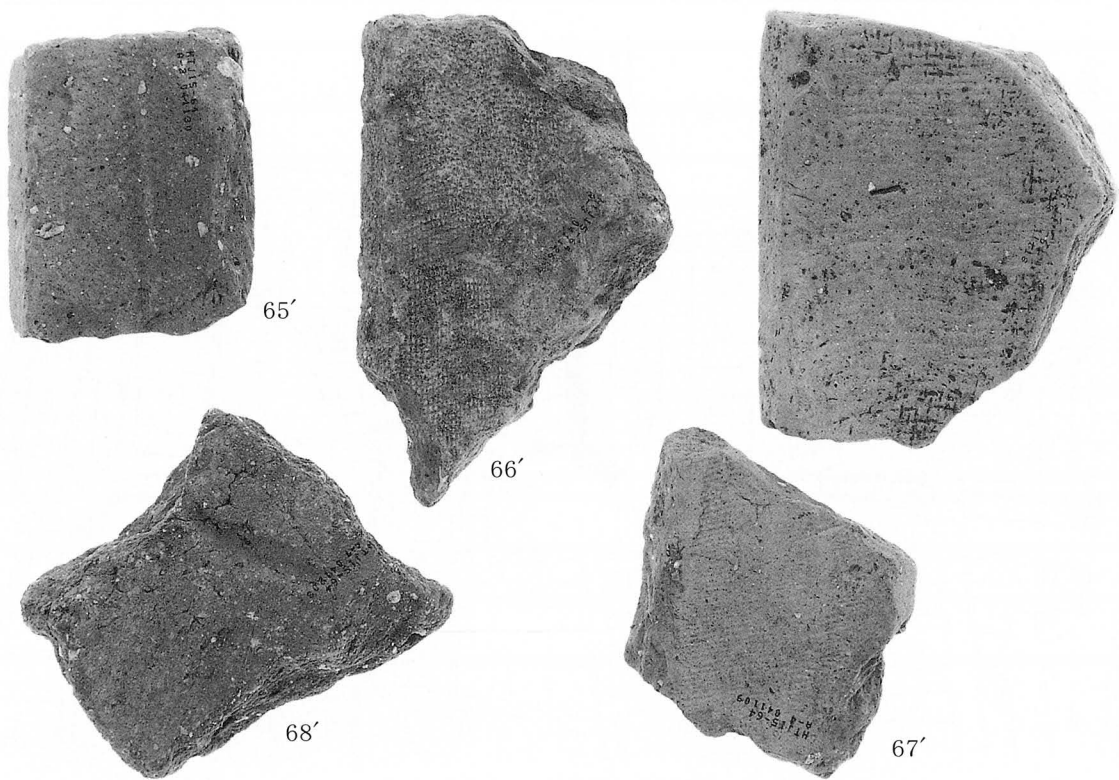


63'

出土遺物（同上）凹面



出土遺物（平瓦・丸瓦）凸面

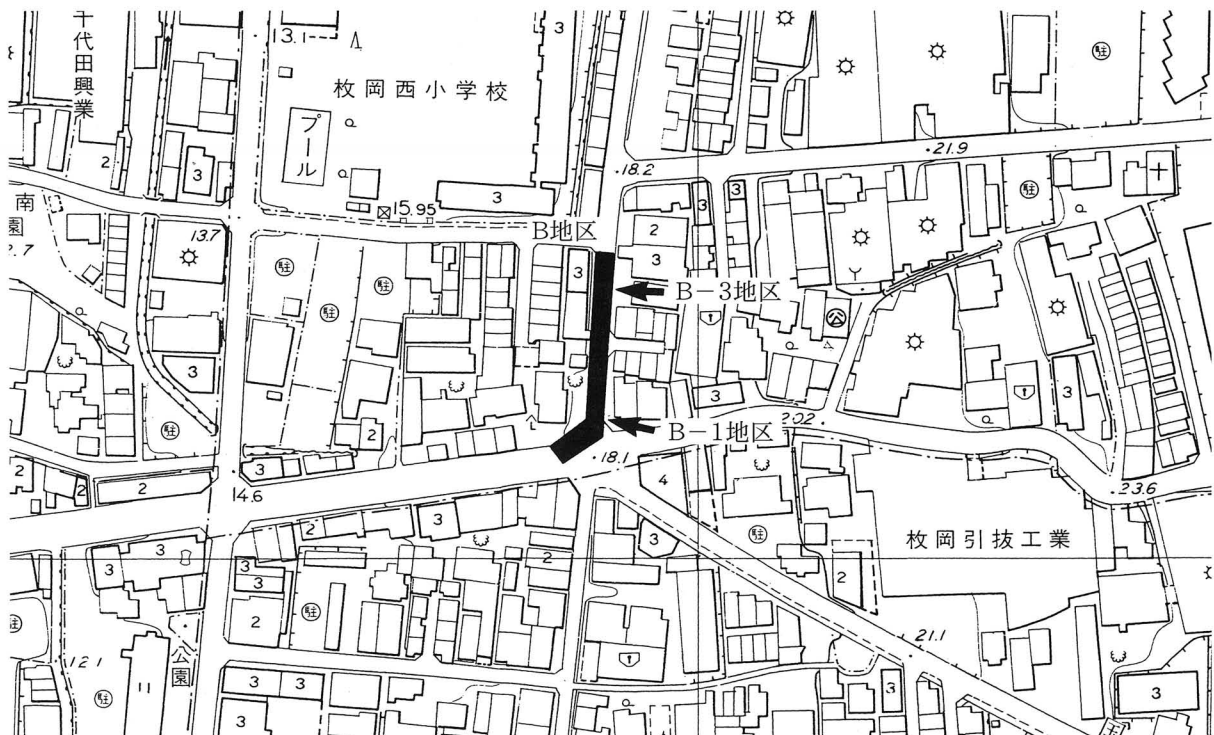


出土遺物（同上）凹面

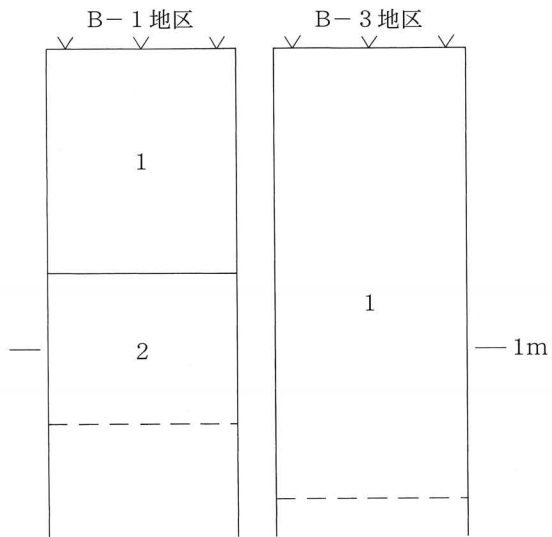
おにづか ひがし こうや くらがりごえなら

第11章 鬼塚遺跡・東高野街道・暗峠越奈良街道の調査

名 称	内 容
1 事業名	平成15年度公共下水道第301工区管きよ築造工事
2 調査地点	東大阪市南荘町1786、95、96
3 調査面積	97㎡
4 調査期間	平成16年11月5日～17年1月31日（延べ12日）
5 報告担当	才原
6 調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡西小学校の南東である。当地点は鬼塚遺跡・東高野街道・暗峠越奈良街道内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ111mの間であり、開削工法と一部推進工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図



B 地区調査地遠景

1. 調査の概要

B-1 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/2)粘質シルト。

B-3 地区の層序

第1層 盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



B-1 地区土層断面



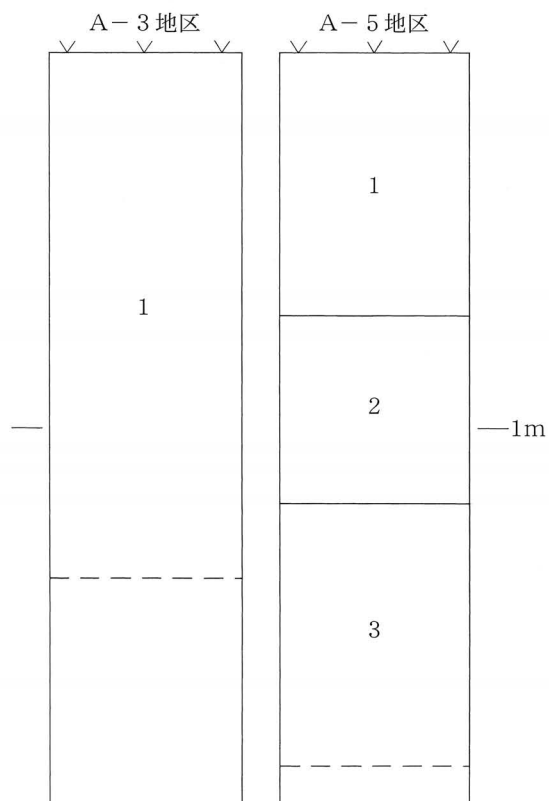
B-3 地区土層断面

第12章 いわたきやま 岩滝山遺跡・ろくまんじ 六万寺古墳群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成16年度公共下水道第12工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市六万寺町1丁目1602~1604
3	調 査 面 積	148㎡
4	調 査 期 間	平成16年11月25日~12月13日 (延べ4日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は二本松古墳の東である。当地点は岩滝山遺跡・六万寺古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ148mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



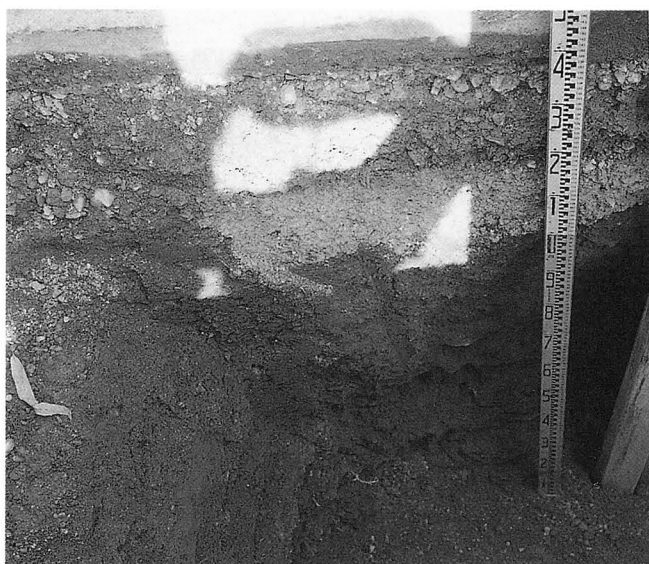
土層断面柱状図



A地区調査地遠景



A-3地区土層断面



A-5地区土層断面

1. 調査の概要

A-3地区の層序

第1層 盛土。

A-5地区の層序

第1層 盛土。

第2層 にぶい黄褐色(10YR5/4)中粒砂
混じりシルト。

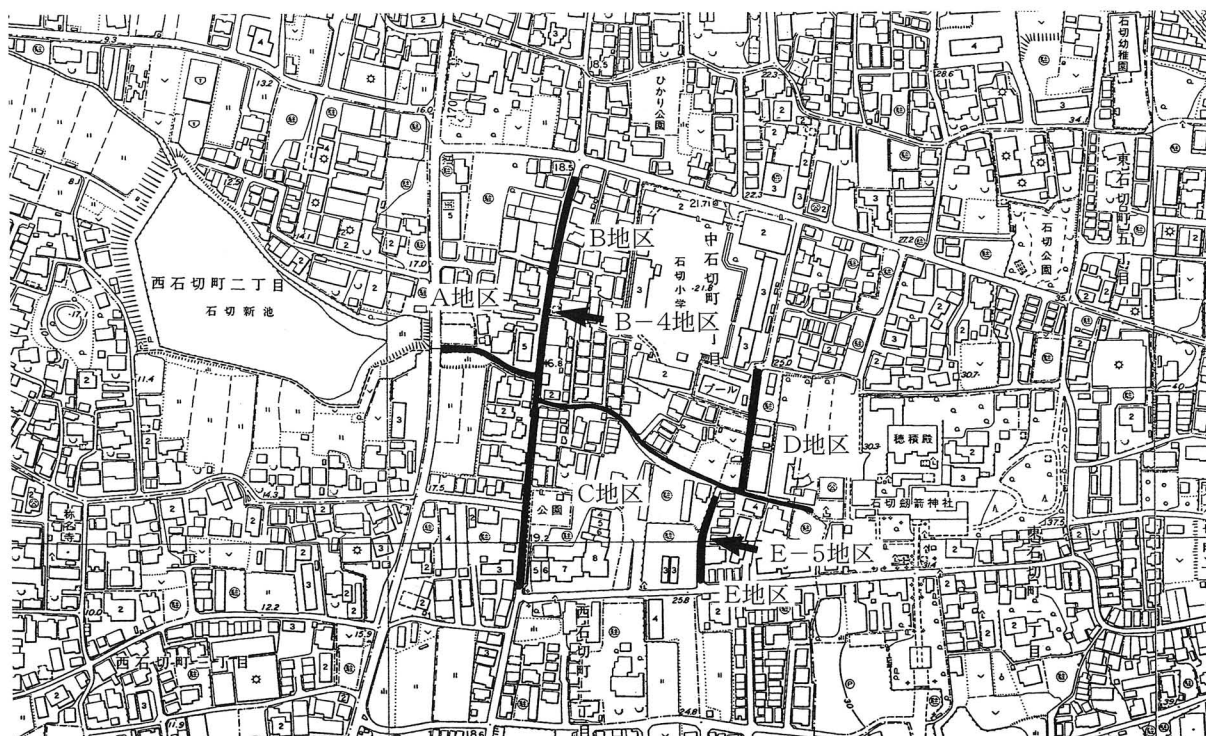
第3層 明黄褐色(10YR6/6)粗粒砂混じり
粘質シルト。

2. まとめ

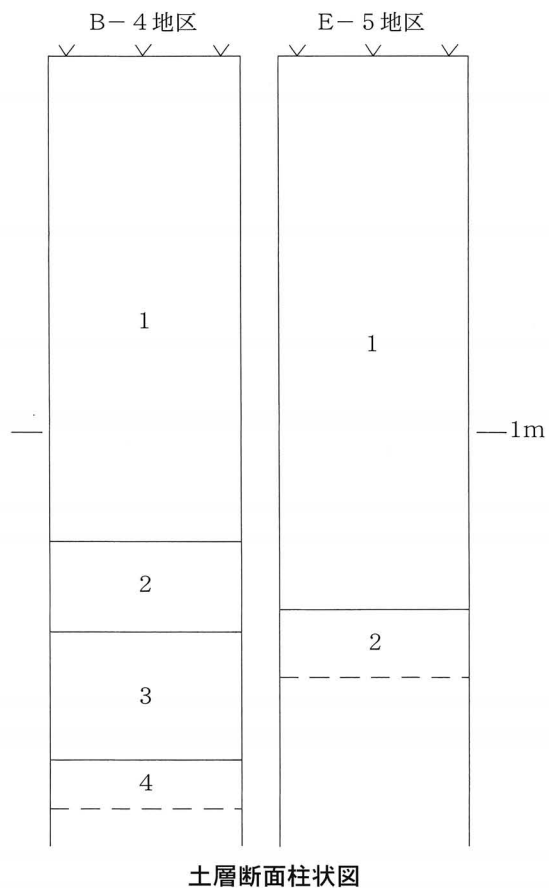
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出
できなかった。

うえつけ こうなみ
第13章 植附・神並遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第45工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市中石切町447～456他
3	調 査 面 積	616㎡
4	調 査 期 間	平成16年10月14日～平成17年8月29日（延べ61日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切小学校の南と西である。当地点は植附・神並遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ720mの間であり、開削工法である。</p>



調査地点位置図 (1/5000)



B地区調査地遠景



B-4地区土層断面



E-5地区土層断面

1. 調査の概要

B-4地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ黒色(7.5Y2/2)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 オリーブ黒色(7.5Y3/3)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂混じりシルト。

E-5地区の層序

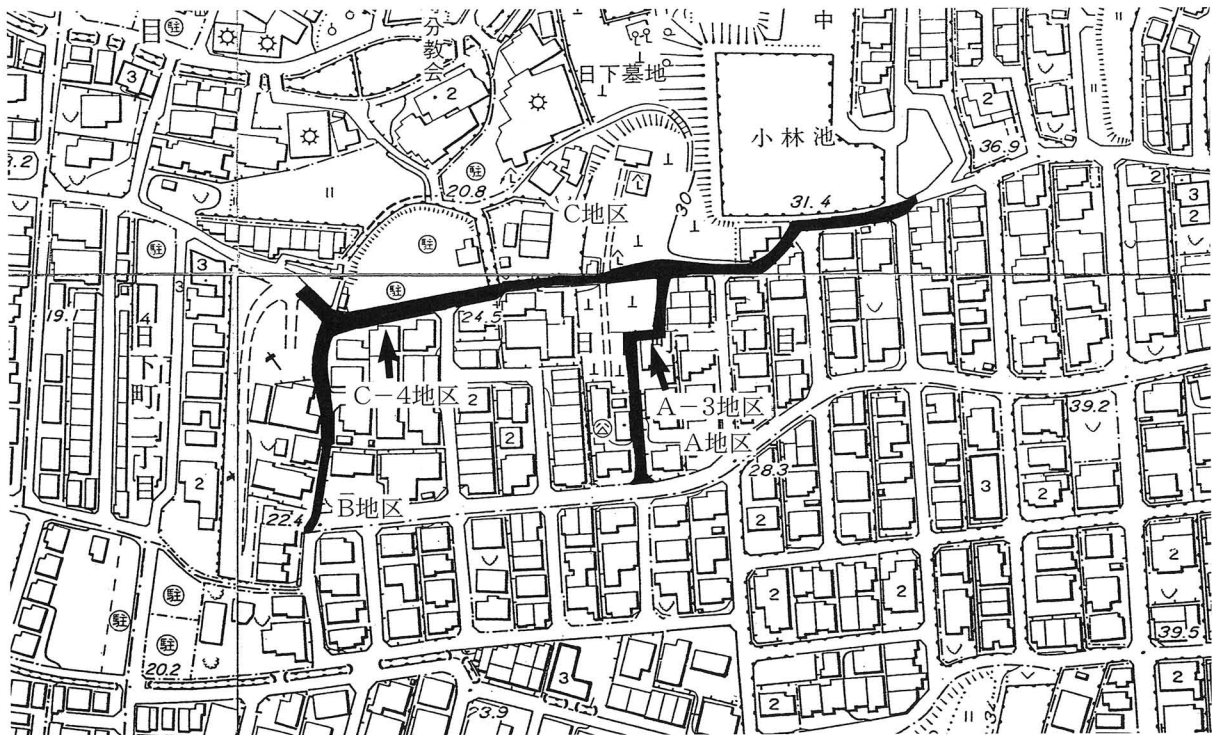
- 第1層 盛土。
- 第2層 黒色(5Y2/1)細粒砂混じりシルト。

2. まとめ

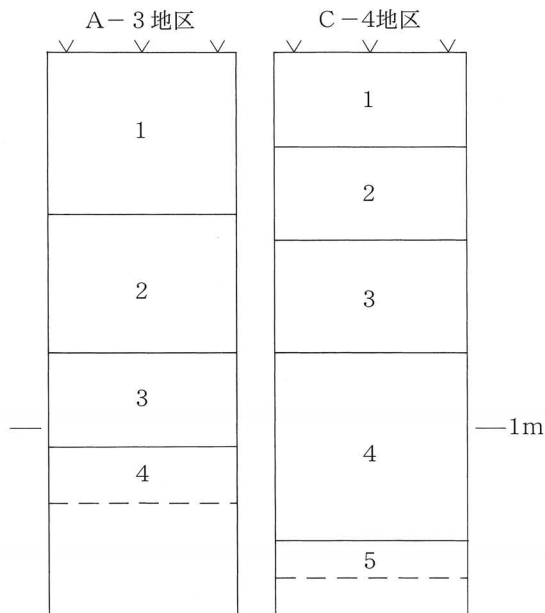
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

しばがおか
第14章 芝ヶ丘遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第57工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市日下町 2丁目1441～1508
3	調 査 面 積	510㎡
4	調 査 期 間	平成16年11月2日～17年1月28日（延べ28日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校北東である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ561mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-3地区の層序

第1層 盛土。

第2層 にぶい黄褐色(10YR5/3)中粒砂。

第3層 灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂混じりシルト。

第4層 褐色(7.5YR4/3)粗粒砂混じり粘質シルト。

C-4地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗オリーブ色(5GY4/1)粗粒砂。

第3層 暗緑灰色(7.5GY4/1)中粒砂混じりシルト。

第4層 オリーブ灰色(5GY5/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

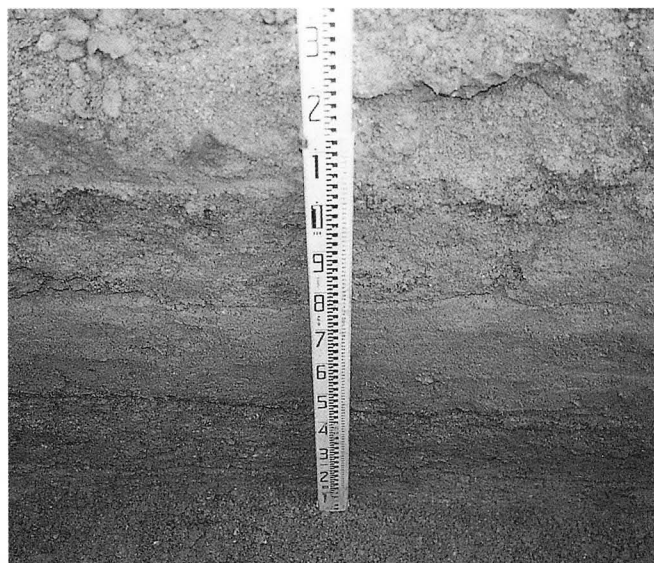
第5層 灰オリーブ色(5Y5/2)細粒砂混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



A-3地区調査地遠景



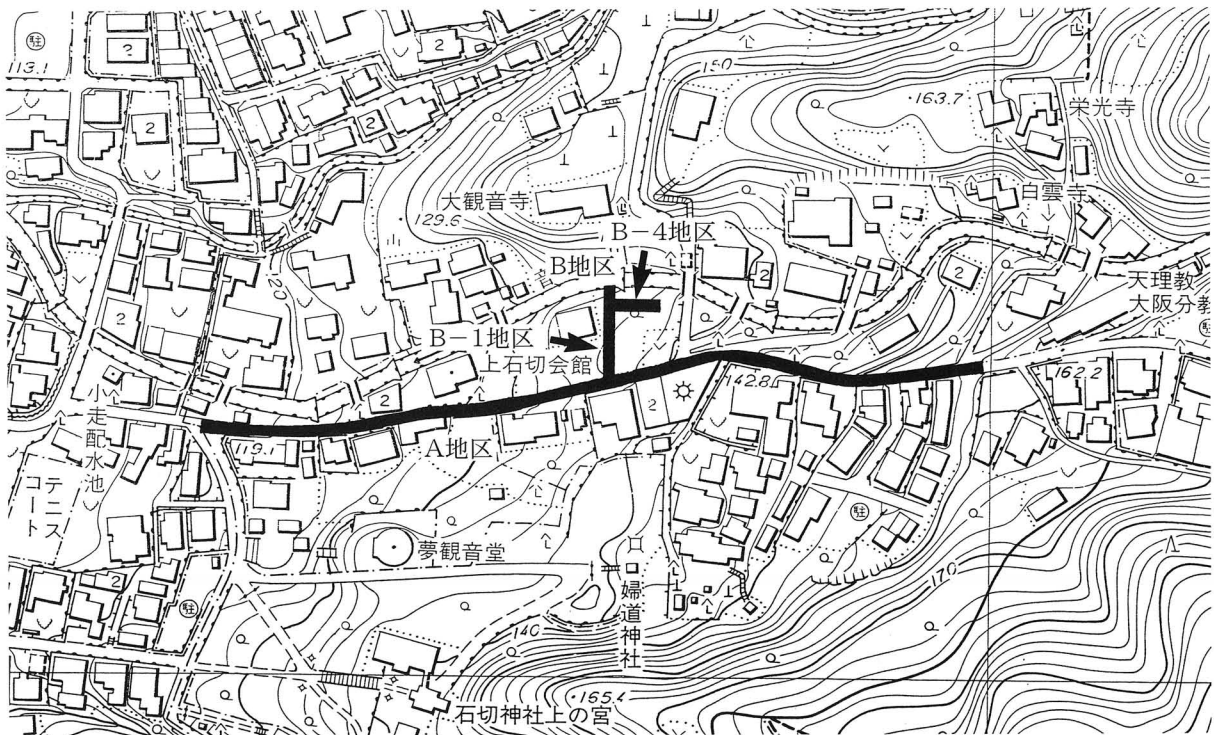
A-3地区土層断面



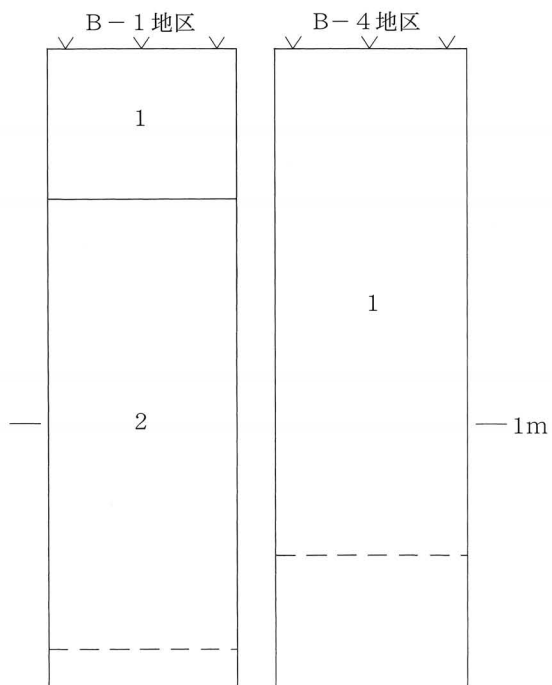
C-4地区土層断面

第15章 ぶしだに 辻子谷古墳群の調査

名 称	内 容
1 事業名	平成15年度公共下水道第37工区管きよ築造工事
2 調査地点	東大阪市上石切町2丁目1322～1403
3 調査面積	474㎡
4 調査期間	平成17年2月18日～2月24日（延べ3日）
5 報告担当	才原
6 調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の南東である。当地点は辻子谷古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ558mの間であり、開削工法である。A地区は夜間工事のため、立会調査を実施することができなかった。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図

1. 調査の概要

B-1 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)巨礫
混じりシルト。

B-4 地区の層序

第1層 盛土。

2. まとめ

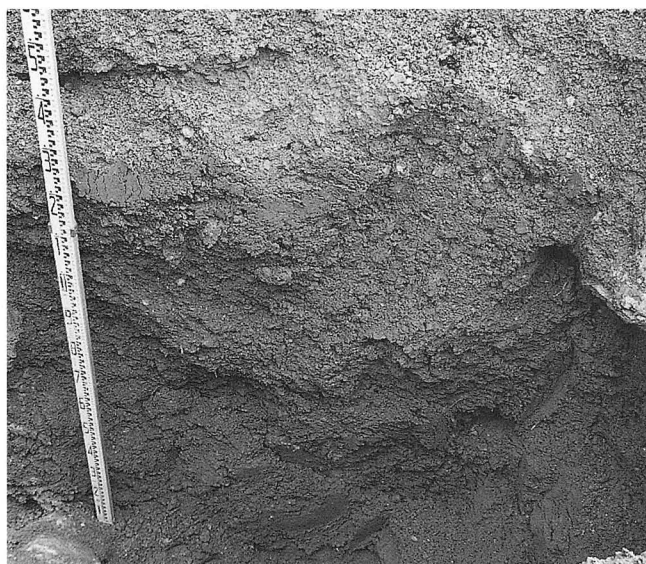
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出
できなかった。



B 地区調査地遠景



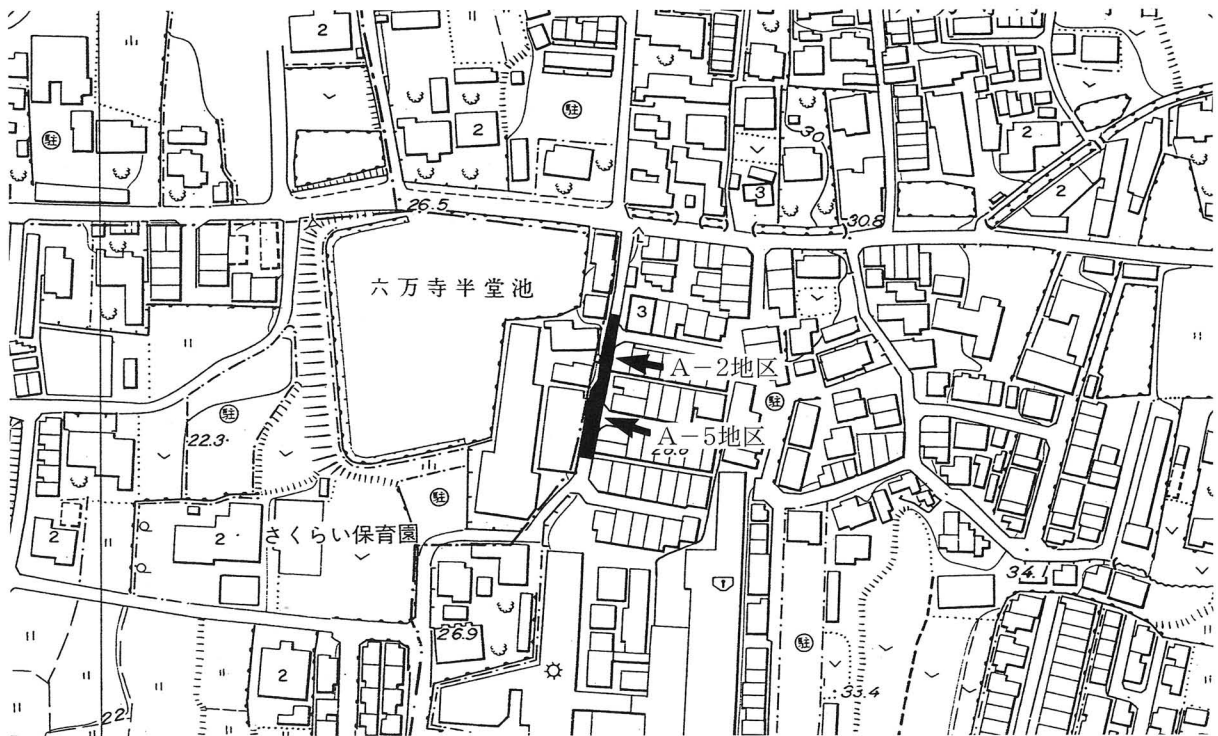
B 地区調査状況



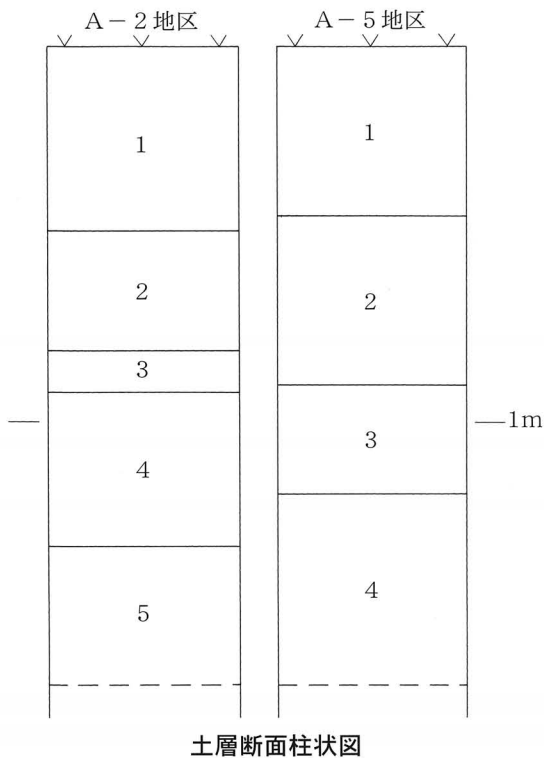
B-1 地区土層断面

はんどう 第16章 半堂遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成16年度公共下水道第103工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市六万寺町1丁目164
3	調 査 面 積	36㎡
4	調 査 期 間	平成17年6月10日～6月22日（延べ7日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は六万寺半堂池の東である。当地点は半堂遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ42mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



A 地区調査地遠景



A-2 地区土層断面



A-5 地区土層断面

1. 調査の概要

A-2 地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒色(10YR1.7/1)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 黒褐色(10YR2/3)細粒砂混じりシルト。
- 第4層 黒褐色(10YR2/2)小礫混じりシルト。
- 第5層 暗褐色(10YR3/4)細～粗粒砂。

A-5 地区の層序

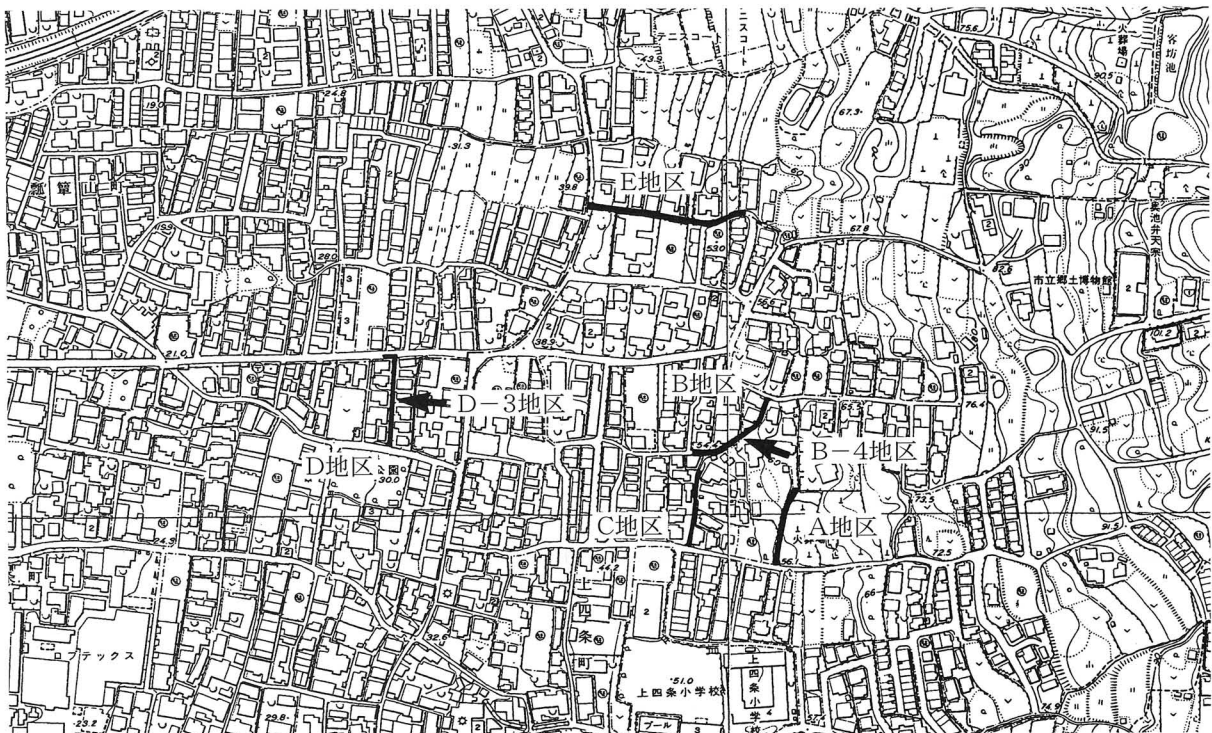
- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(10YR2/2)中粒砂～細礫混じり粘質土。
- 第3層 黒色(2.5Y2/1)中～粗粒砂混じり粘質土。
- 第4層 暗褐色(10YR3/3)粗粒砂混じりシルト質粘土。

2. まとめ

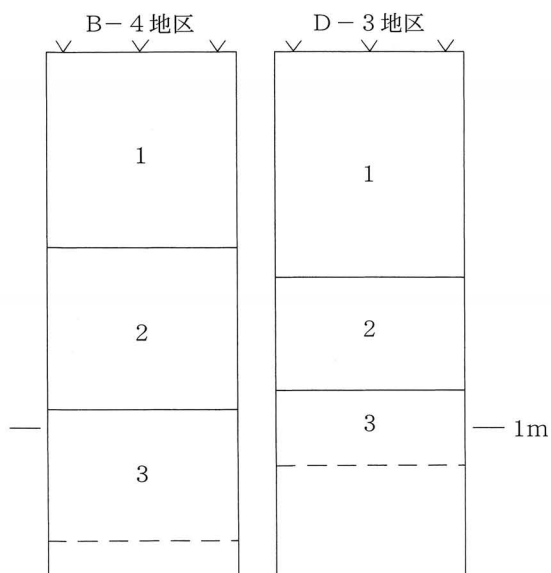
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

やまはた 第17章 山畑古墳群の調査

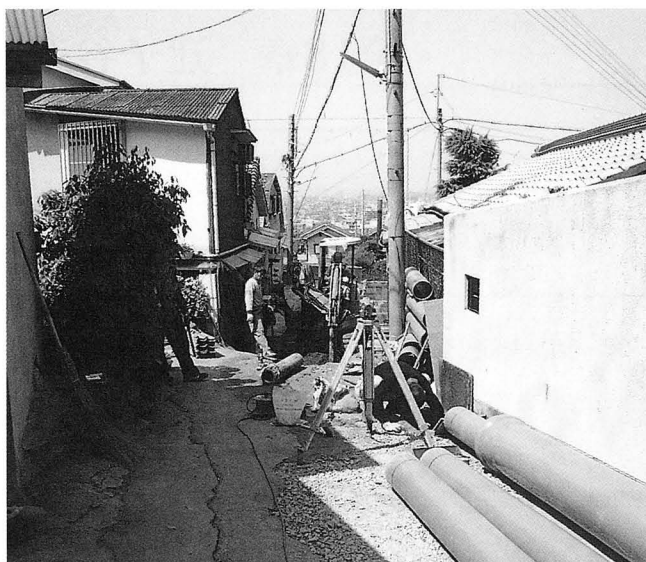
名 称	内 容
1 事業名	平成16年度公共下水道第16工区管きよ築造工事
2 調査地点	東大阪市四条町353、上四条町2021～2024他
3 調査面積	358㎡
4 調査期間	平成17年1月20日～6月21日（延べ33日）
5 報告担当	才原
6 調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は上四条小学校の北と北西である。当地点は山畑古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ422mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/5000)



土層断面柱状図



B 地区調査地遠景

1. 調査の概要

B-4 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じり
粘質シルト。

第3層 にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂
混じりシルト。

D-3 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂混じり
シルト。

第3層 オリーブ黒色(5Y2/2)中粒砂混
じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出
できなかった。



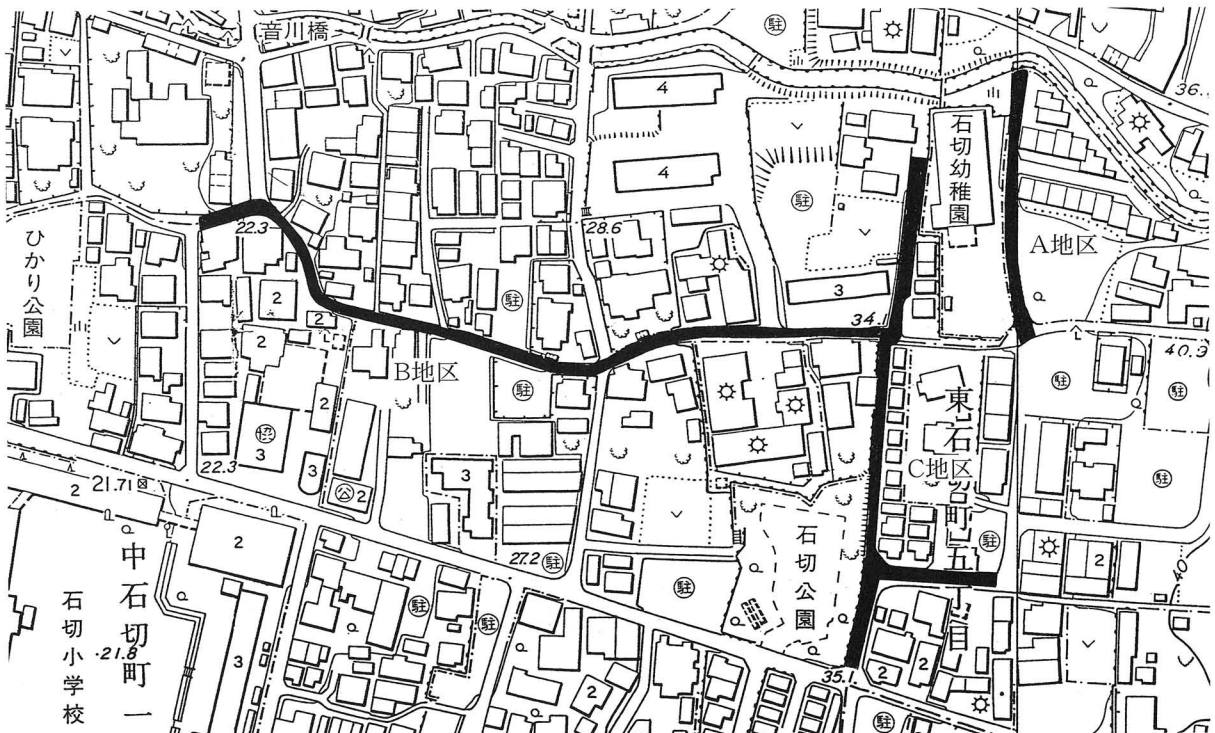
B-4 地区土層断面



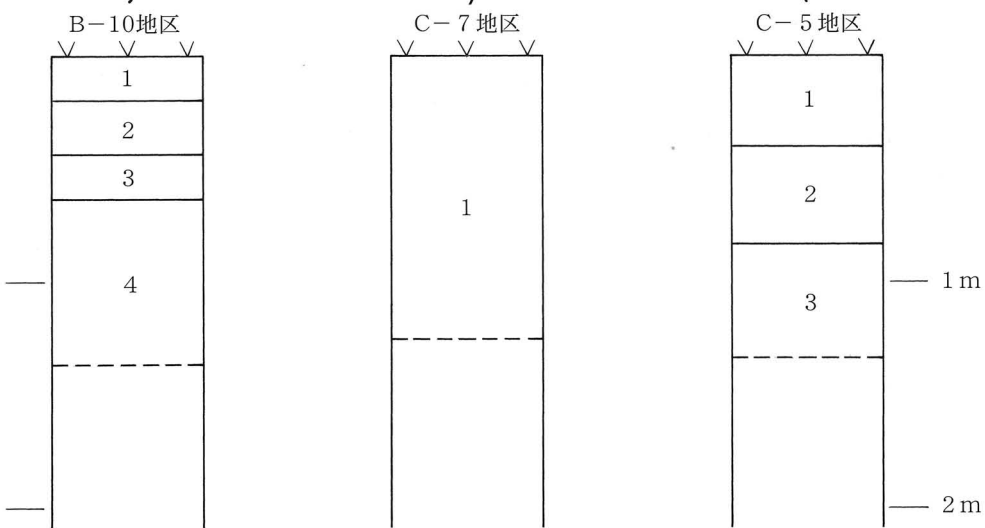
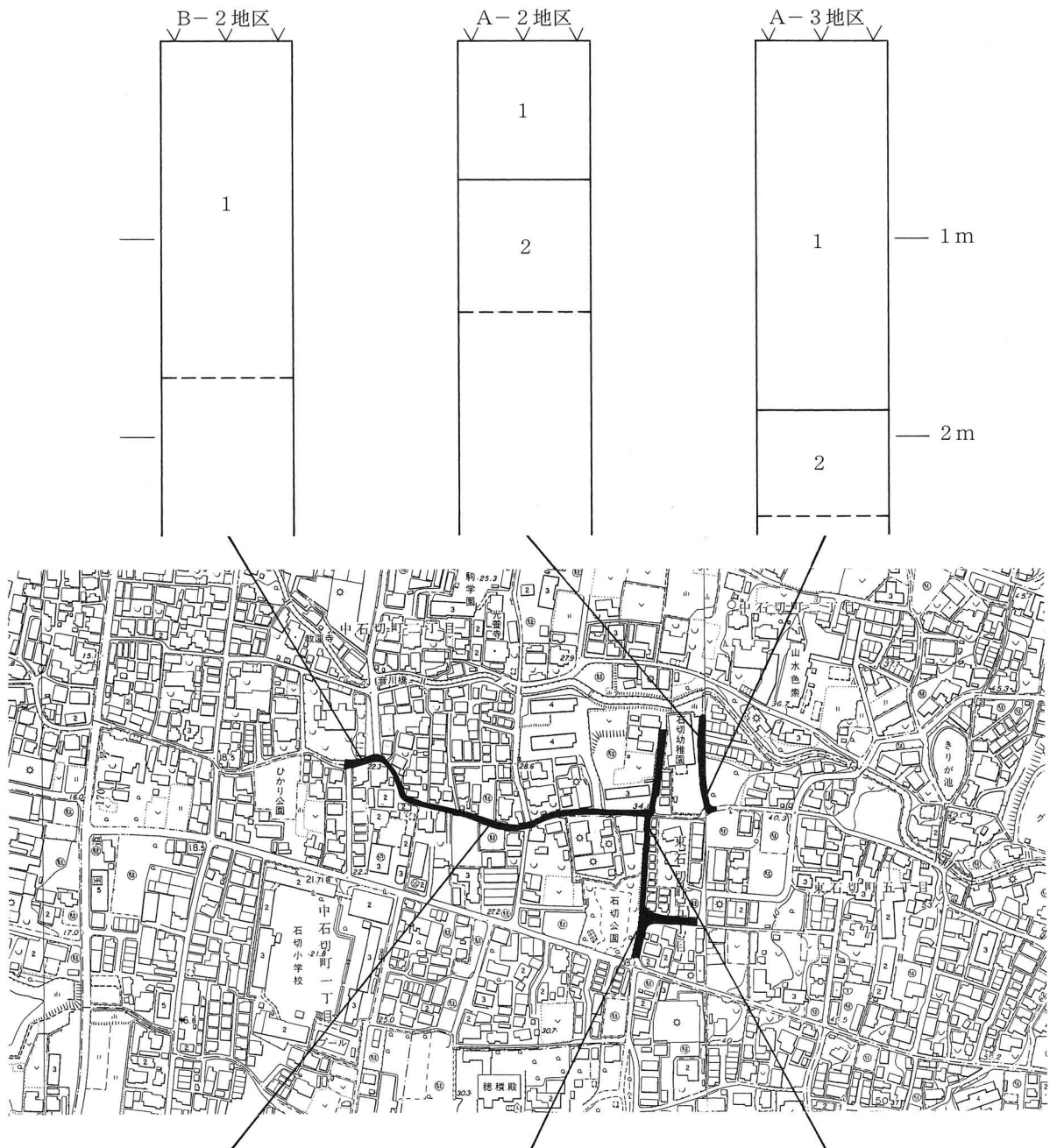
D-3 地区土層断面

第18章 ぶしだに 辻子谷遺跡の第3次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第63工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市中石切町1丁目198～211他
3	調 査 面 積	371㎡
4	調 査 期 間	平成17年3月10日～6月27日（延べ32日）
5	報 告 担 当	松田
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切小学校の北東である。当地点は辻子谷遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ437mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図

1. 調査の概要

調査地区は便宜上A～C地区に分けた。A地区より調査を開始した。その後、B、C地区で行なった。A・B地区で遺物が出土した。

2. 層序

A-2地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。

A-3地区の層序

第1層 盛土。

第2層 褐色(10YR4/4)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

B-2地区の層序

第1層 盛土。

B-10地区の層序

第1層 盛土。

第2層 灰オリーブ色(5Y4/2)細～中粒砂混じりシルト。

第3層 暗オリーブ色(5Y4/3)細粒砂混じりシルト。

第4層 暗緑灰色(5G3/1)シルト。下に巨礫を含む。

C-5地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

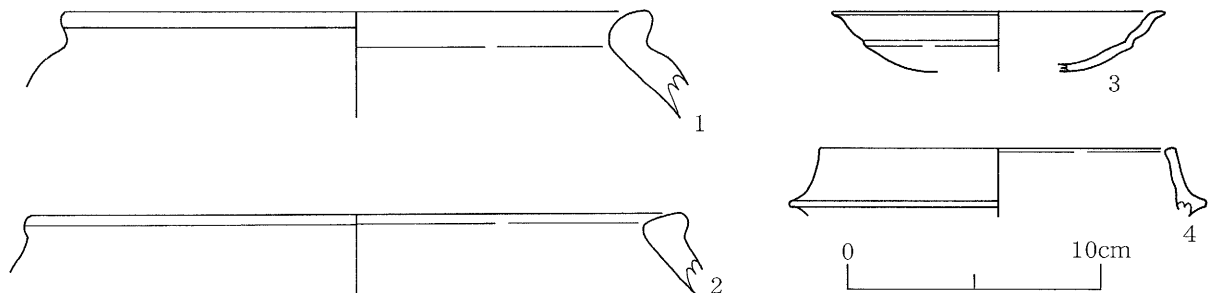
C-7地区の層序

第1層 盛土。

3. 出土遺物

今回の調査では土師器、瓦器、須恵器などが出土した。細片が多く、図化できたのは4点である。須恵器は図化できるものはなかった。土師器の羽釜は、森島康雄氏の「中河内の羽釜」『中近世土器の基礎研究VI』1990年を参考にした。

1～3は土師器である。1・2は河内型の羽釜である。口縁部のみ残存しており、鏝部は欠損する。1は口縁部が内傾し、口縁端部は外上方へ短く外反する。内外面はナデ調整する。口径は23.0cm、残存高は4.3cmを測る。13世紀後半のものである。2は口縁部が内傾する。口縁端部は面を持ち、わずかに外上方へ短く外反する。内外面はナデ調整する。口径は25.6cm、残存高は3.2cmを測る。13世紀後半のものである。3は皿である。体部が外上方へ立ち上がり、口縁部は外反する。口縁端部は丸く



出土遺物実測図

終わる。体部上半から口縁部はヨコナデ調整による2段の凹みをもつ。内面はナデ調整する。外面はヨコナデ調整する。体部に指頭圧痕が残る。口径は13.2cm、残存高は2.6cmを測る。11世紀前半～中頃のものである。1・2はA-3地区、3はB-2地区より出土した。

4は瓦器の羽釜である。口縁部はやや内傾する。口縁端部は面を持つ。鏝部は短く伸び、先端はやや丸みを帯びる。小型である。内外面はナデ調整する。口径は14.0cm、残存高は3.7cmを測る。14世紀中頃のものである。4はA-3地区より出土した。

4. まとめ

辻子谷遺跡は縄文時代～江戸時代にわたる複合遺跡である。今回の調査では古代～中世期の遺物が出土した。いずれも掘削土からの採集であり、土層観察地点で明確な遺物包含層を確認することはできなかった。近辺に当時期の遺物包含層が存在する可能性が高い。



A地区調査地遠景



A-2地区土層断面



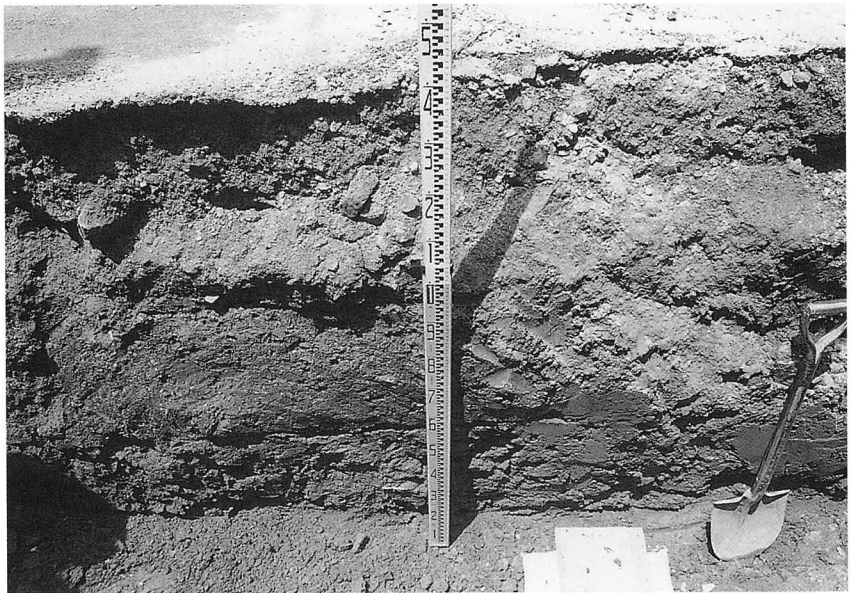
A-3地区土层断面



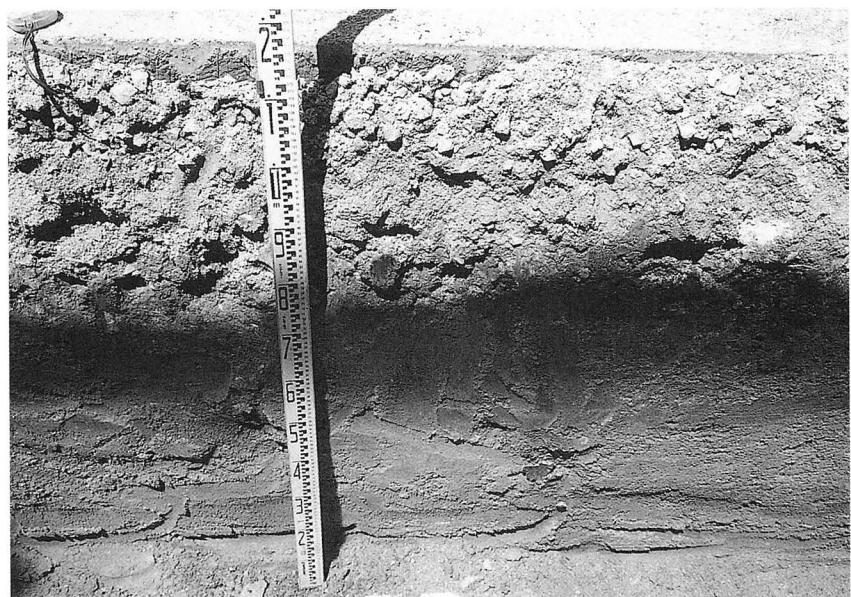
B-2地区土层断面



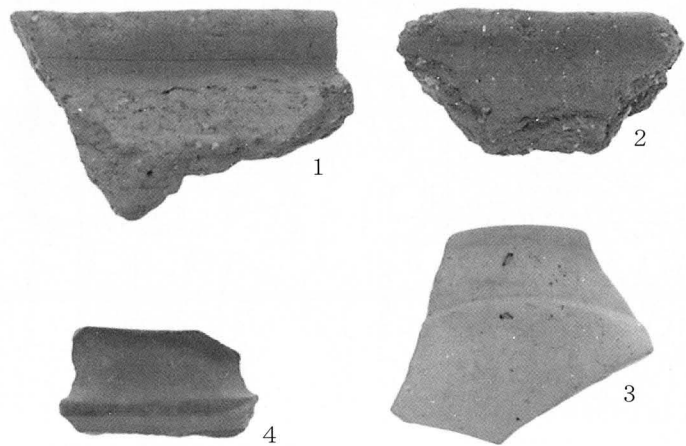
B-10地区土层断面



C-5 地区土層断面



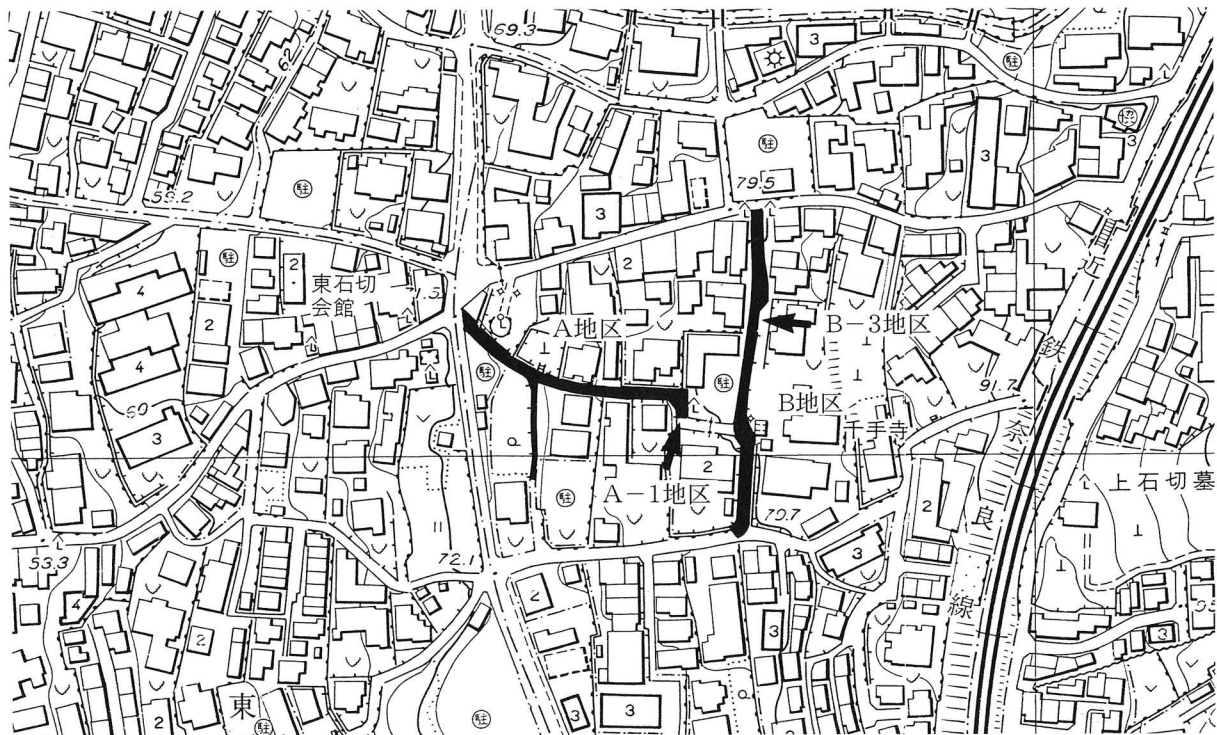
C-7 地区土層断面



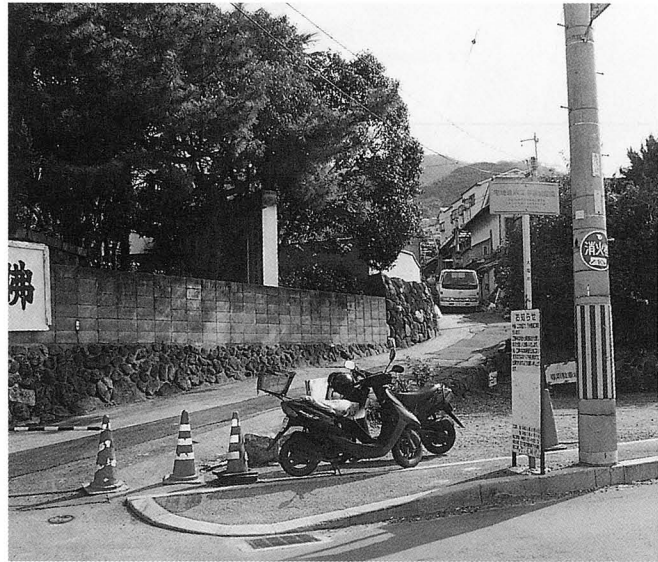
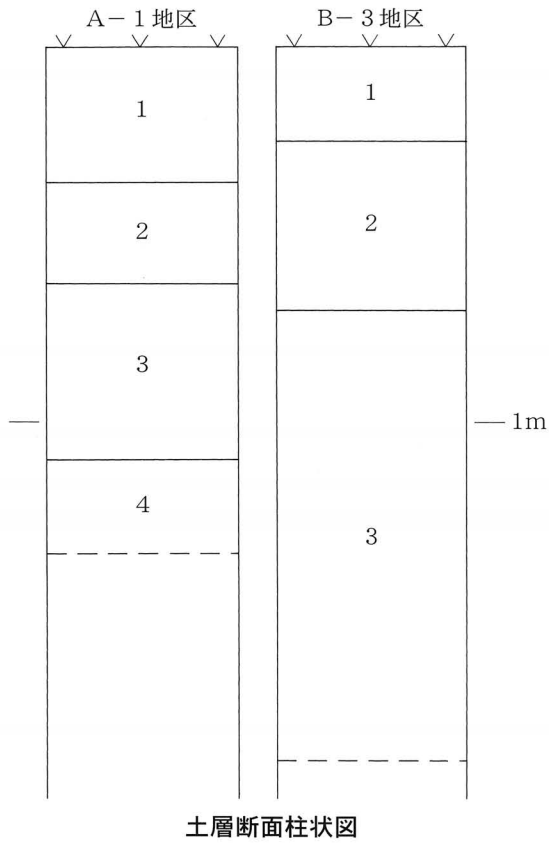
出土遺物 (須恵器・土師器)

せんじゅじやま 第19章 千手寺山遺跡の調査

No.	名称	内容
1	事業名	平成16年度公共下水道第18工区管きよ築造工事
2	調査地点	東大阪市東石切町2丁目402～437
3	調査面積	175m ²
4	調査期間	平成17年2月4日～3月11日（延べ15日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の南西である。当地点は千手寺山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ206mの間であり、開削工法である。</p>



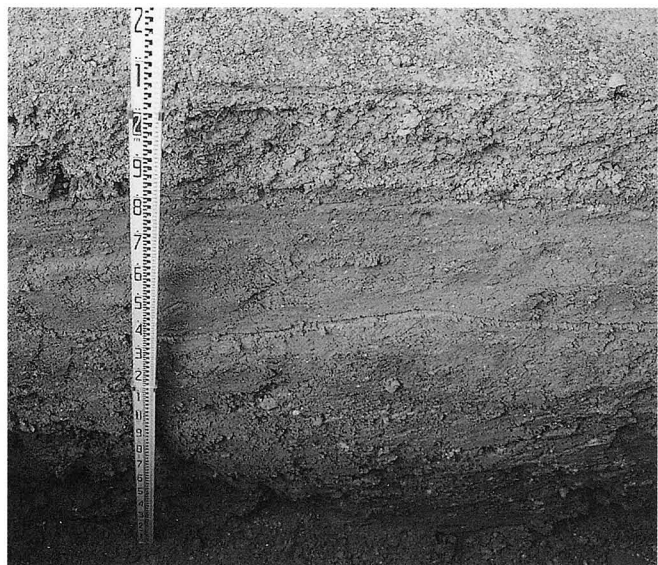
調査地点位置図 (1/2500)



A地区調査地遠景



A-1地区土層断面



B-3地区土層断面

1. 調査の概要

A-1地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗オリーブ褐色(2.5YR3/3)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 暗オリーブ褐色(2.5YR3/3)粘質シルト。
- 第4層 暗オリーブ褐色(2.5YR3/3)粘土。

B-3地区の層序

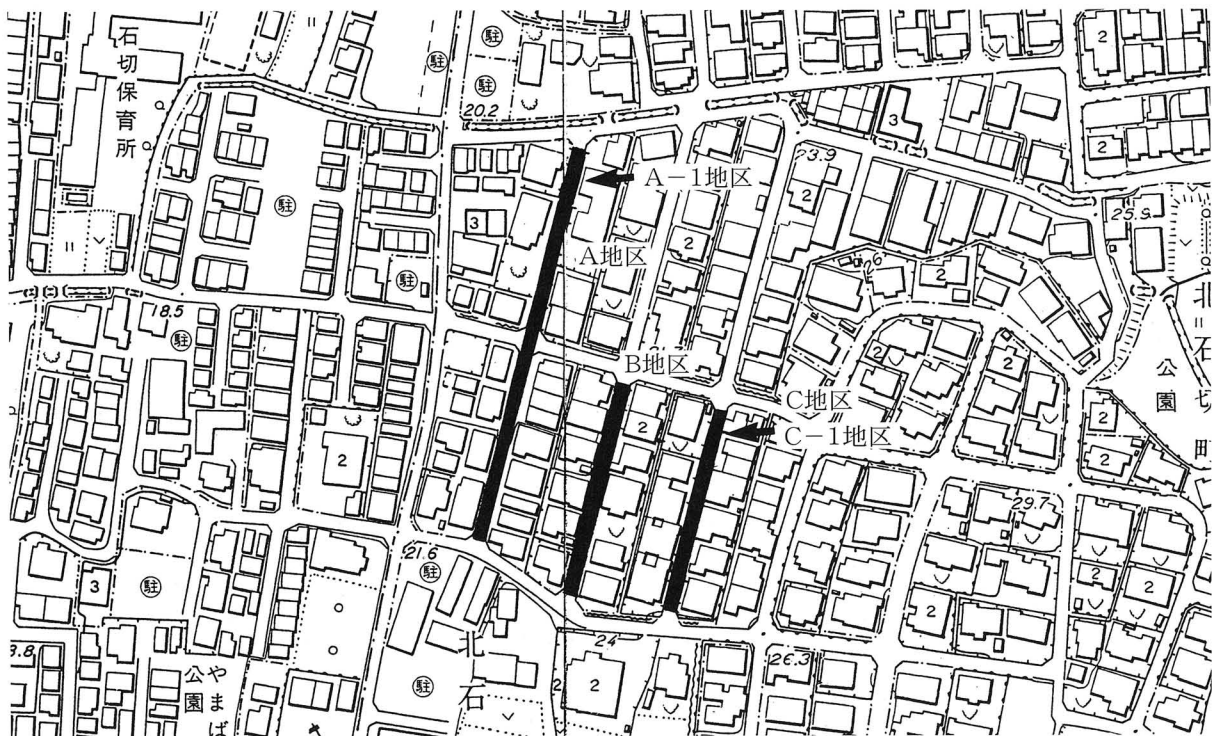
- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗粒砂混じり粘土。
- 第3層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

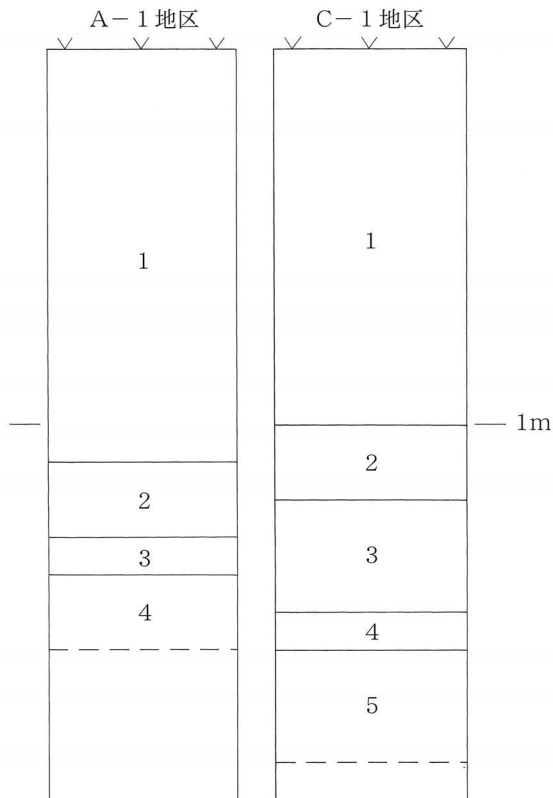
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

しばがおか
第20章 芝ヶ丘遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成16年度公共下水道第101工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市北石切町2214~2262
3	調 査 面 積	228㎡
4	調 査 期 間	平成16年12月3日~17年1月7日 (延べ13日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切保育園の東である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ269mの間であり、開削工法である。C地区の北側半分は工事が中止になった。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-1地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ灰色(5GY5/1)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 黒色(5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 緑灰色(7.5GY5/1)シルト。

C-1地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒色(2.5GY2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)粗粒砂混じりシルト。
- 第4層 暗オリーブ灰色(5GY4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第5層 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)中粒砂混じりシルト。

2. まとめ

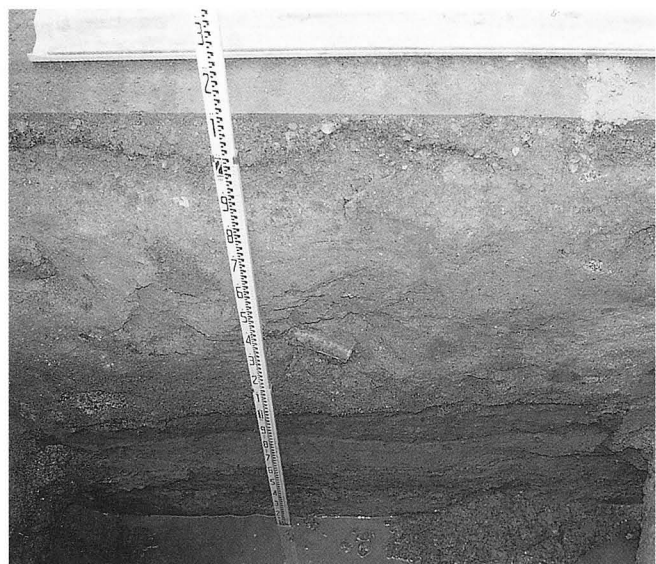
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



A地区調査地遠景



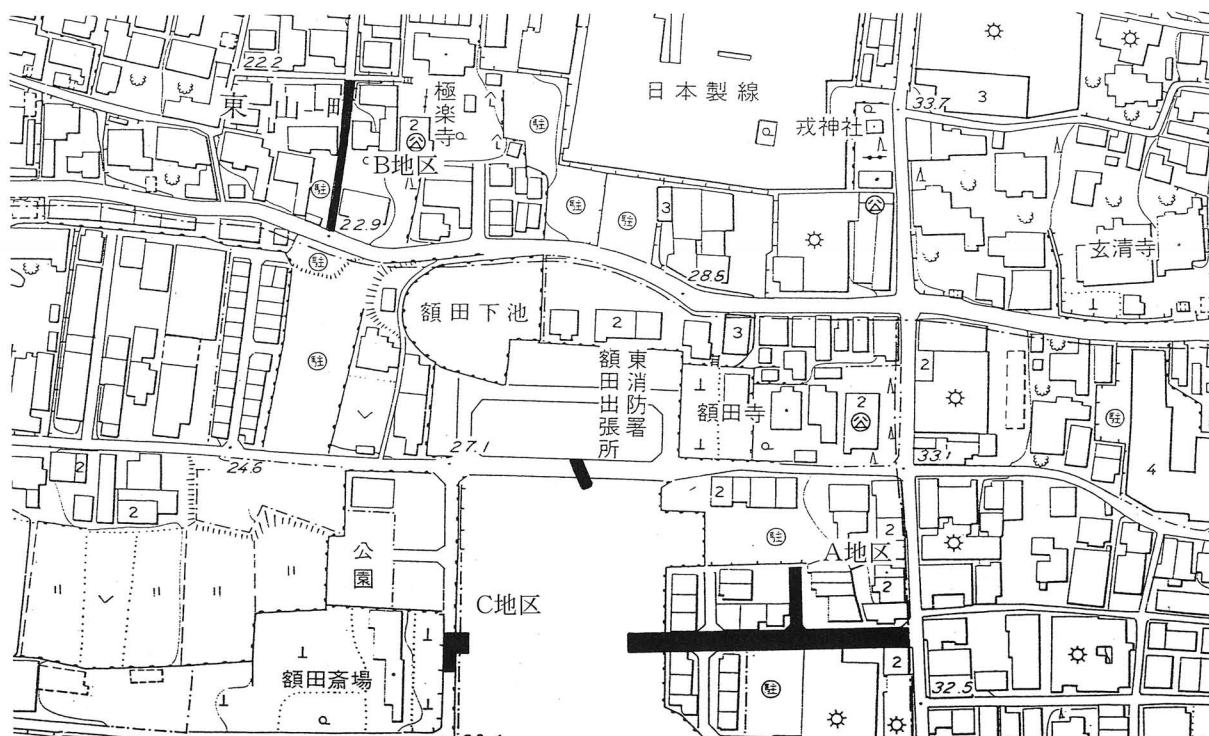
A-1地区土層断面



C-1地区土層断面

がくでんじ
第21章 額田寺跡の第3次調査

名称	内容
1 事業名	平成16年度公共下水道第102工区管きよ築造工事
2 調査地点	東大阪市南荘町300-4~396-3、東山町724~755-6
3 調査面積	137㎡
4 調査期間	平成17年2月9日~4月15日(延べ21日)
5 報告担当	松田
6 調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は額田斎場の東と北である。当地点は額田寺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ161mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)

1. 調査の概要

調査地区は便宜上A～C地区に分けた。B地区から調査を開始した。その後、A、C地区で行なった。A地区で遺物が出土した。

2. 層序

A-4地区の層序

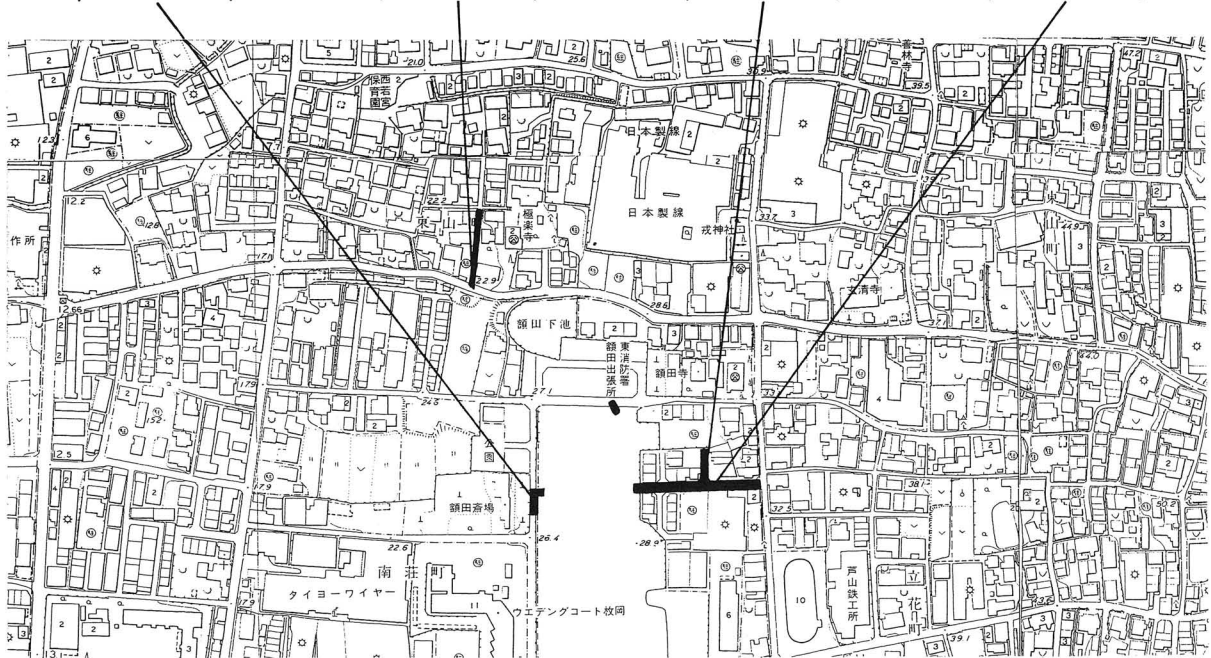
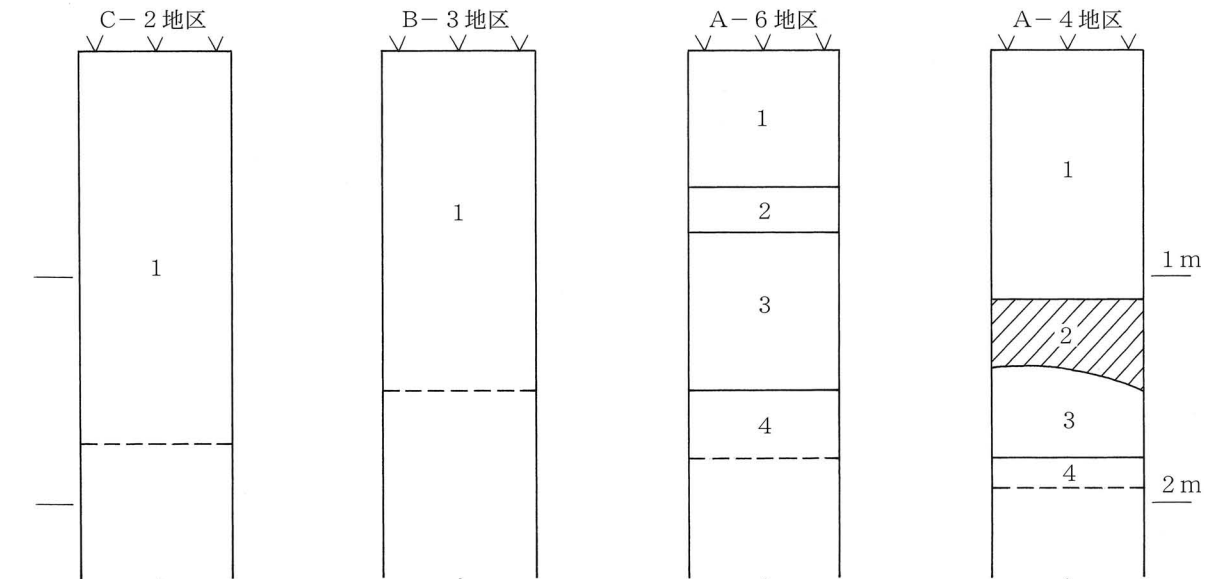
第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/1)粘質シルト～粘土。中世期の遺物が出土。

第3層 オリーブ黒色(7.5Y2/2)粗粒砂混じり粘質シルト。巨礫を含む。

第4層 暗緑灰色(5G3/1)シルト。

A-6地区の層序



土層断面柱状図

第1層 盛土。

第2層 灰色(10Y4/1)細粒砂混じりシルト。

第3層 暗緑灰色(10GY4/1)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第4層 暗緑灰色(7.5G4/1)中粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。

B-3地区の層序

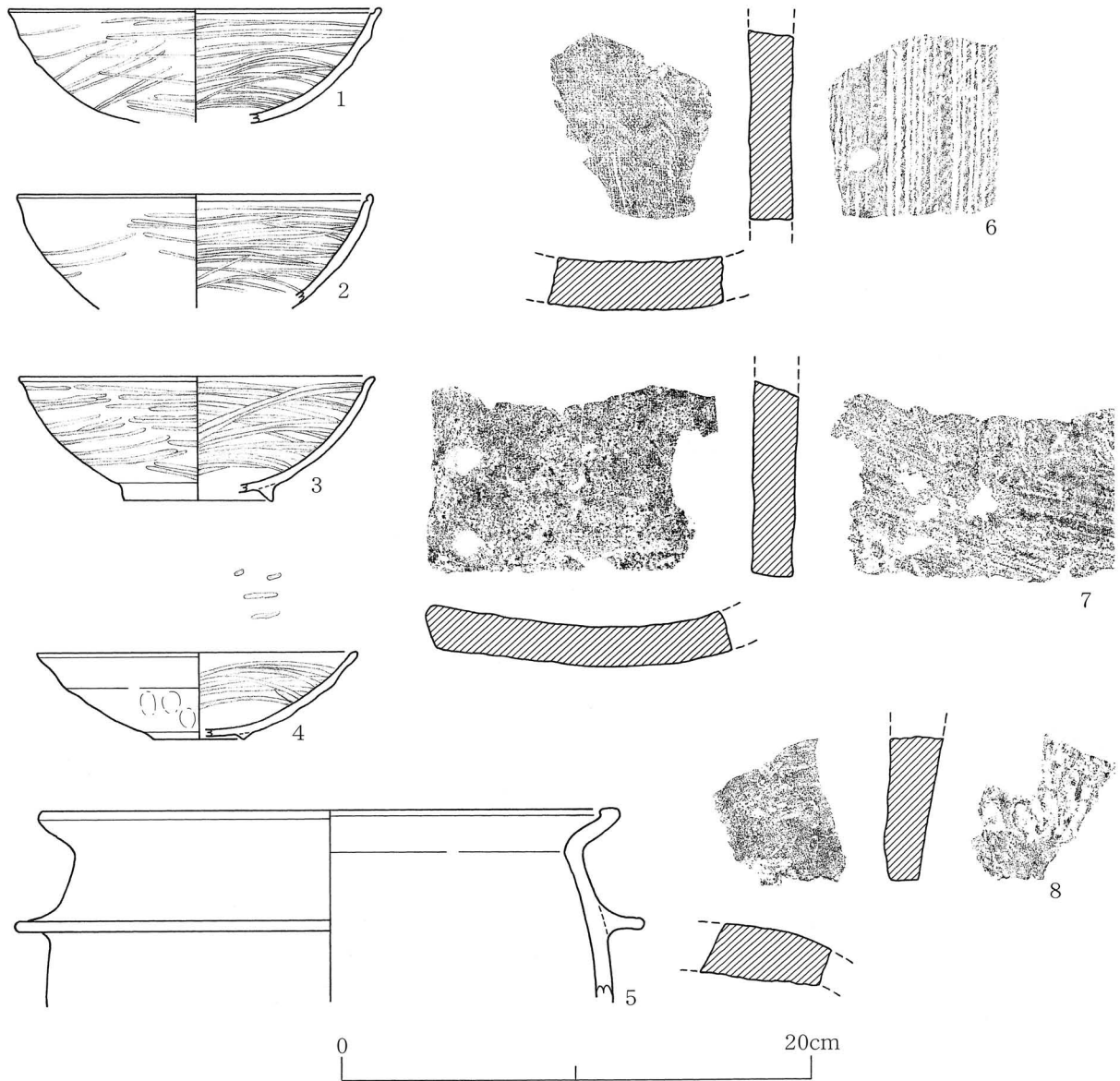
第1層 盛土。

C-2地区の層序

第1層 盛土。

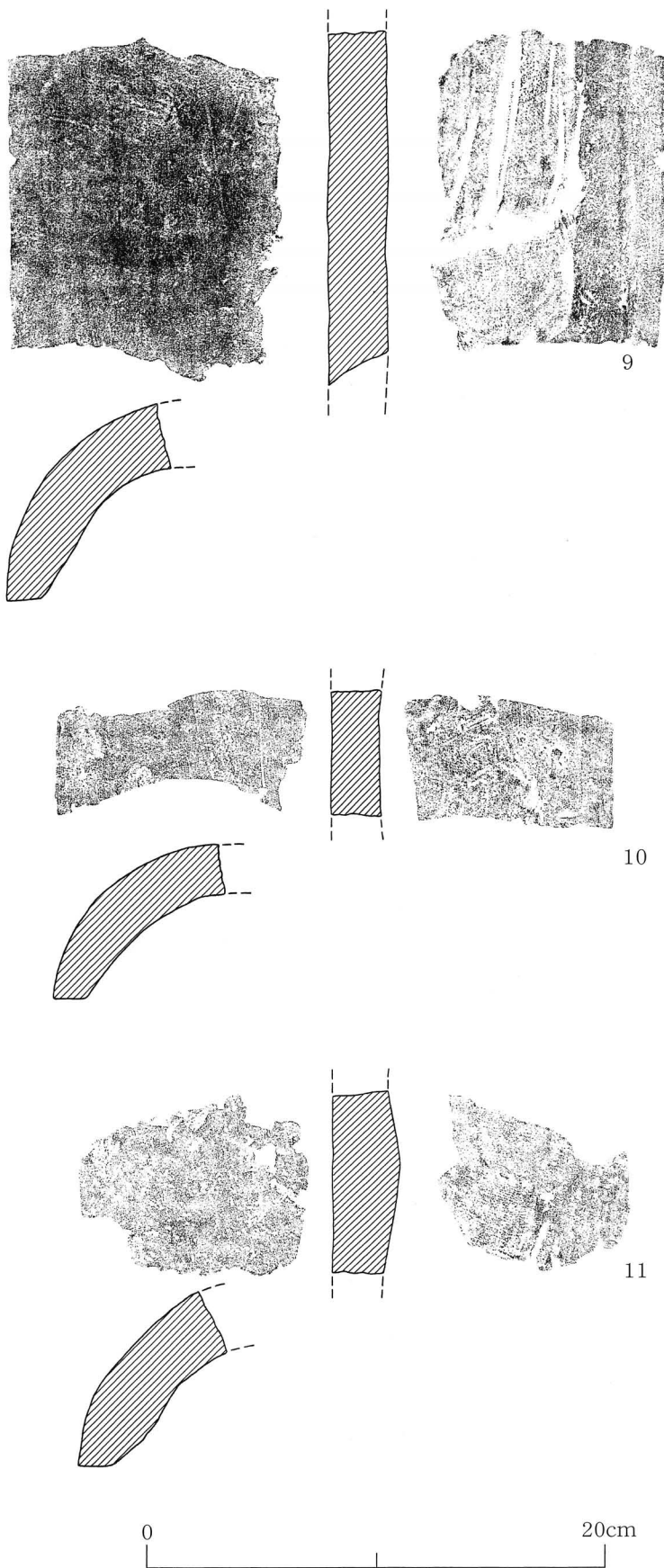
3. 出土遺物

今回の調査では、瓦器、土師器、須恵器、瓦などが出土した。細片が多く、図化できたのは11点である。須恵器は図化できるものがなかった。瓦器碗は大和型を川越俊一氏編年、和泉型を尾上実氏編年『概説 中世の土器・陶磁器』1995年、土師器は森島康雄氏の「中河内の羽釜」『中近世土器の基礎研究VI』1990年を参考にした。



出土遺物実測図

1～4は瓦器碗である。1・2は大和型である。1は口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。内面に1条の沈線を廻らし、内端部には段をもつ。内面のヘラミガキ調整は密に施される。外面はユビオサエの後、ヘラミガキ調整する。口径は15.6cm、残存高は4.9cmを測る。川越編年のI-D期に相当する。11世紀後半～12世紀前半のものである。2は口縁部が緩やかに内弯する。口縁端部はやや直立し、丸く終わる。内面に1条の沈線を廻らす。内面のヘラミガキ調整は隙間がないほど密に施される。外面はユビオサエの後、ヘラミガキ調整する。口径は14.8cm、残存高は4.9cmを測る。川越編年のI-C期に相当する。11世紀後半のものである。3・4は和泉型である。3は口縁部がやや外反する。口縁端部は丸く終わる。高台はやや高く、断面が三角形である。内外面は3mm前後のやや粗いヘラミガキ調整する。口径は15.0cm、器高は5.3cm、底径は6.2cmを測る。尾上編年のI-2期に相当する。11世紀中頃～後半のものである。4は口縁部が外上方へ立ち上がる。口縁端部は外反し、丸く終わる。高台は低く、断面が三角形である。内面は数条のヘラミガキ調整、体部外面は指頭圧痕が残る。見込みに数条の平行線状の暗文を施す。口径は13.6cm、器高は3.7cm、底径は3.8cmを測る。尾上編年のIII-3期に相当する。13世紀中頃のものである。1～3はA-10地区、4はA-4地区の第2層より出土した。



出土遺物実測図

5は土師器の羽釜である。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は短く内側に巻き込むように肥厚する。鏝部の先端は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は24.2cm、残存高は8.3cmを測る。11世紀後半のものである。A-10地区より出土した。

6～11は瓦である。6・7は平瓦である。6は凹面に布目圧痕が残る。凸面は縄目のタタキ調整する。残存長は8.0cm、残存幅は7.4cm、厚さは2.0cmを測る。7は凹面が風化のため調整法が不明である。凸面は縄目のタタキ調整する。残存長は8.4cm、残存幅は13.0cm、厚さは1.9cmを測る。8～11は丸瓦である。8は凹面に布圧痕が残る。煤が付着する。凸面はナデ調整する。残存長は6.2cm、残存幅は5.0cm、厚さは2.7cmを測る。9は凹面に布目圧痕が残る。凸面はナデ調整する。残存長は15.5cm、残存幅は7.2cm、厚さは2.9cmを測る。10は凹面に布目圧痕が残る。凸面はナデ調整する。残存長は2.2cm、残存幅は7.4cm、厚さは2.4cmを測る。11は凹面に布目圧痕が残る。凸面はナデ調整する。残存長は8.0cm、残存幅は6.5cm、厚さは3.0cmを測る。6は奈良時代、その他は中世期のものである。6・8はA-5地区の第2層、7はA-8地区、9～11はA-9地区より出土した。

4. まとめ

額田寺は弘仁年間(810-824)の創建と伝えられている。第1次調査では、旧本堂などに伴い鎌倉時代後期～室町時代前期の遺構・遺物が確認されている。今回の調査で、中世期の瓦が出土しており、額



A地区調査地遠景

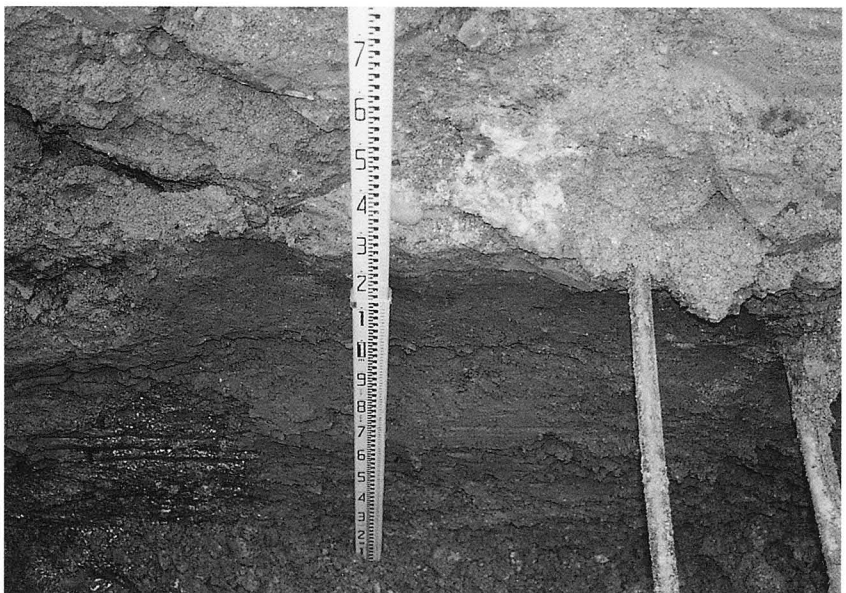
田寺に関連する遺構が存在する可能性が高い。A地区では古代～中世期の遺物が出土した。遺構は確認できなかったが、この周辺に当時期の集落が広がっていることが考えられる。



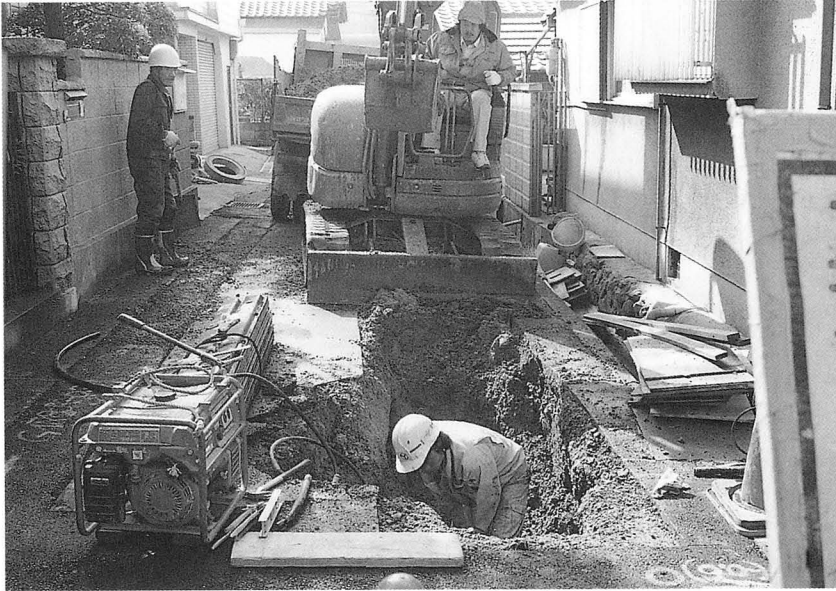
A-2 地区土層断面



A-4 地区土層断面



A-6 地区土層断面



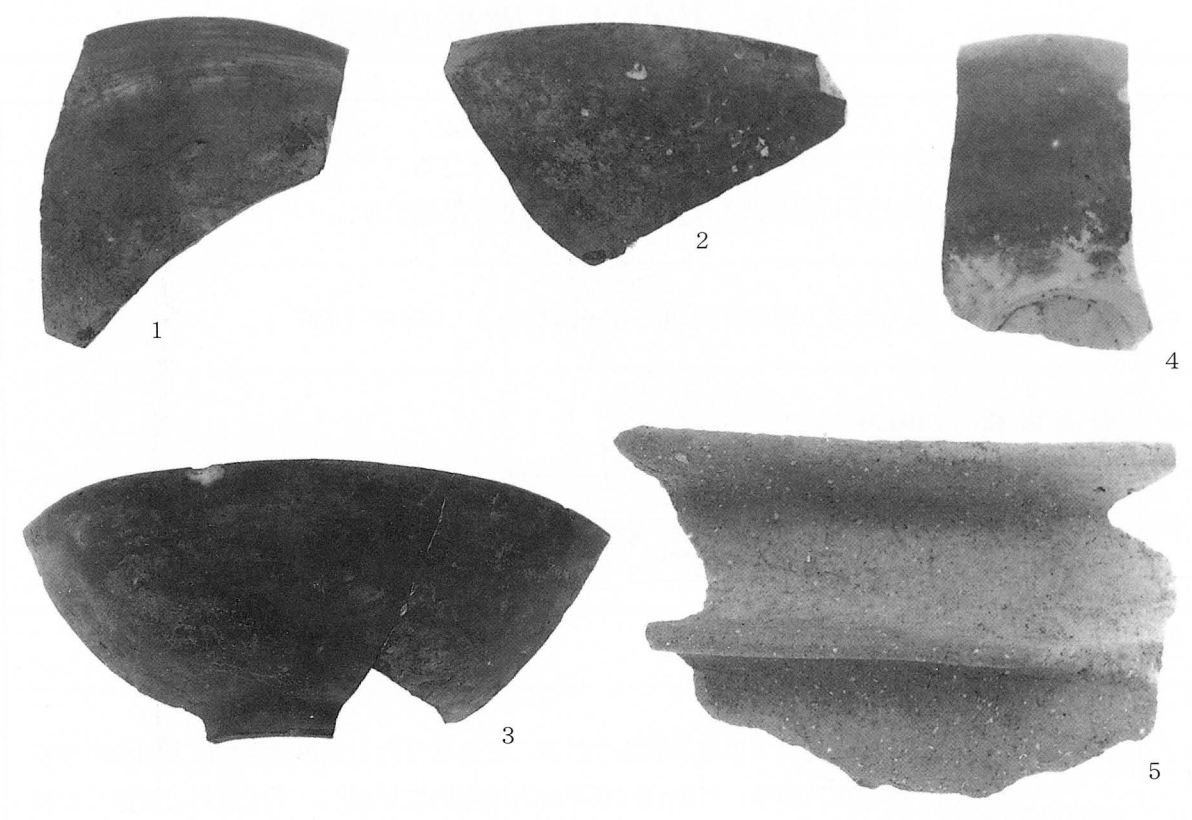
B 地区調査状況



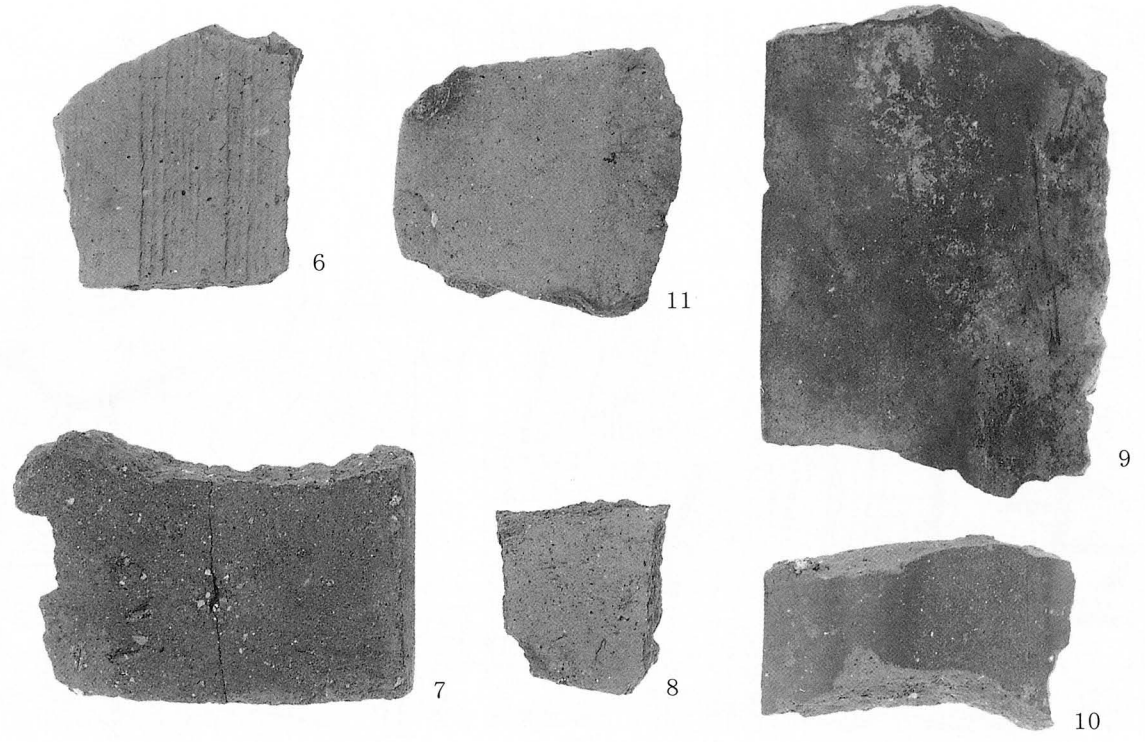
B-3 地区土層断面



C-2 地区土層断面



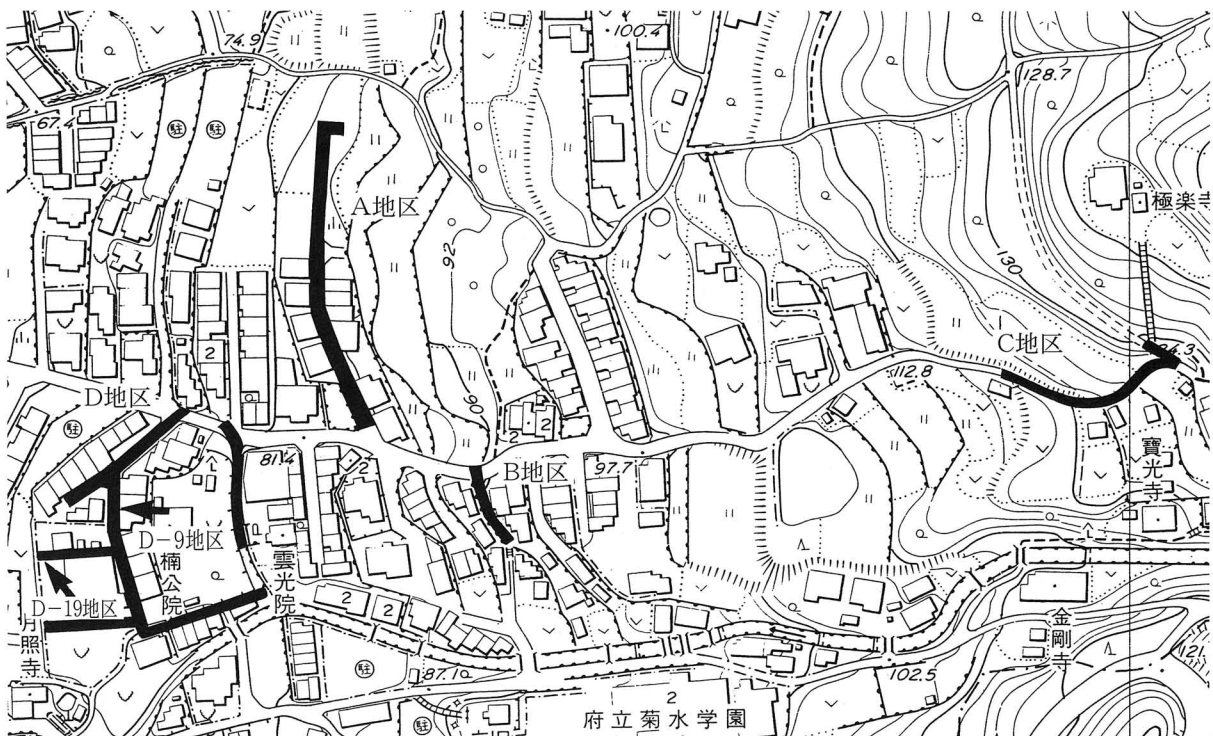
出土遺物 (土師器・瓦器)



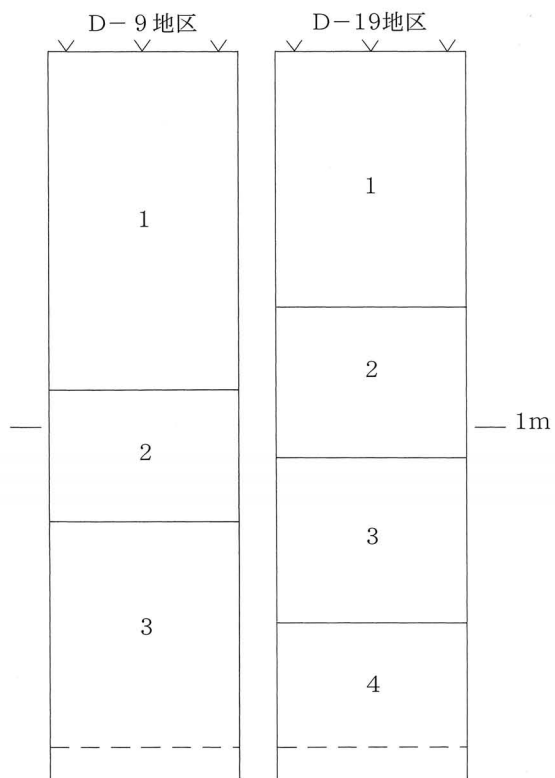
出土遺物 (瓦)

はなくさやま 第22章 花草山古墳群の調査

名 称	内 容
1 事 業 名	平成16年度公共下水道第15工区管きょ築造工事
2 調 査 地 点	東大阪市上四条町1190-8~1218-2、1387~1407
3 調 査 面 積	397㎡
4 調 査 期 間	平成17年5月26日~11月21日(延べ42日)
5 報 告 担 当	才原
6 調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は上四条小学校の南と東である。当地点は花草山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ467mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図



D地区調査地遠景



D-9地区土層断面

1. 調査の概要

D-9地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 オリーブ褐色(2.5Y4/4)粗粒砂混じりシルト。

D-19地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗褐色(10YR3/4)極細粒砂混じりシルト。
- 第3層 にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂混じりシルト。
- 第4層 黄褐色(10YR5/6)細粒砂混じりシルト。

2. まとめ

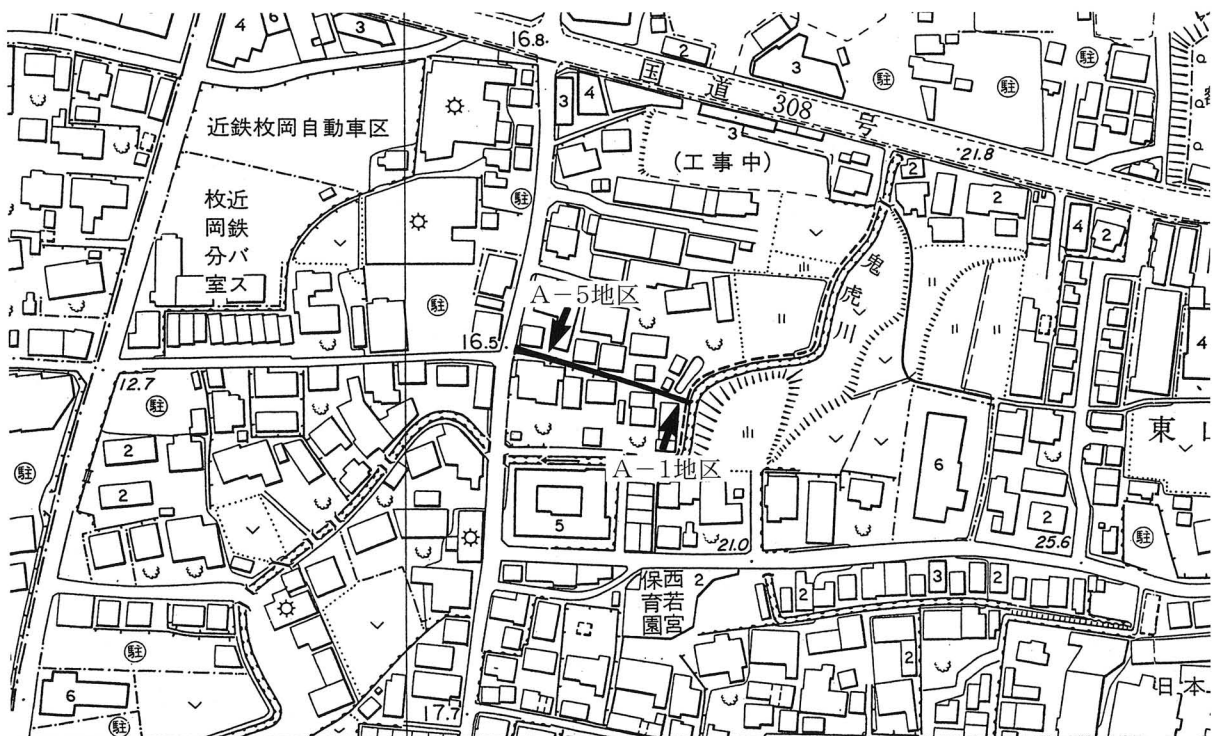
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



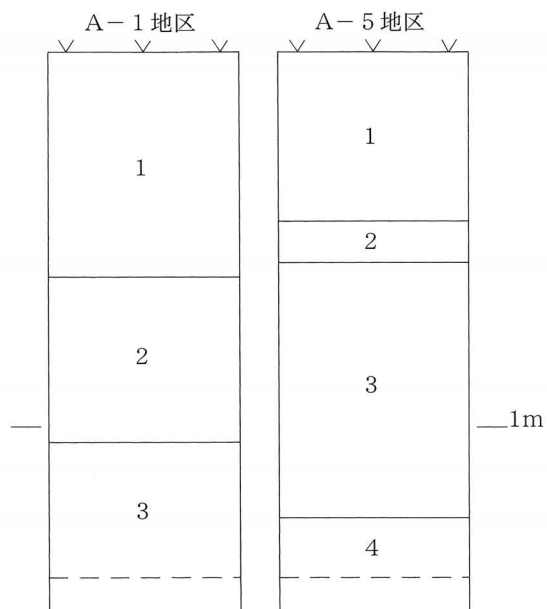
D-19地区土層断面

にし の つじ 第23章 西ノ辻遺跡の調査

No.	名称	内容
1	事業名	平成15年度公共下水道第38工区管きよ築造工事
2	調査地点	東大阪市東山町1071~1072
3	調査面積	44㎡
4	調査期間	平成16年12月1日~12月13日(延べ7日)
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄東大阪線新石切駅の南東である。当地点は西ノ辻遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ52mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混じり粘質シルト。

A-5 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂。

第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じりシルト。

第4層 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



A地区調査地遠景



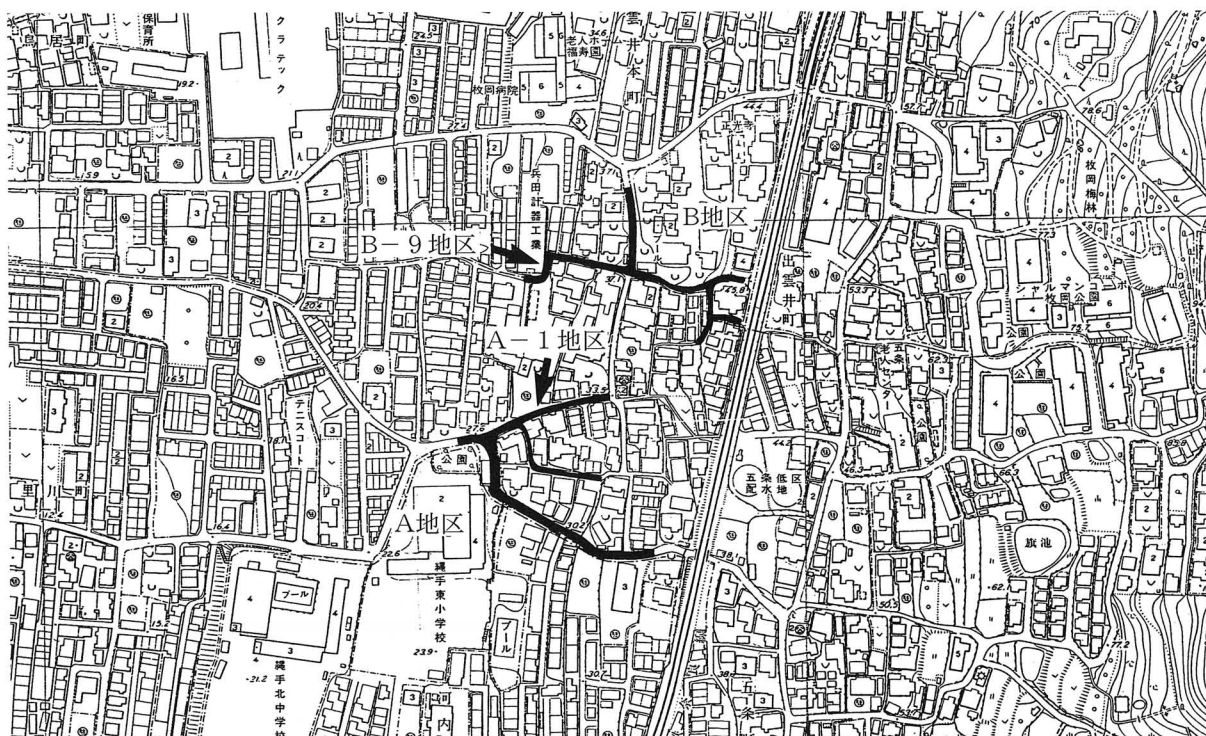
A-1地区土層断面



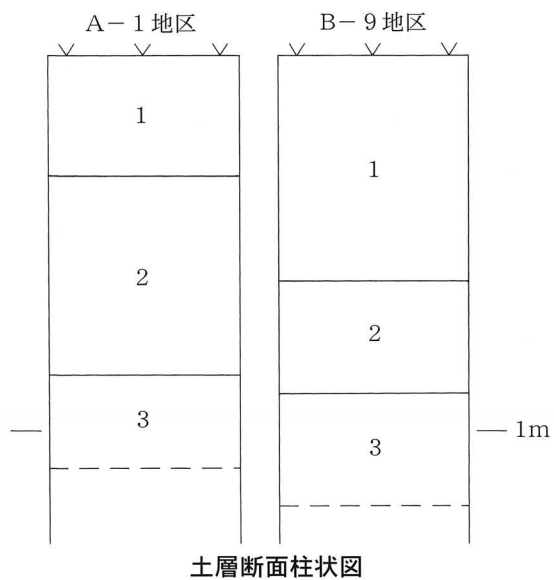
A-5地区土層断面

第24章 きつねづか 孤塚遺跡・いずもい 出雲井遺跡群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第46工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市出雲井町197、喜里川町34～78他
3	調 査 面 積	570㎡
4	調 査 期 間	平成16年11月11日～17年6月17日（延べ36日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地縄手東小学校の北である。当地点は孤塚遺跡・出雲井遺跡群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ665mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/5000)



A地区調査地遠景

1. 調査の概要

A-1地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じり
粘質シルト。

第3層 黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂混じり
シルト。

B-9地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(10YR3/1)細粒砂混じり
粘質シルト。

第3層 黒褐色(10YR2/2)中粒砂混じり
シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出
できなかった。



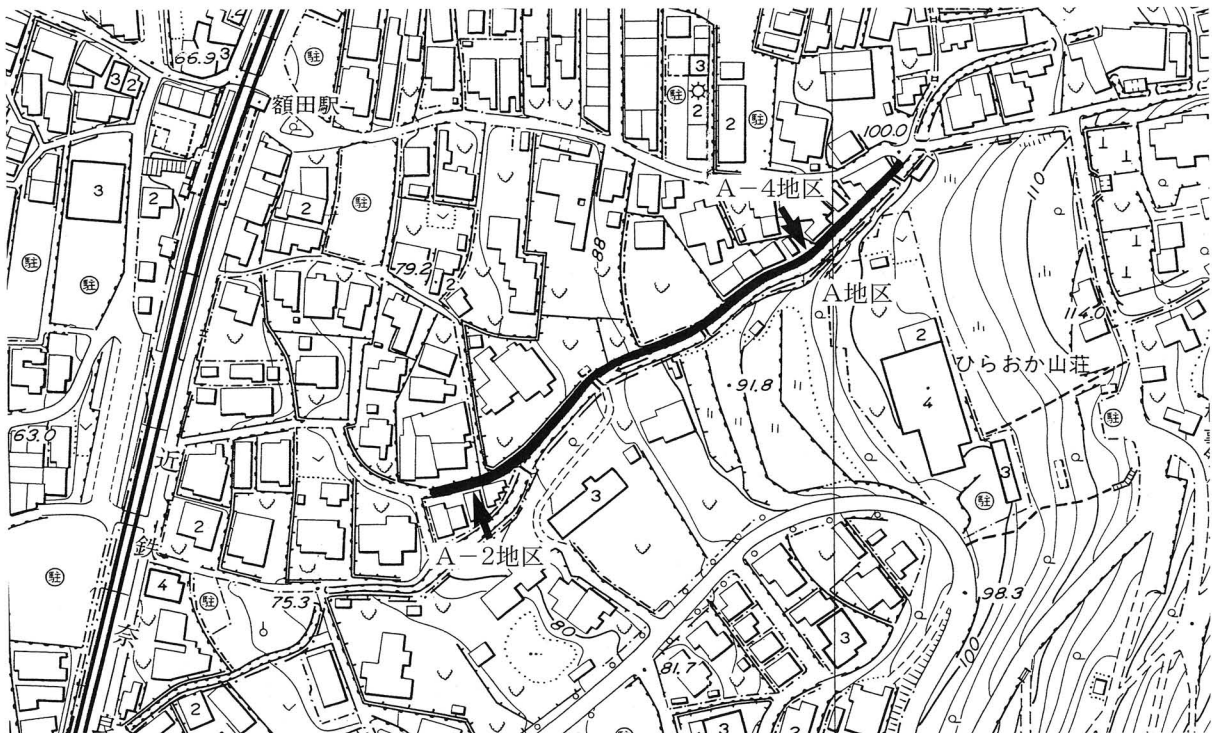
A-1地区土層断面



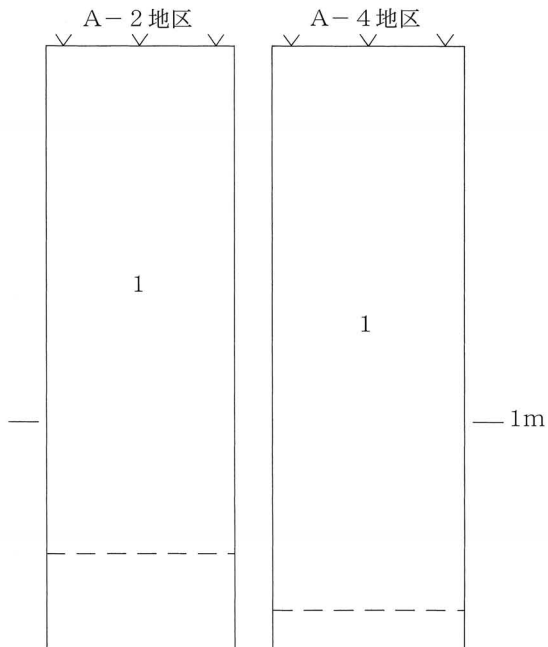
B-9地区土層断面

第25章 ^{やま}みかん山古墳群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第24及び203工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市山手町234～594、229～238
3	調 査 面 積	214㎡
4	調 査 期 間	平成17年5月23日～11月2日（延べ16日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線額田駅の南東である。当地点はみかん山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ252mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-2 地区の層序

第1層 盛土。

A-4 地区の層序

第1層 盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



A 地区調査地遠景



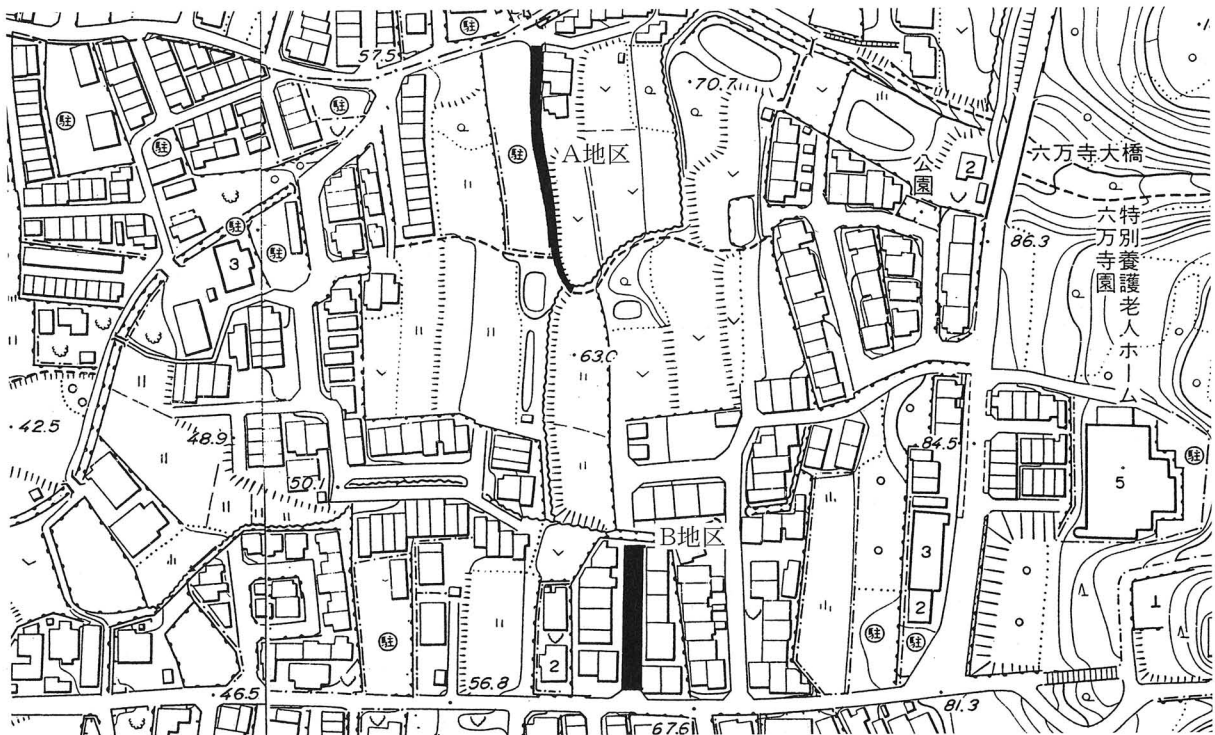
A-2 地区土層断面



A-4 地区土層断面

いわたきやま
第26章 岩滝山遺跡の第10次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成16年度公共下水道第34工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市六万寺町1丁目870～879
3	調 査 面 積	100㎡
4	調 査 期 間	平成17年3月9日～8月4日(延べ38日)
5	報 告 担 当	松田
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は往生院の西である。当地点は岩滝山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ118mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)

1. 調査の概要

調査地区は便宜上A・B地区に分けた。B地区より調査を開始した。A地区で遺物が出土した。また、A-14地区とB-2地区では遺構を検出した。

2. 層序

A-10地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(10YR3/1)シルト～粘質シルト。中世期の遺物が出土。
- 第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。
- 第4層 黄灰色(2.5Y4/1)シルト。小礫を含む。

A-12地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗オリーブ灰色(5GY3/1)中～粗粒砂混じり粘質シルト。弥生時代の遺物が出土。

A-14地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 褐灰色(10YR4/1)粗粒砂混じり粘質土。
- 第3層 暗オリーブ灰色(5GY3/1)中粒砂混じり粘質シルト。弥生時代の遺物が出土。
- 第4層 灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

B-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ褐色(2.5Y4/3)中粒砂混じり粘土。
- 第3層 黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 褐色(10YR4/4)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を多く含む。

B-4地区の層序

- 第1層 盛土。

B-5地区の層序

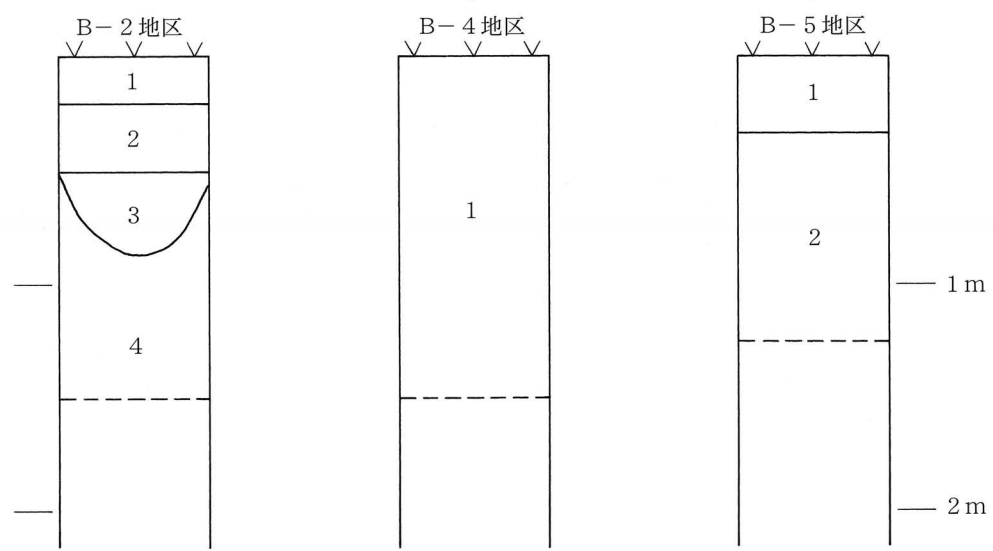
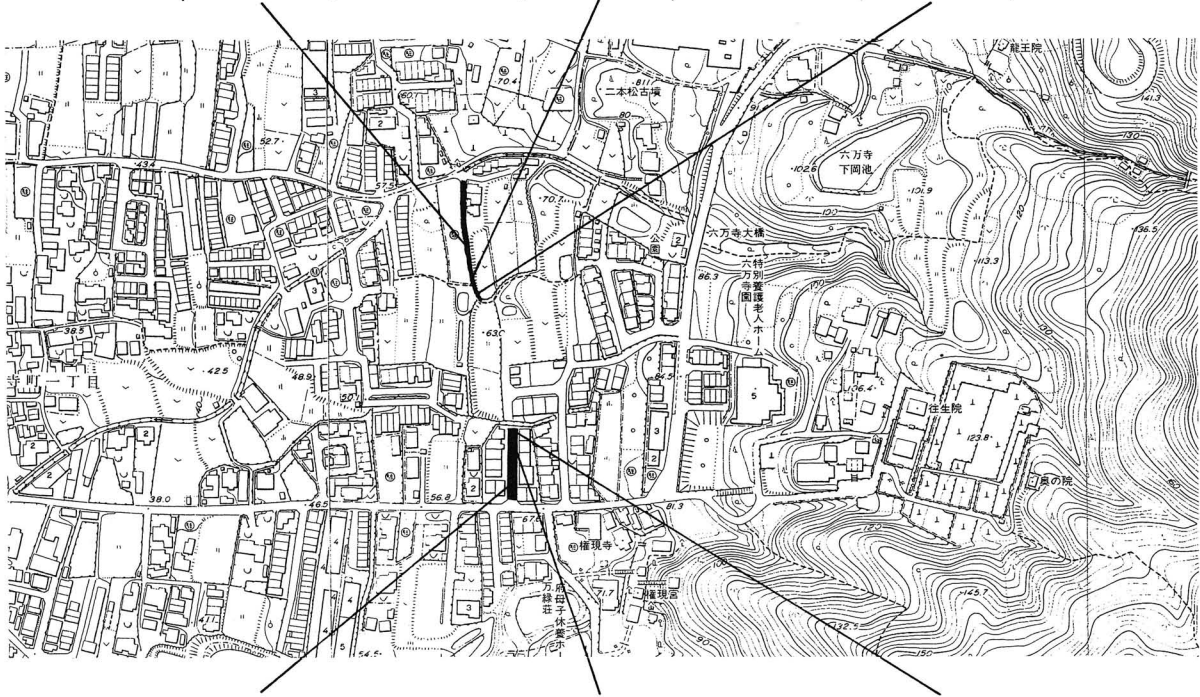
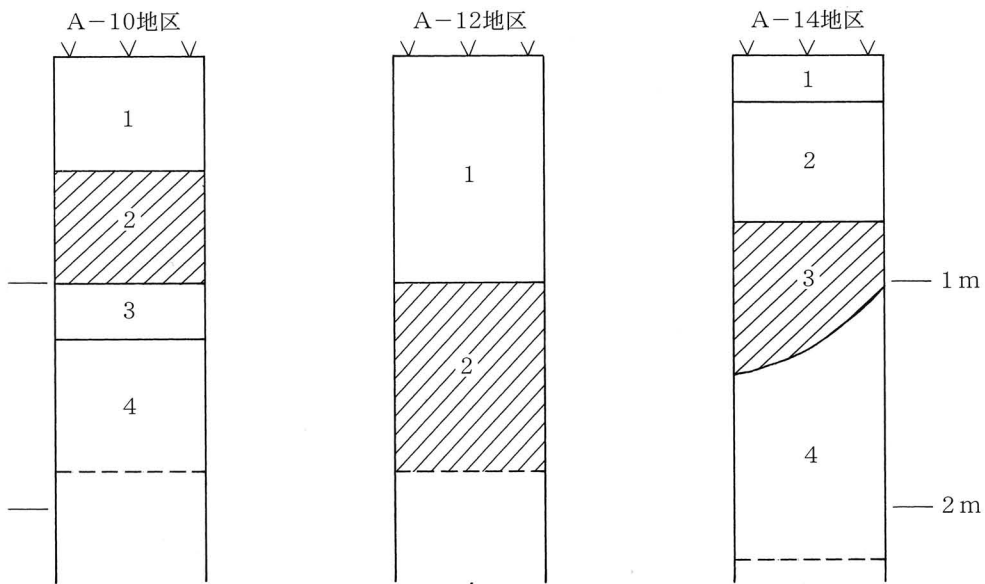
- 第1層 盛土。
- 第2層 褐色(10YR4/4)シルト。小礫を多く含む。

3. 出土遺物

今回の調査では弥生土器、土師器、瓦器、須恵器などが出土した。細片が多く、図化できたのは9点である。

1～5は弥生土器である。1は長頸壺である。口頸部は外反して立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。やや小型で器壁は薄い。内面に接合痕がみられる。風化のため調整法が不明である。口径は8.8cm、残存高は7.6cmを測る。2～4は平底の底部である。2は風化のため調整法が不明である。底径は5.8cm、残存高は4.0cmを測る。3は底面が窪む。内外面はナデ調整する。底径は6.4cm、残存高は2.3cmを測る。4は内面が風化のため調整法が不明、外面はナデ調整する。底径は7.0cm、残存高は1.6cmを測る。5は甕である。口縁部は外上方へわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。口径は21.4cm、残存高は3.9cmを測る。内外面は風化のため調整法が不明である。胎土中に角閃石を含むことから生駒西麓産である。弥生時代後期のものである。1～3・5はA-12地区の遺物包含層、4はA-14地区の遺構内より出土した。

6は土師器の皿である。体部が外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部はやや尖り気味に終わる。



土層断面柱状図

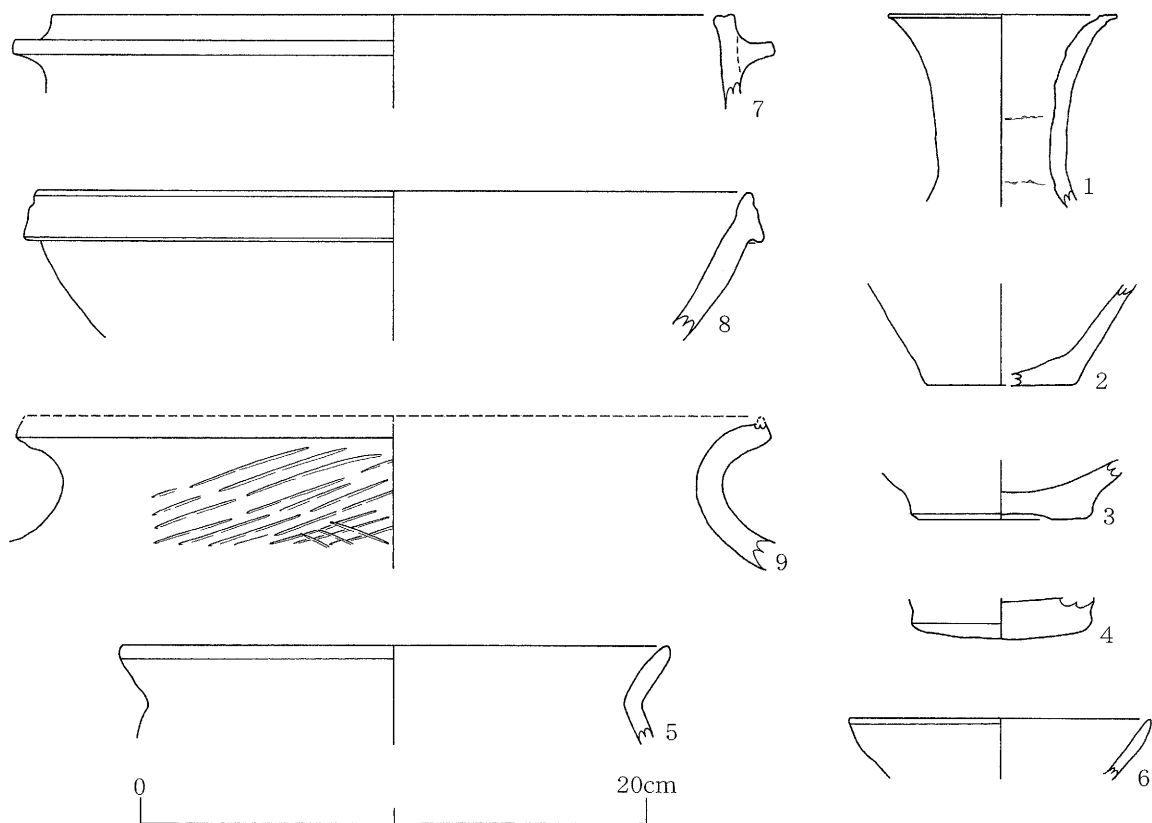
風化のため調整法が不明である。口径は11.8cm、残存高は2.4cmを測る。13世紀のものである。A-12地区より出土した。

7・8は瓦器である。7は羽釜である。口縁部はわずかに内傾し、短く伸びる。口縁端部は面を持つ。鋳部はやや上方へ短く伸び、先端は面を持つ。内外面はナデ調整する。口径は26.8cm、残存高は3.8cmを測る。14世紀前半のものである。8は摺鉢である。体部は外上方へ立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は上下に大きく拡張し、幅広い面を持つ。内外面は風化のため調整法が不明である。口径は28.0cm、残存高は6.4cmを測る。13世紀後半～14世紀前半のものである。7はA-9地区、8はA-10地区より出土した。

9は東播系須恵器の甕である。口縁部は大きく外反する。口縁端部は上方へ短く拡張する形状であるが、欠損している。内面はナデ調整。外面は右下がりと左下がり方向のタタキ調整する。口径は29.2cm、残存高は6.0cmを測る。12世紀のものである。A-7地区より出土した。

4. まとめ

今回の調査ではA-14地区とB-2地区で遺構を確認した。A-14地区の遺構は南から北に落ち込む形状であるが、調査範囲が狭いため詳細は不明である。遺構内の第3層からは弥生時代後期の土器が出土した。調査地区南側の第5次調査では後期の集落域がみつかり、今回の調査地区周辺にも当該時期の遺構が広がることが確認できた。また、B-2地区で検出した遺構は土坑と考えられるが、遺物は出土しておらず、詳細は不明である。調査地区の南東には平安時代後期に建立された往生院がある。第5次調査では中世期の寺院関係の遺構と遺物が確認されている。今回、出土した中世期の遺物も同時期のものであり、往生院に関連する可能性が高い。



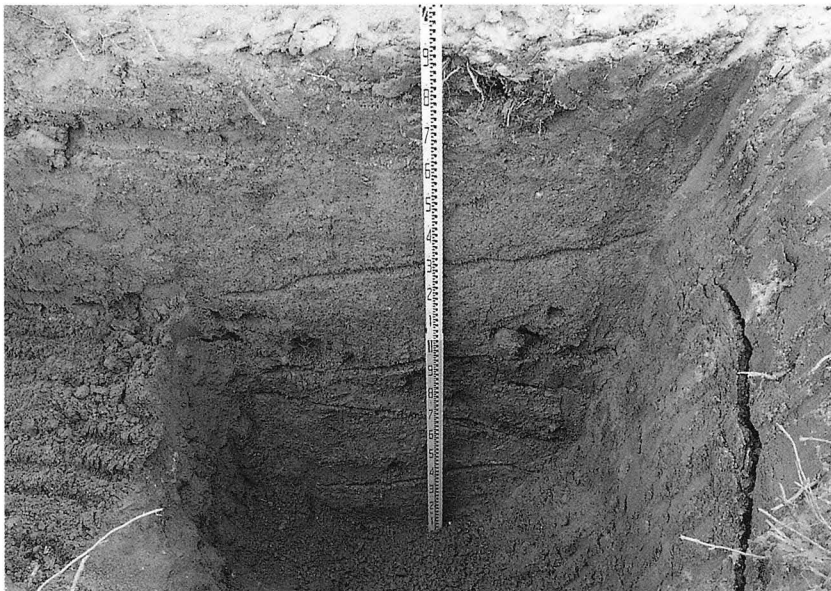
出土遺物実測図



A地区調査地遠景



A-10地区土層断面



A-12地区土層断面



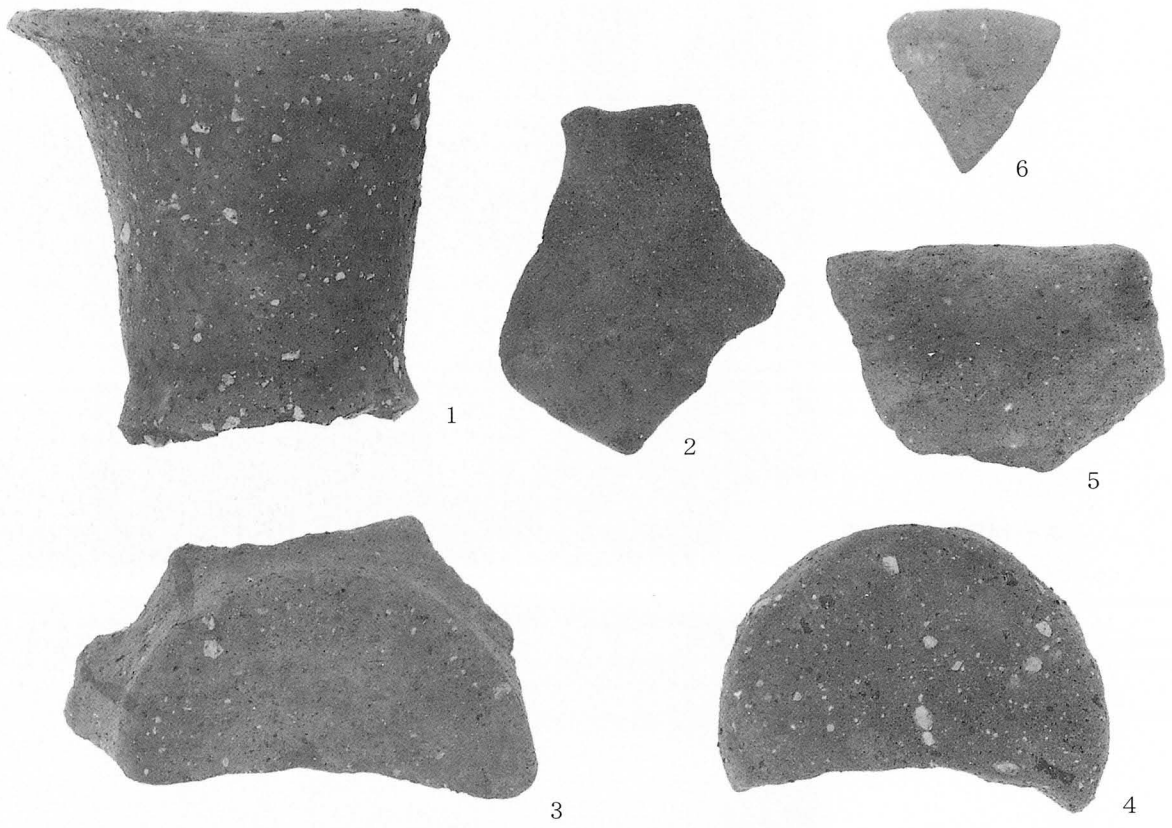
A - 14地区土層断面



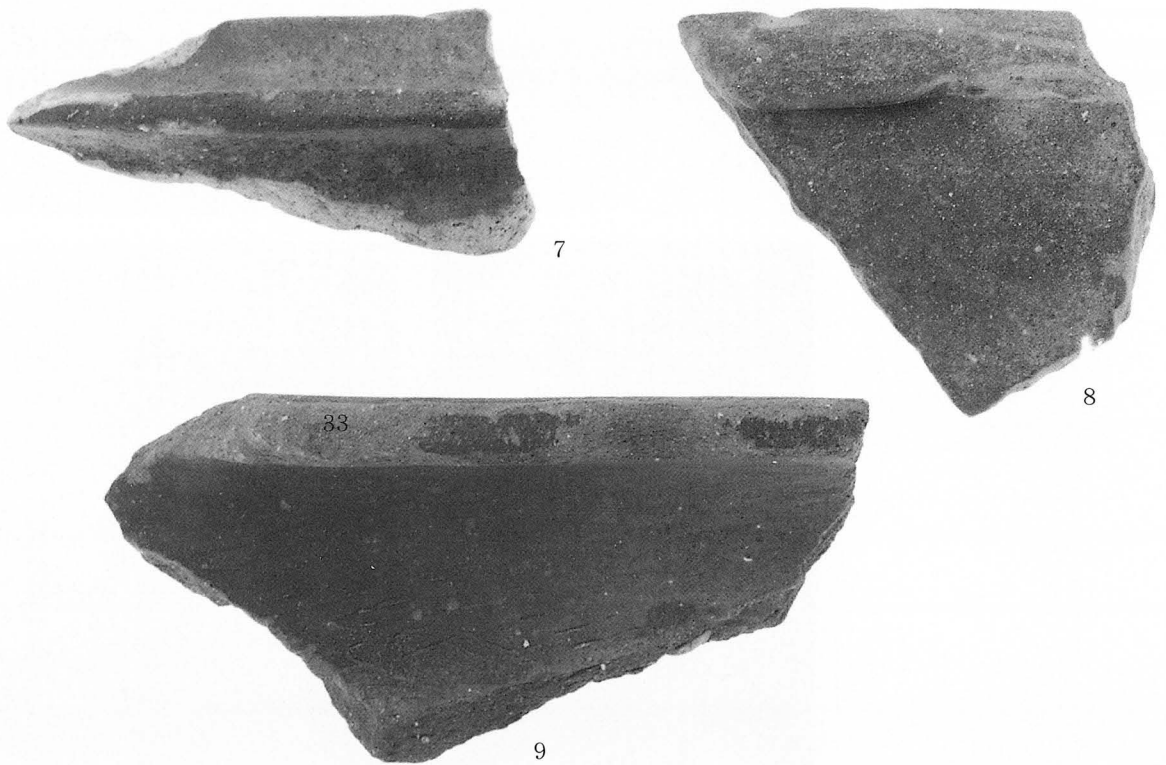
B - 2地区土層断面



B - 5地区土層断面



出土遺物（弥生土器・土師器）

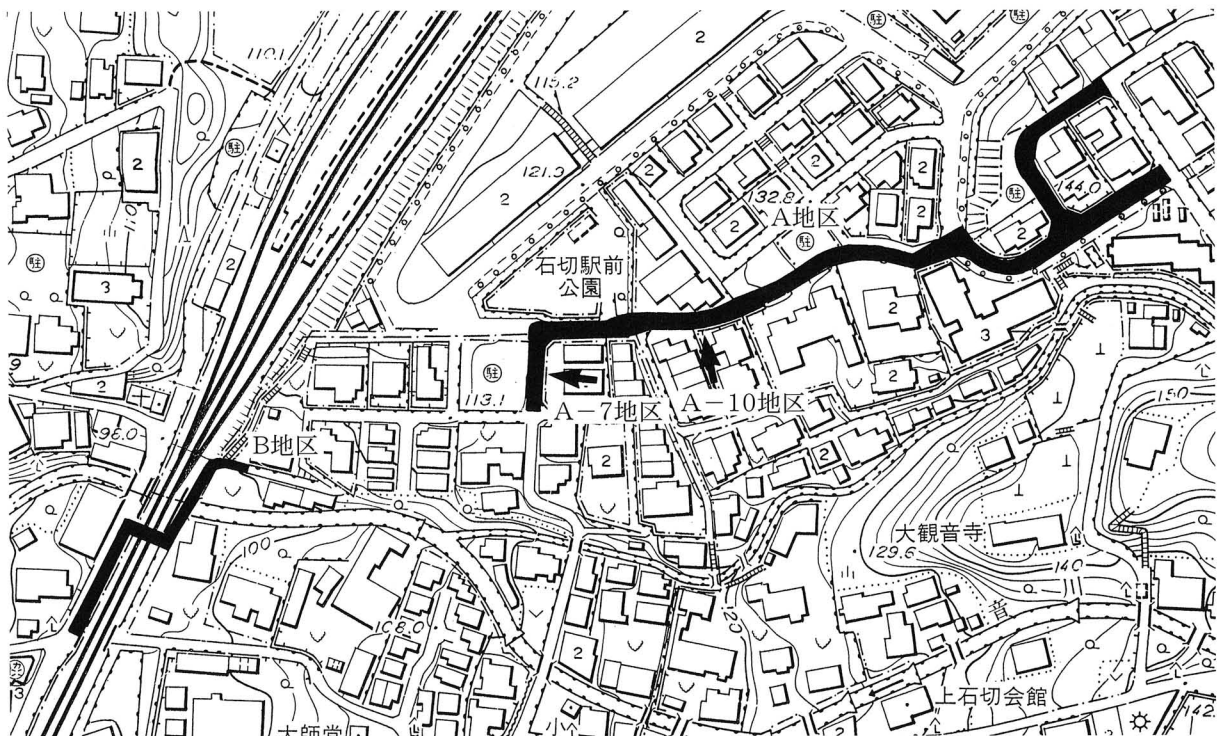


出土遺物（瓦器・須恵器）

せんじゅじやま はかのお

第27章 千手寺山遺跡・墓尾古墳群の調査

名 称	内 容
1 事 業 名	平成16年度公共下水道第24工区管きよ築造工事
2 調 査 地 点	東大阪市上石切町 2丁目1422～1426-4他
3 調 査 面 積	364㎡
4 調 査 期 間	平成17年 7月27日～11月14日 (延べ19日)
5 報 告 担 当	才原
6 調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の西である。当地点は千手寺山遺跡・墓尾古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ428mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



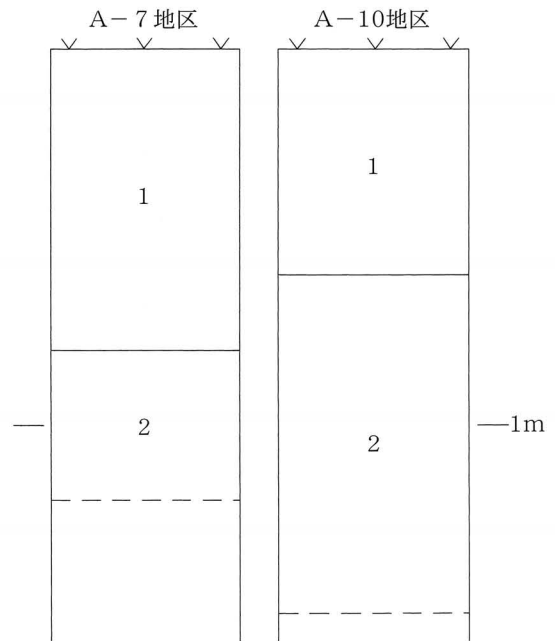
A地区調査地遠景



A-7地区土層断面



A-10地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-7地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黄褐色(10YR5/8)粘質シルト。

A-10地区の層序

第1層 盛土。

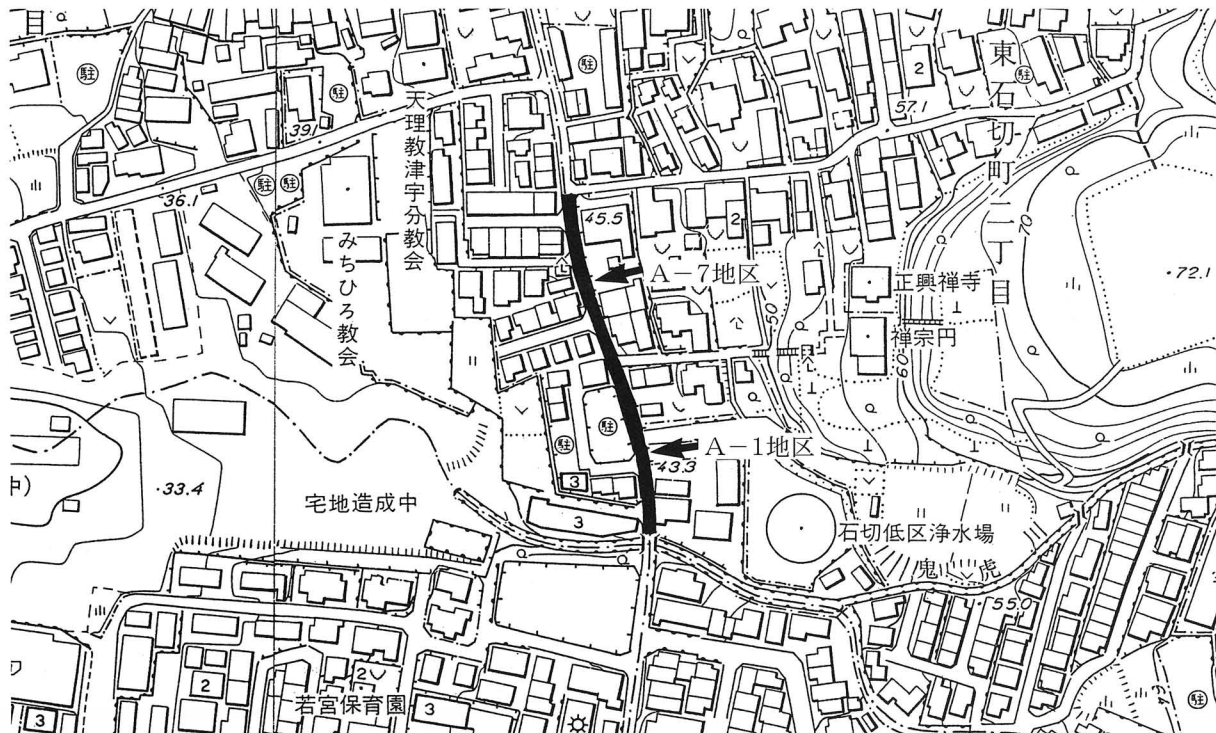
第2層 黄褐色(2.5Y5/6)粘質シルト。

2. まとめ

A地区で立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。B地区は夜間工事に変更となり、立会調査をすることができなかった。

第28章 こうなみ 神並遺跡の調査

No.	名称	内容
1	事業名	平成16年度公共下水道第31工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市東石切町2丁目926～928
3	調査面積	157㎡
4	調査期間	平成17年7月8日～10月7日（延べ20日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄東大阪線新石切駅の東である。当地点は神並遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ158mの間であり、開削工法と一部推進工法である。



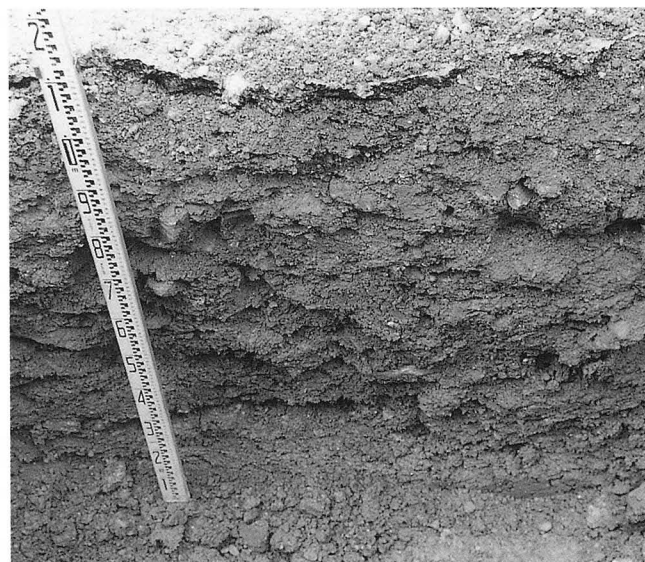
調査地点位置図（1/2500）



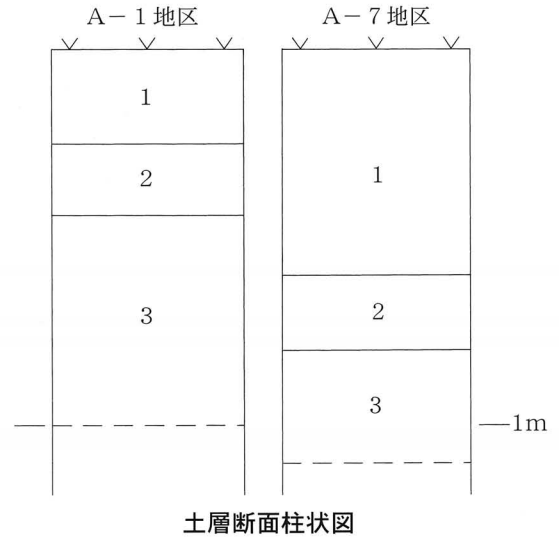
A地区調査地遠景



A-1地区土層断面



A-7地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-1地区の層序

第1層 盛土。

第2層 オリーブ黒色(5Y3/2)中粒砂混じり粘質シルト。

第3層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗粒砂混じりシルト。

A-7地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(7.5YR3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

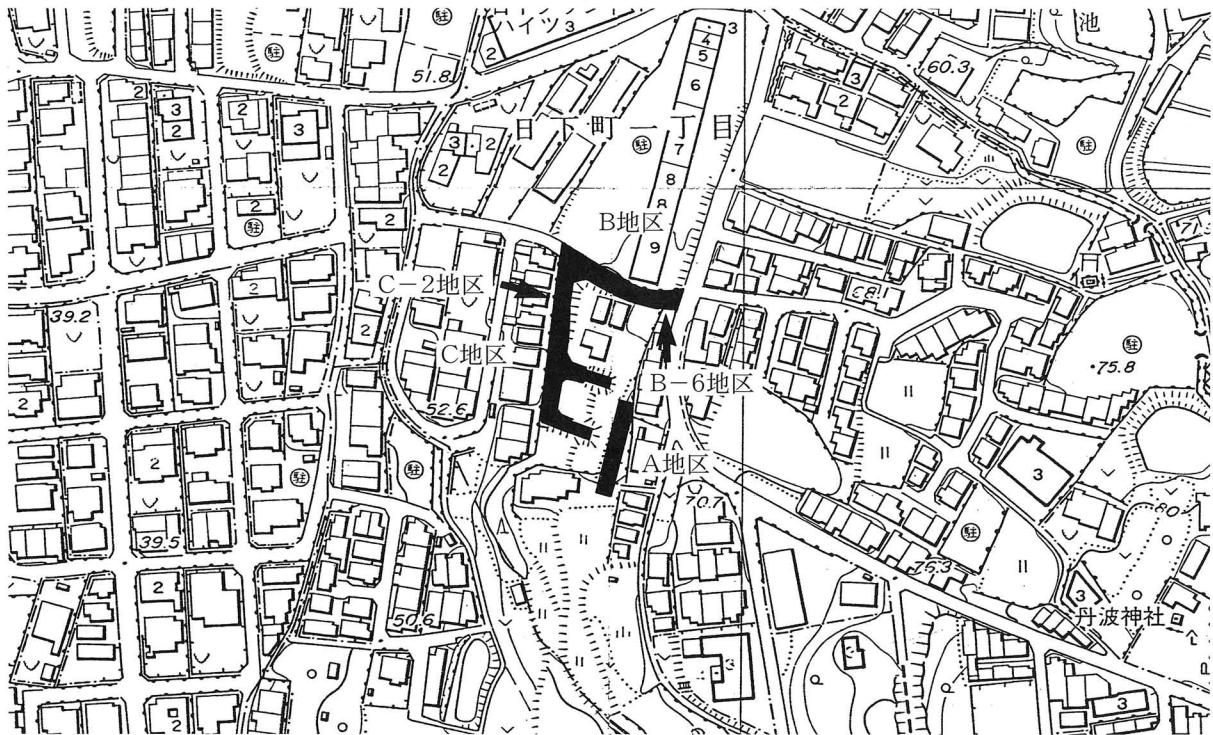
第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

しょうほう じやま
第29章 正法寺山遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成16年度公共下水道第27工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市日下町1丁目1022～1027他
3	調 査 面 積	211㎡
4	調 査 期 間	平成17年6月6日～10月12日（延べ26日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の東である。当地点は正法寺山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ248mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



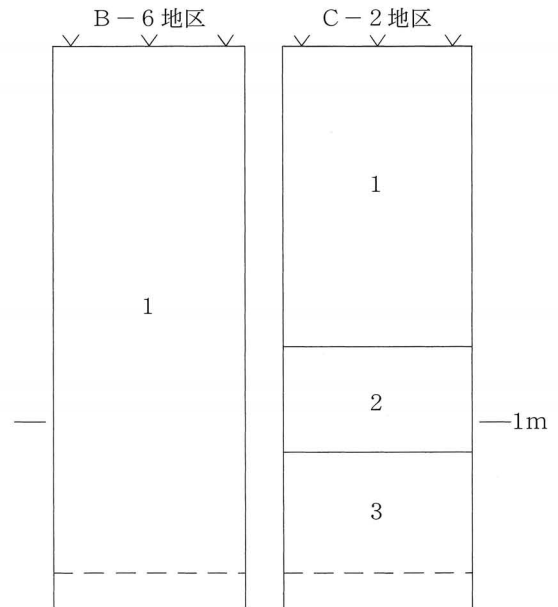
B 地区調査地遠景



B - 6 地区土層断面



C - 2 地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

B - 6 地区の層序

第1層 盛土。

C - 2 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 オリーブ褐色(2.5Y4/6)細粒砂
混じりシルト。

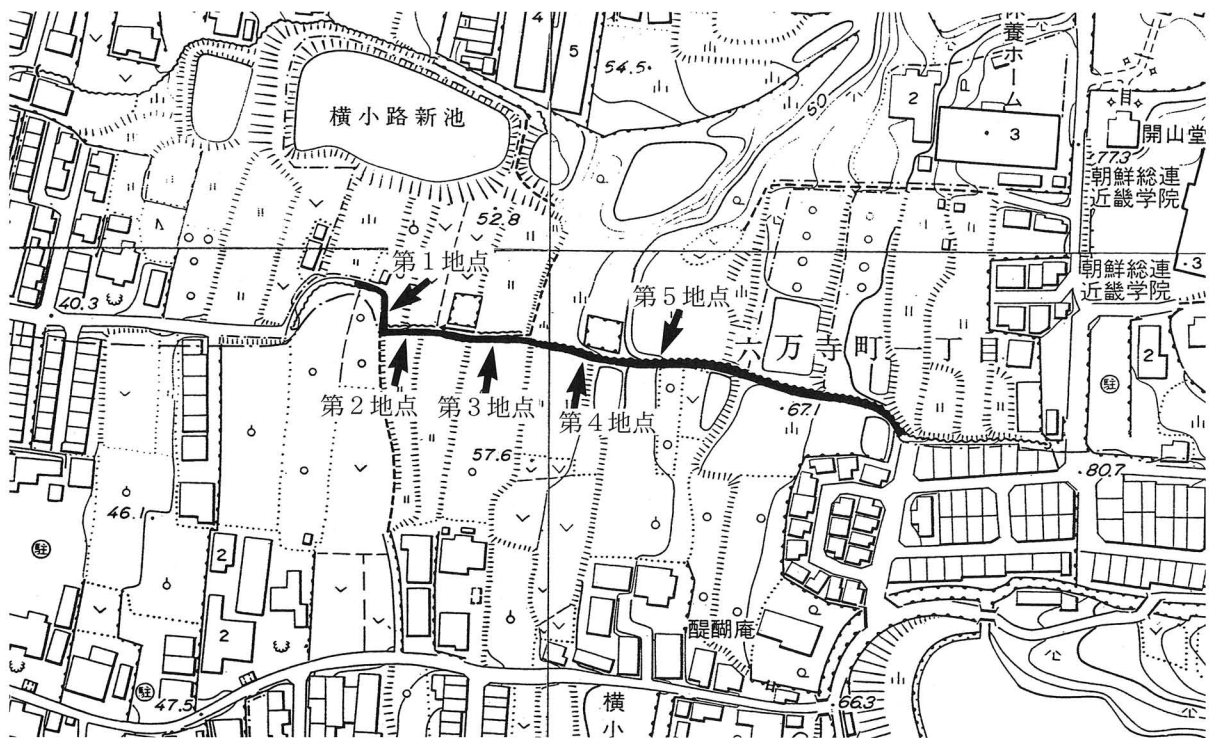
第3層 黄褐色(10YR5/1)細粒砂混じり
粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出
できなかった。

第30章 はんだう 半堂遺跡・じょうどじだに 浄土寺谷古墳群の調査

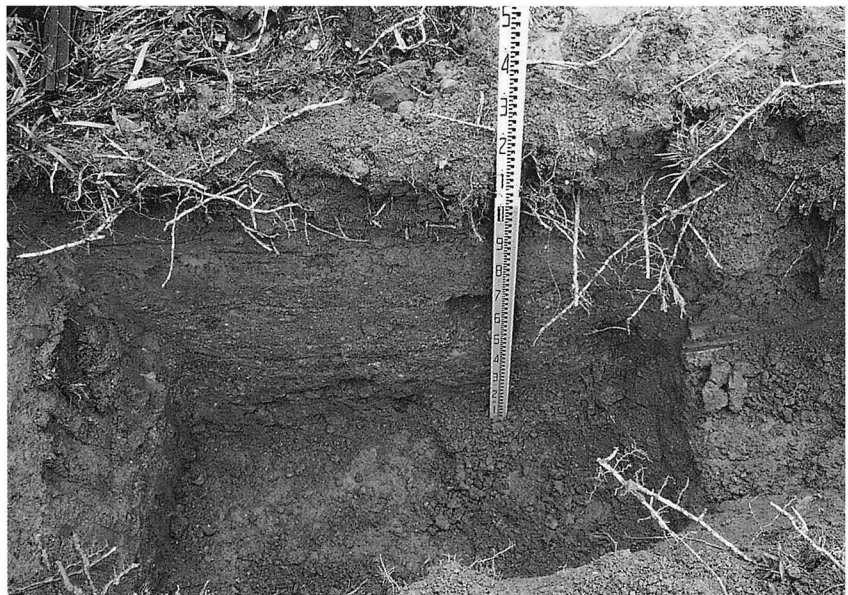
	名 称	内 容
1	事 業 名	六万寺里道整備工事
2	調 査 地 点	東大阪市六万寺町1丁目218～276-1～横小路町1丁目220～252
3	調 査 面 積	10㎡
4	調 査 期 間	平成17年3月23日～6月30日（延べ3日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で下水道埋設及び里道布設工事が実施されることになった。工事予定地は縄手南小学校の東である。当地点は半堂遺跡・浄土寺谷古墳群内に位置し、下水道部及び道路管理課と協議した結果、確認調査をおこなうことになった。調査範囲は2×1mであり、5ヶ所で行った。調査は周辺の農作物の都合により、2回に分けておこなった。



調査地点位置図 (1/2500)



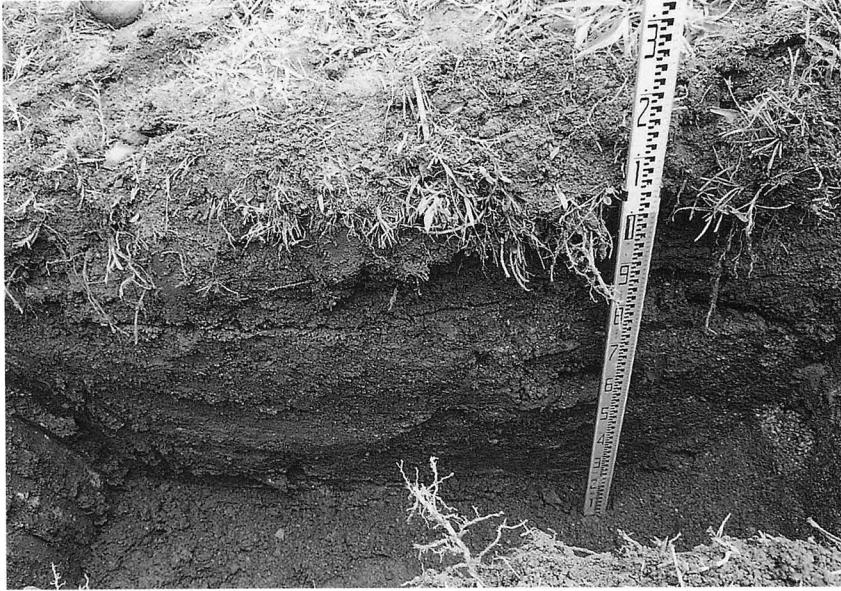
調査地遠景



第1地点土層断面



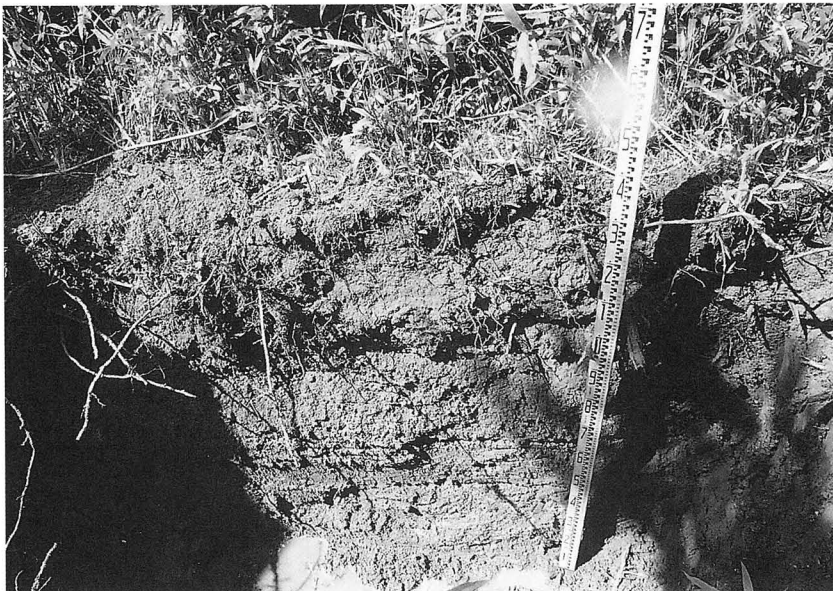
第2地点土層断面



第3地点土層断面



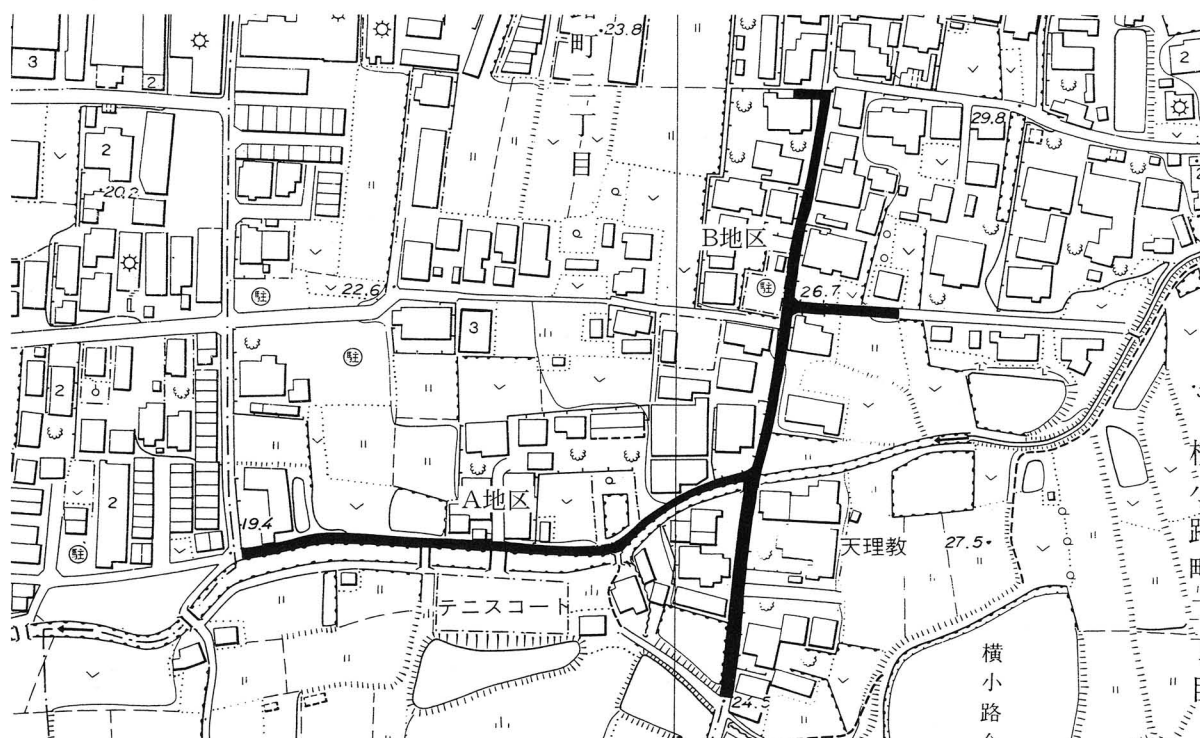
第4地点土層断面



第5地点土層断面

ば ば が わ
第31章 馬場川遺跡の第18次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成16年度公共下水道第23工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市横小路町 3 丁目721～1147
3	調 査 面 積	274㎡
4	調 査 期 間	平成17年 5 月 9 日～ 8 月 31 日 (延べ51日)
5	報 告 担 当	松田
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手南小学校の南である。当地点は馬場川遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ323mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)

1. 調査の概要

調査地区は便宜上A・B地区に分けた。A地区から調査を開始した。A・B地区と遺跡範囲外で遺物が出土した。また、B-5地区で遺構を検出した。形状から土坑と考えられるが、遺構内から遺物は出土しておらず、詳細は不明である。

2. 層序

A-1地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。中世期の遺物が出土。
- 第3層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂。
- 第4層 にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂。小礫を多く含む。

A-10地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗粒砂混じりシルト。

B-5地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 オリーブ黒色(5Y2/2)中粒砂混じりシルト質粘土。
- 第4層 暗褐色(10YR3/3)細粒砂混じりシルト。
- 第5層 にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂混じりシルト。
- 第6層 暗褐色(10YR3/3)粗粒砂混じりシルト質土。
- 第7層 にぶい黄褐色(10YR4/3)中～粗粒砂混じりシルト質土。
- 第8層 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じりシルト。
- 第9層 黒色(2.5Y2/1)細～中粒砂混じり粘質土。庄内期～布留期の遺物が出土。

B-9地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。縄文時代の遺物が出土。
- 第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト。
- 第4層 黒褐色(2.5Y3/2)シルト。

B-20地区

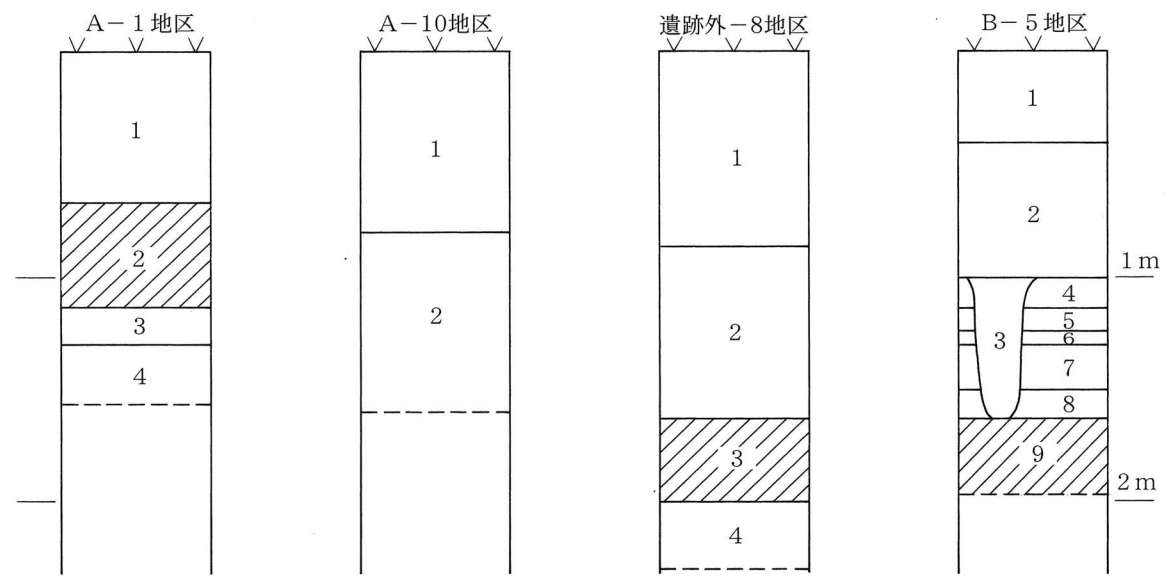
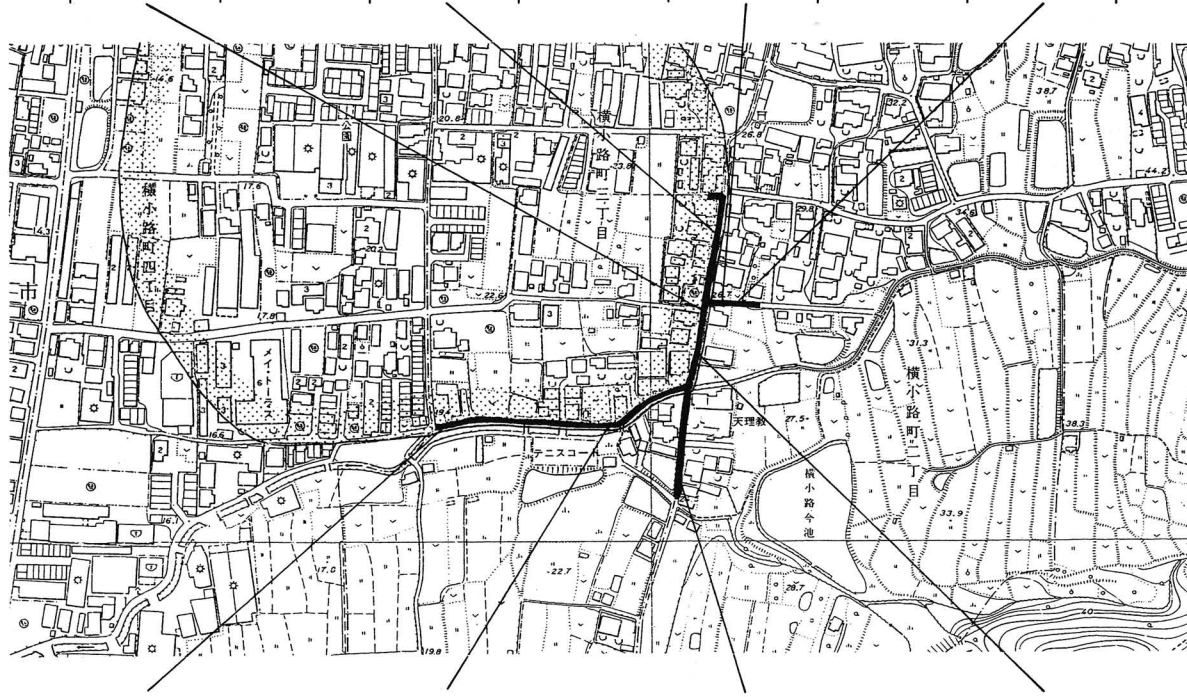
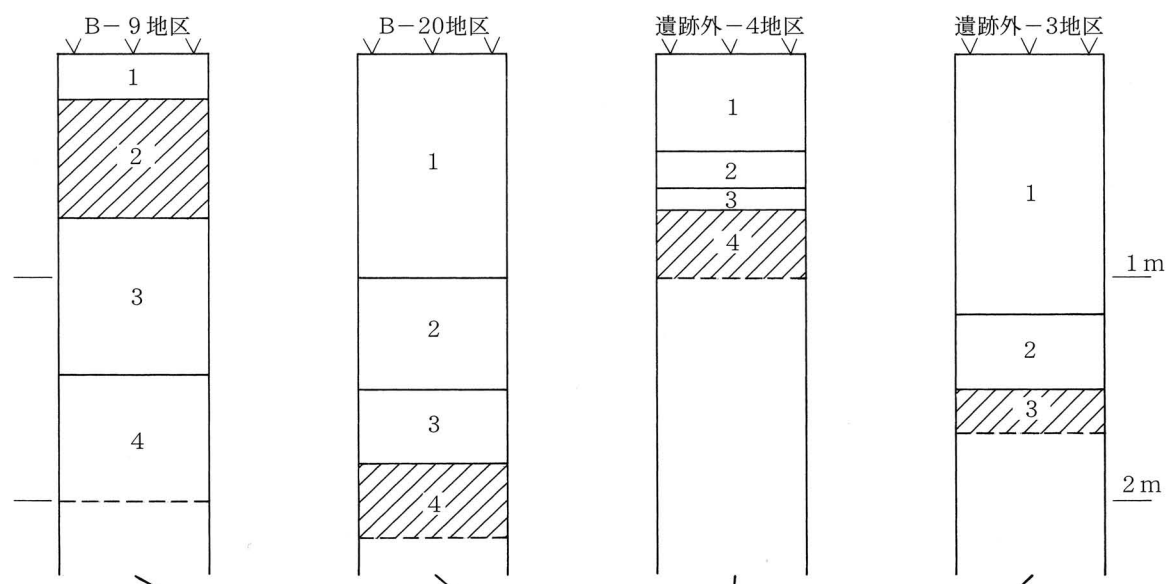
- 第1層 盛土。
- 第2層 暗褐色(10YR3/4)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。
- 第3層 オリーブ褐色(2.5Y4/4)微粒砂。
- 第4層 黒褐色(10YR3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。庄内期～布留期の遺物が出土。

遺跡外-3地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗褐色(10YR3/3)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 暗褐色(10YR3/4)細粒砂混じり粘質シルト。縄文時代の遺物が出土。

遺跡外-4地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 黄灰色(2.5Y4/1)細～中粒砂混じり粘質シルト。



土層断面柱状図

第3層 暗褐色(10YR3/3)細粒砂混じりシルト。

第4層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。縄文時代の遺物が出土。

遺跡外－8地区

第1層 盛土。

第2層 暗褐色(10YR3/3)細粒砂混じりシルト。

第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)微粒砂混じり粘質シルト。

第4層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)微粒砂混じり粘質土～粘土。

3. 出土遺物

今回の調査では、縄文土器、弥生土器、庄内式土器、布留式土器、土師器、須恵器、瓦などが出土した。細片が多く、図化できたのは15点である。須恵器は図化できるものがなかった。遺跡範囲外からも多く出土した。

1・2は縄文土器の深鉢である。1は口縁部の外面に突帯を施す。口縁端部は面をもち、内側へやや肥厚する。内外面はナデ調整する。残存高は4.4cmを測る。2は体部と口縁部の境に稜が残る。内面はナデ調整、体部外面はケズリ調整する。残存高は4.6cmを測る。縄文時代晩期のものである。1は遺跡外－3地区の第3層、2はB－9地区の第2層より出土した。

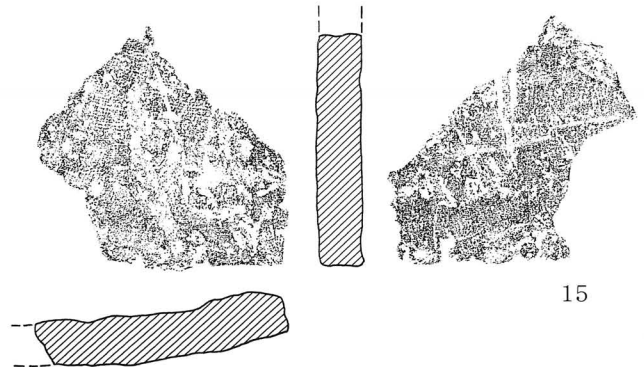
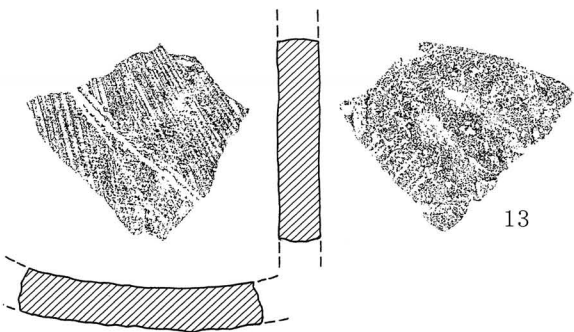
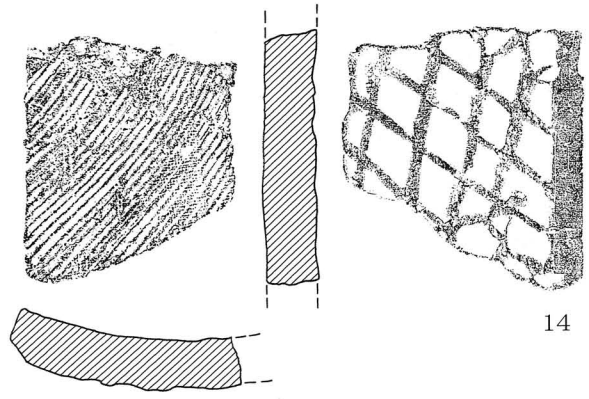
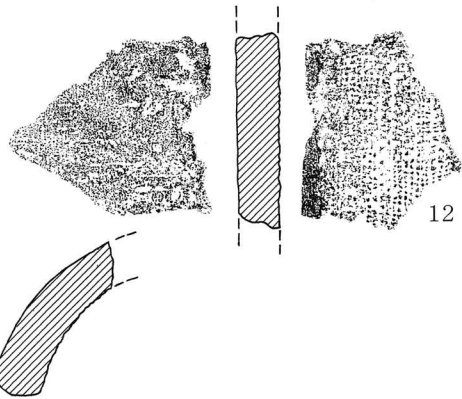
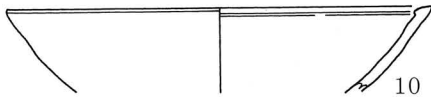
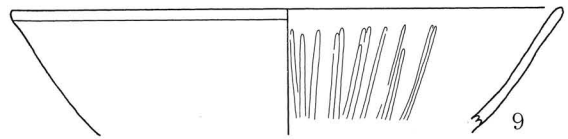
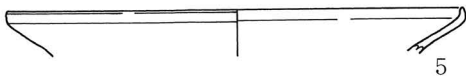
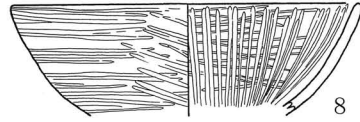
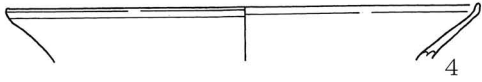
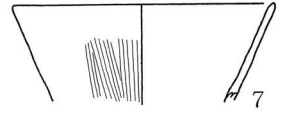
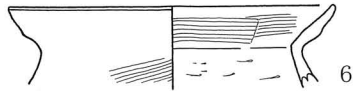
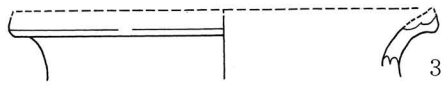
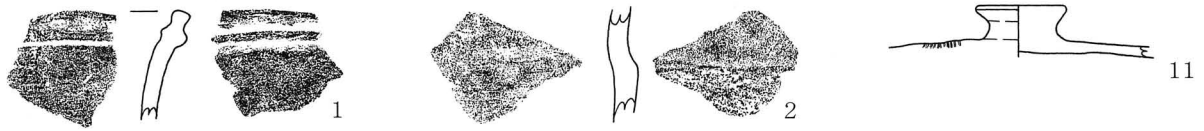
3は弥生土器の壺である。口縁部は緩やかに外反する。口縁端部は面をもつ形状であるが、剥離する。口径は16.5cm、残存高は1.8cmを測る。弥生時代後期のものである。B－5地区の第9層より出土した。

4～9は庄内式土器である。4～6は甕である。4・5は口縁部が直線的に立ち上がり、口縁端部は上方へ短くつまみ上げる。頸部は強く屈曲する形状となる。内外面はヨコナデ調整する。4は口径が18.4cm、残存高は2.3cmを測る。5は口径が17.8cm、残存高は1.9cmを測る。6は口縁部が直線的に外反し、口縁端部は丸く終わる。体部の張りは少ない。体部内面はヘラケズリ調整、外面はハケメ調整する。口縁部内面はヨコナデ調整の後、横方向のハケメ調整する。口径は12.6cm、残存高は3.3cmを測る。7は長頸壺である。口縁部は直線的に伸びる。口縁端部は丸く終わる。内面は風化のため調整法が不明である。外面はハケメ調整する。口径は10.2cm、残存高は4.0cmを測る。8・9は高杯である。8は口縁部が内弯し、口縁端部は丸く終わる。椀形の高杯である。内外面はヘラミガキ調整する。内面に放射状の暗文を施す。口径は12.8cm、残存高は5.2cmを測る。9は口縁部がやや直線的に延びる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。内面に放射状の暗文を施す。口径は21.4cm、残存高は5.0cmを測る。4・5・9はA－14地区、6はB－13地区、7は遺跡外－6地区、8はB－5地区の第9層より出土した。

10は布留式土器の甕である。口縁部は内湾する。口縁端部は面を持ち、内側に肥厚する。内外面はヨコナデ調整する。口径は16.6cm、残存高は3.4cmを測る。B－20地区の第4層より出土した。

11は土師器の蓋である。天井部に偏平なつまみを持つ。内面はナデ調整、外面はヘラミガキ調整する。奈良時代のものである。つまみ径は3.6cm、残存高は2.1cmを測る。B－9地区より出土した。

12～15は瓦である。12は丸瓦である。凹面にやや粗い布目圧痕が残る。凸面はハケメ調整する。残存長は7.5cm、残存幅は4.5cm、厚さは2.0cmを測る。13～15は平瓦である。13は凹面を布目圧痕の上にハケメ調整する。凸面はナデ調整する。残存長は7.8cm、残存幅は9.4cm、厚さは1.6cmを測る。14は凹面を布目圧痕の上に粗いハケメ調整する。凸面は大きい格子のタタキ調整する。残存長は9.0cm、残存幅は9.0cm、厚さは2.0cmを測る。15は凹面に布目圧痕が残る。凸面はナデ調整する。残存長は9.0cm、残存幅は9.5cm、厚さは1.7cmを測る。14は白鳳～奈良時代、他は中世期のもので



0 20cm

出土遺物実測図

ある。12はA-2地区、13・15はB-5地区、14はA-9地区より出土した。

4. まとめ

馬場川遺跡は縄文時代晩期の集落跡として著名な遺跡であるが、弥生時代～古墳時代の遺物も多く



A地区調査地遠景

出土している。調査地区近隣の第12次調査では弥生時代後半～古墳時代初頭の遺物が確認されている。今回の調査では、庄内期～布留期の遺物が多くみられた。特にB-5地区を中心に多く出土しており、周辺に当時期の集落が広がっている可能性がある。また、瓦も出土しており、白鳳～奈良時代、そして中世期の寺院関連の遺構が存在することも考えられる。

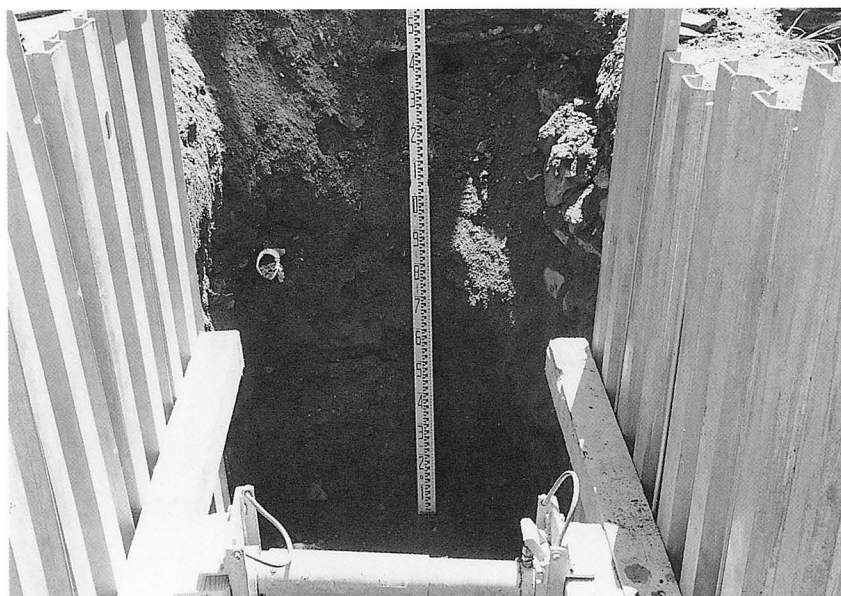


A地区調査状況

遺跡範囲外で立会調査し、縄文時代晩期の遺物包含層を確認した。掘削土からも庄内期～布留期の遺物を多く採集した。土層観察では確認できなかったが、周辺に当時期の遺物包含層も存在する可能性が高い。馬場川遺跡の範囲は東と南側へさらに広がると考えられる。



A - 1 地区土層断面



A - 10地区土層断面



B 地区調査地遠景



B-5地区土層断面



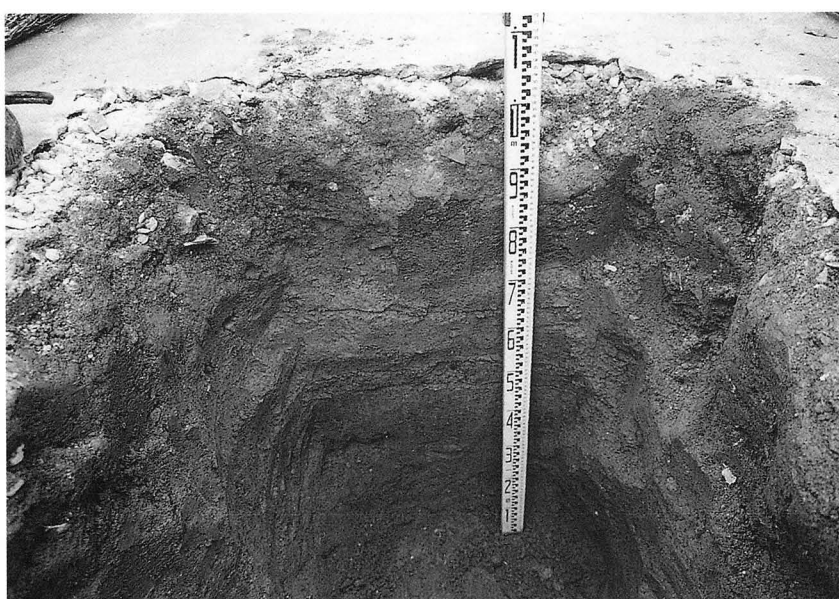
B-9地区土層断面



B-20地区土層断面



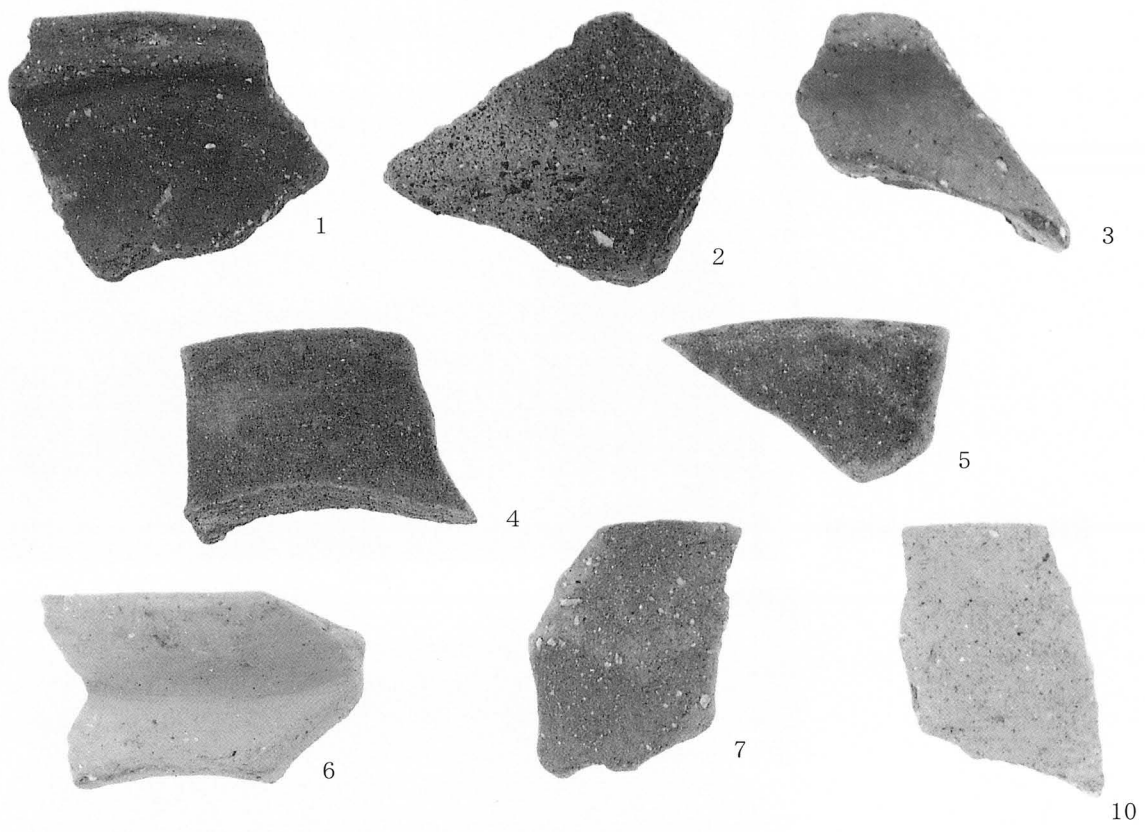
遺跡外-3地区土層断面



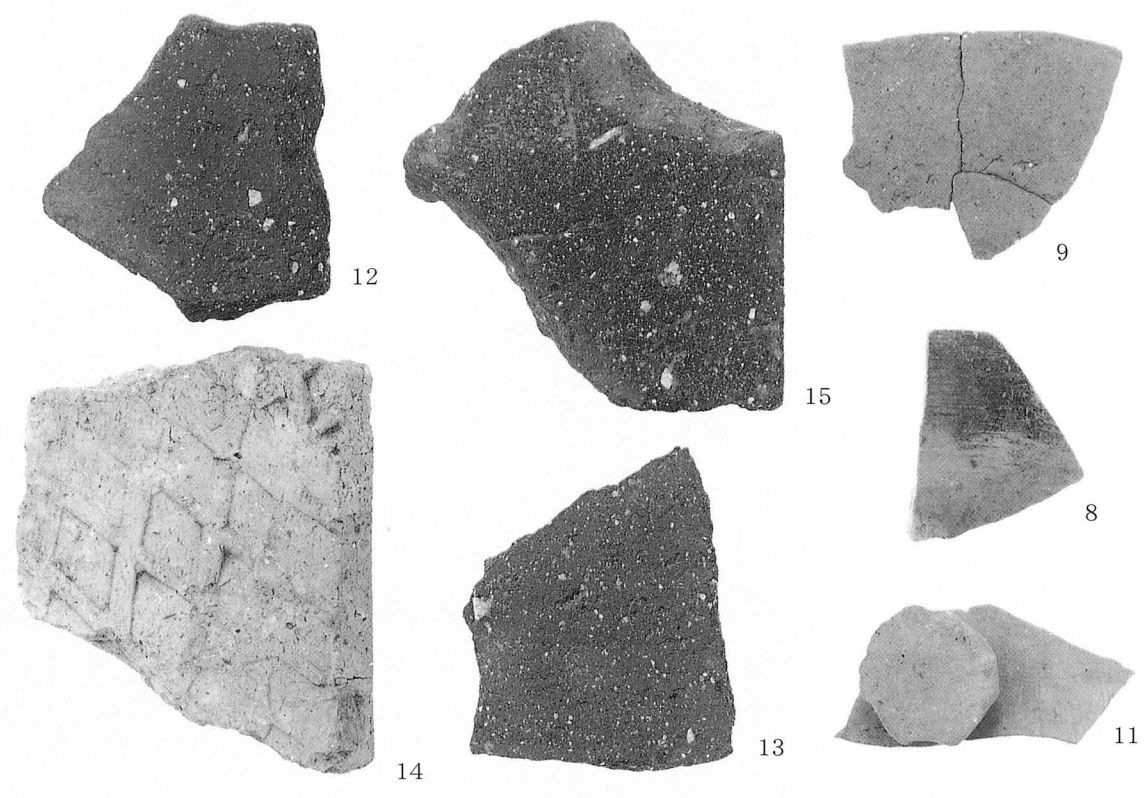
遺跡外-4地区土層断面



遺跡外-8地区土層断面



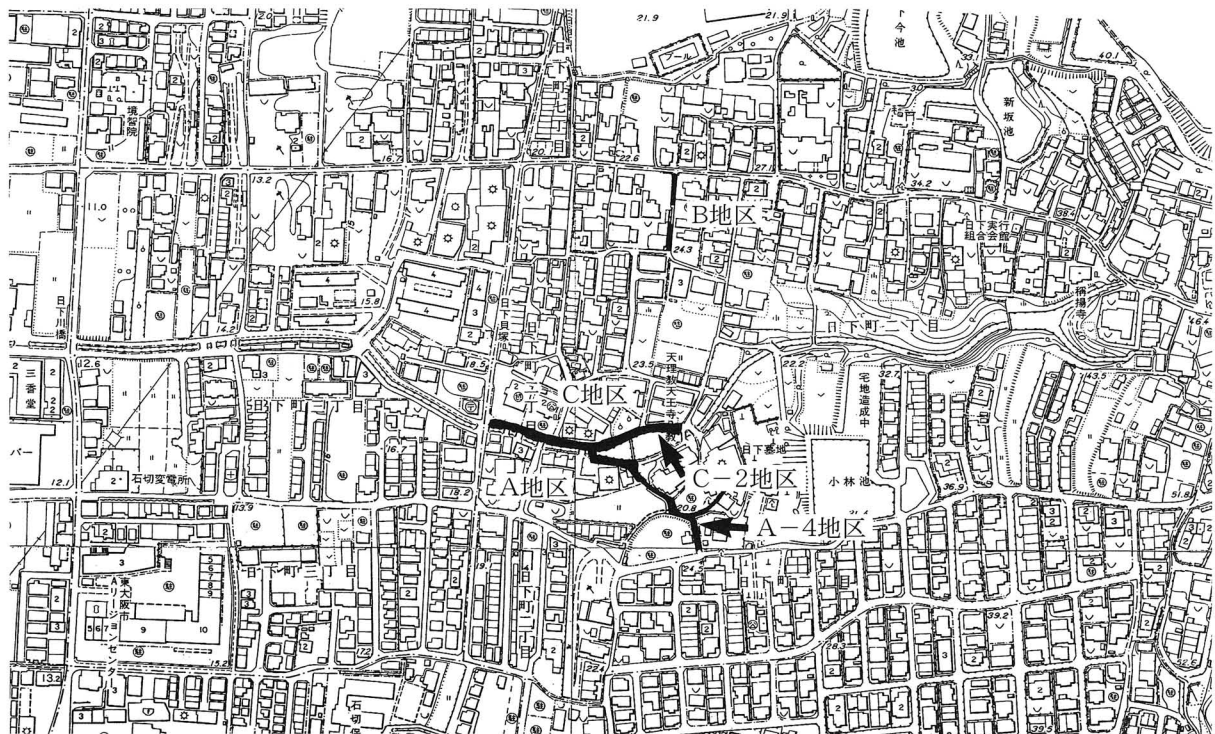
出土遺物（縄文土器・庄内式土器・古留式土器）



出土遺物（庄内式土器・土師器・瓦）

くさか ば いしこり
第32章 日下・馬場遺跡・石凝寺跡の調査

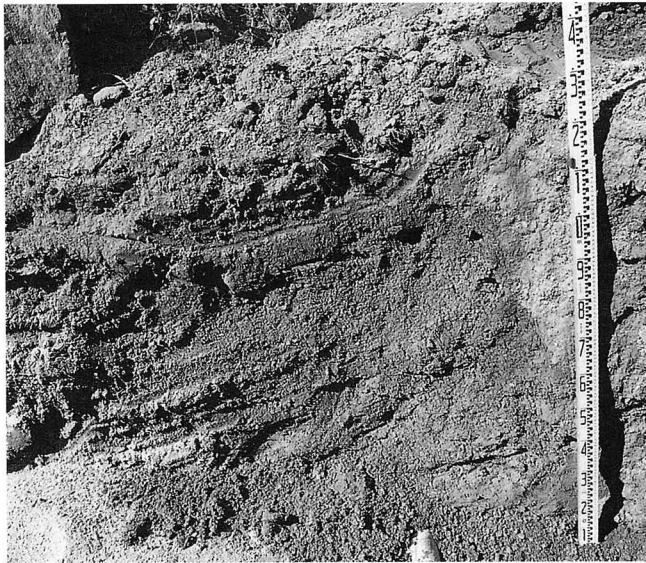
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成16年度公共下水道第33工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市日下町 2 丁目1431-1~1451他
3	調 査 面 積	256㎡
4	調 査 期 間	平成17年 8 月 5 日~10月27日 (延べ18日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は孔舎衛東小学校の南である。当地点は日下・馬場遺跡・石凝寺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ277mの間であり、開削工法と一部推進工法である。



調査地点位置図 (1/5000)



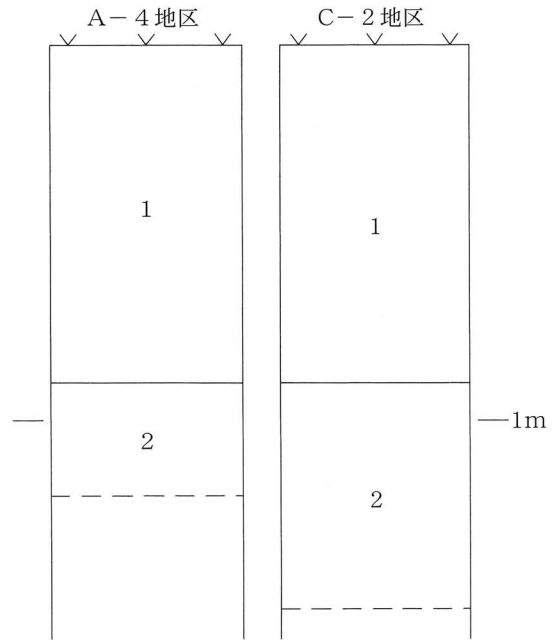
A 地区調査地遠景



A-4 地区土層断面



C-2 地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-4 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 灰オリーブ色(7.5Y4/2)細粒砂
混じりシルト。

C-2 地区の層序

第1層 盛土。

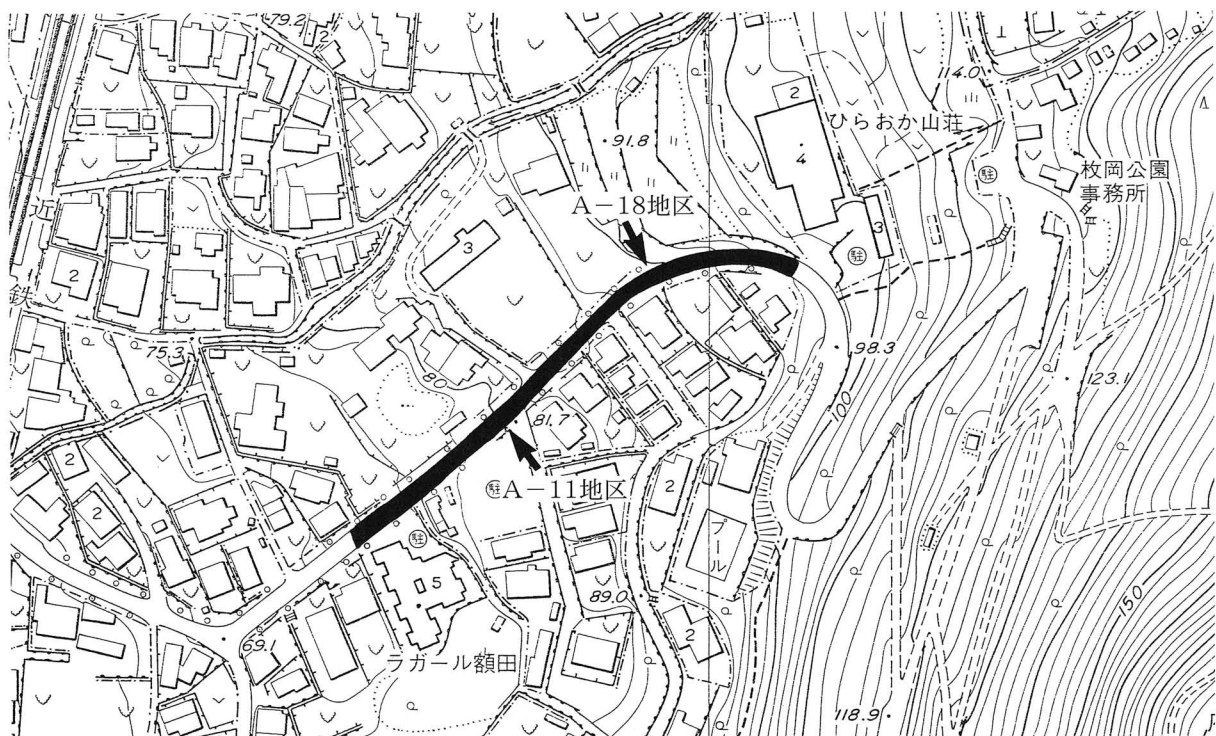
第2層 オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂
混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出
できなかった。

やま 第33章 みかん山古墳群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成16年度公共下水道第52工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東豊浦町985～2165
3	調 査 面 積	179㎡
4	調 査 期 間	平成17年6月22日～8月29日（延べ19日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線額田駅の東である。当地点はみかん山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ211mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



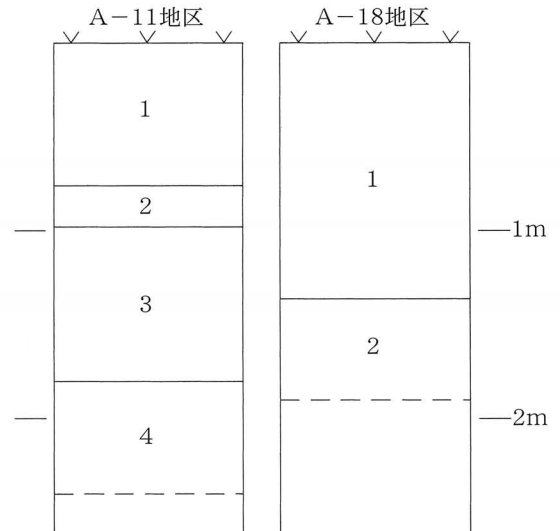
A地区調査地遠景



A-11地区土層断面



A-18地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-11地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(2.5Y3/1)シルト。
- 第3層 オリーブ黒色(7.5Y3/2)粘質シルト。
- 第4層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質シルト。

A-18地区の層序

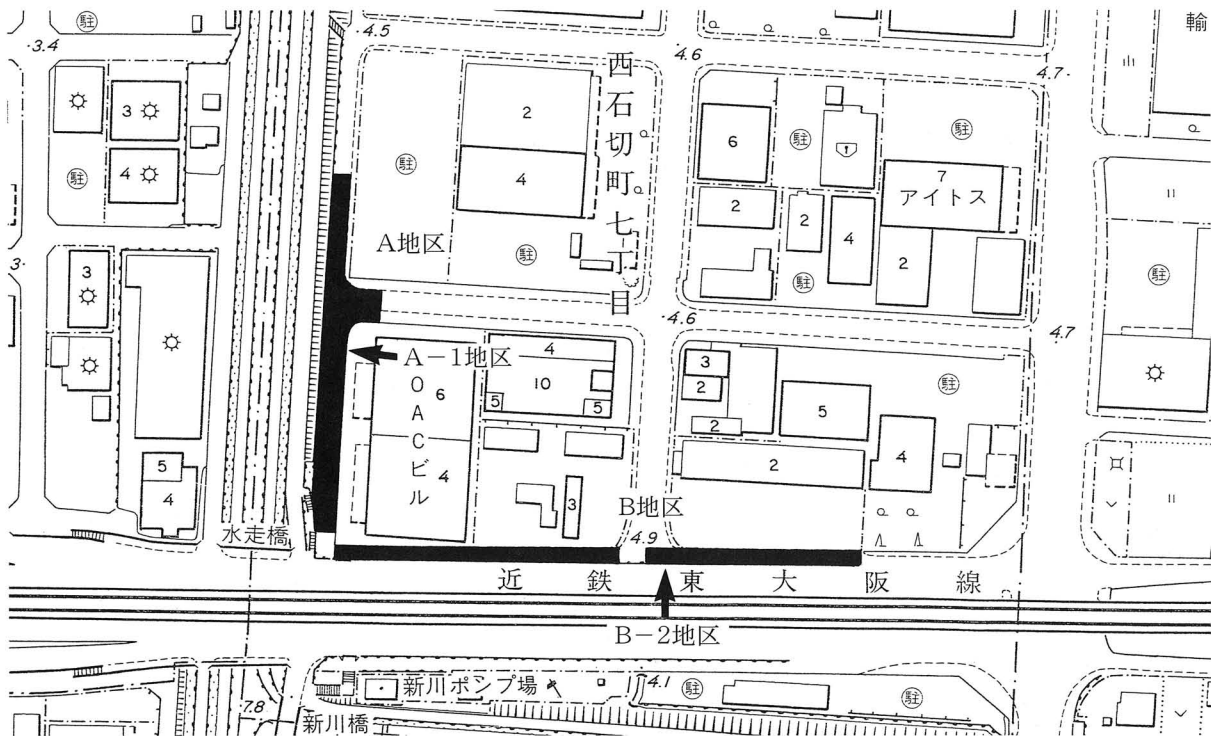
- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ黒色(5Y3/2)細粒砂混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

きとらがわ
第34章 鬼虎川遺跡の調査

名 称	内 容
1 事業名	平成16年度公共下水道第207工区管きよ築造工事
2 調査地点	東大阪市西石切町7丁目193～200、201
3 調査面積	176㎡
4 調査期間	平成17年5月16日～6月28日(延べ13日)
5 報告担当	才原
6 調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄東大阪線新石切駅の西である。当地点は鬼虎川遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ201mの間であり、開削工法と一部推進工法である。



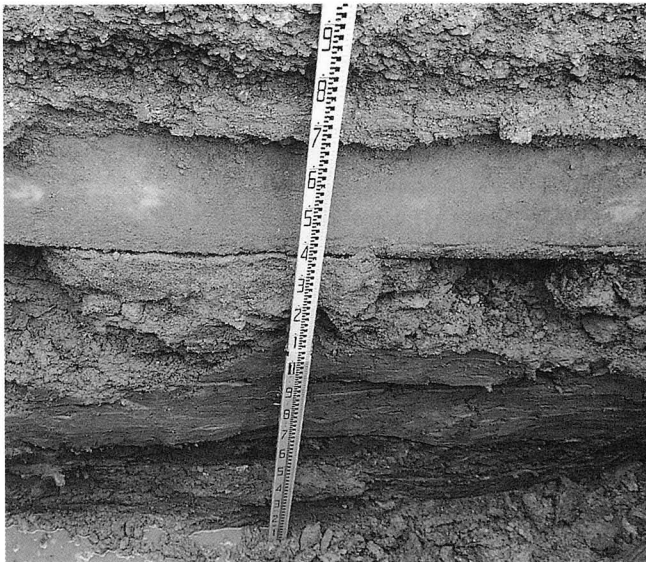
調査地点位置図 (1/2500)



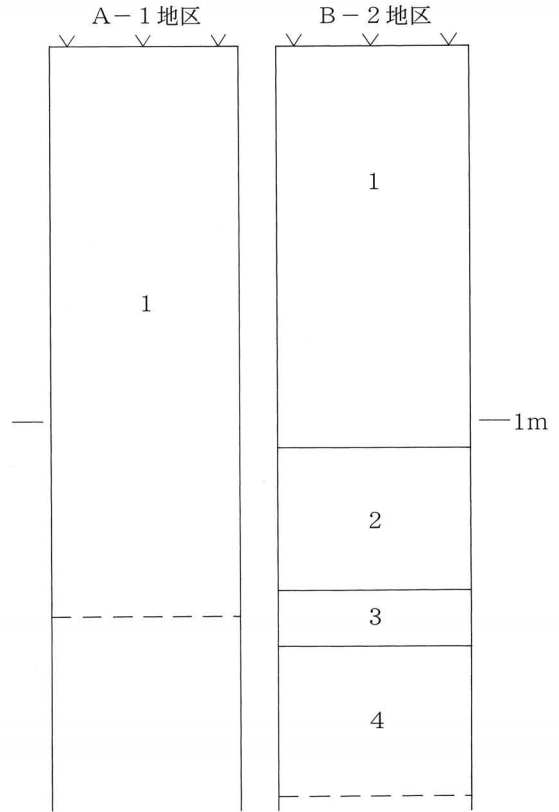
A 地区調査地遠景



A-1 地区土層断面



B-2 地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

B-2 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗緑灰色(5G4/1)粘土。

第3層 緑黒色(5G2/1)細粒砂混じり粘土。

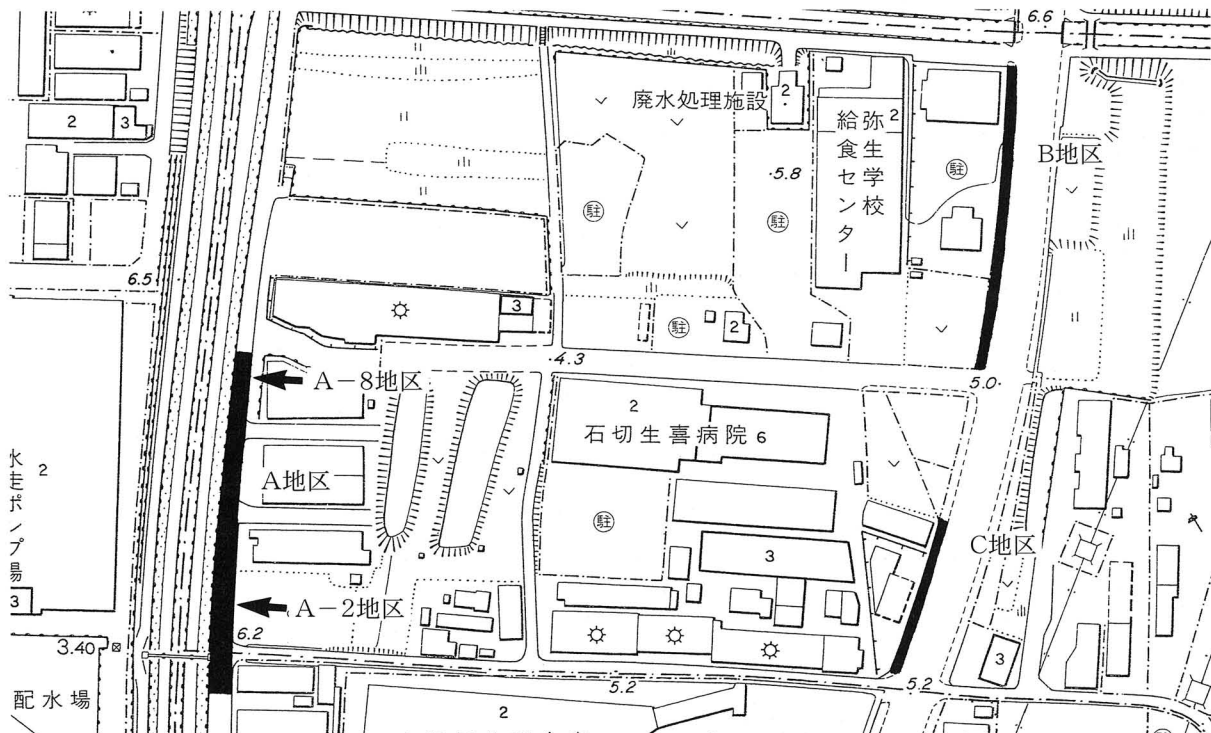
第4層 暗緑灰色(5G4/1)細粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

きとらがわ
第35章 鬼虎川遺跡の調査

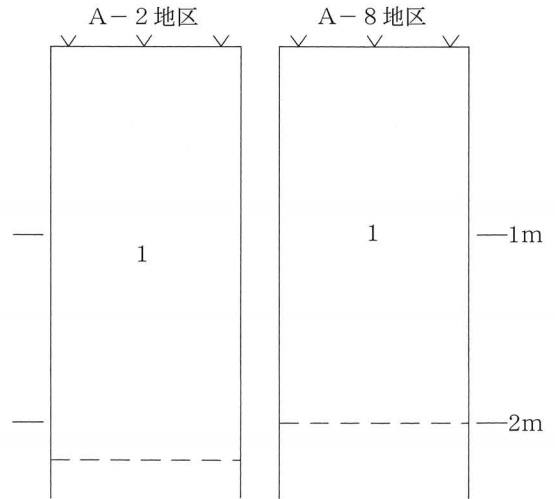
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成16年度公共下水道第205工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市弥生町1359～1361、1337～1508
3	調 査 面 積	243㎡
4	調 査 期 間	平成17年8月23日～9月8日（延べ7日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄東大阪線新石切駅の西である。当地点は鬼虎川遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ286mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



A 地区調査地遠景



土層断面柱状図



A-2 地区土層断面



A-8 地区土層断面

1. 調査の概要

A-2 地区の層序

第1層 盛土。

A-8 地区の層序

第1層 盛土。

2. まとめ

A 地区で立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。B・C 地区は過去に調査を終了しているため、立会調査は実施しなかった。

東大阪市下水道事業関係
発掘調査概要報告

－平成17年度－

平成18年3月31日

発行所 東大阪市教育委員会

印刷所 グランド印刷株式会社

